

葛飾区男女平等に関する
意識と実態調査結果
(速報版)

令和 2 年 9 月

葛 飾 区

目 次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査対象	3
3 調査方法	3
4 調査時期	3
5 回収結果	3
6 調査項目	4
7 報告書の見方	5
第2章 調査結果	7
1 基本属性	9
(1) 性別	9
(2) 年齢	9
(3) 結婚の有無	10
(4) 共働きの有無	11
(5) 子どもの有無	12
2 男女平等	13
(1) 男女平等社会の進捗	13
(2) 男女の不平等を感じる事	15
(3) 男女の地位の平等感	17
3 結婚観	20
(1) 結婚観	20
4 家庭生活	23
(1) 家事などの分担	23
(2) 男性の家庭参画の度合い	26
(3) 男性の家庭参画に必要な事	28
5 就労	29
(1) 職業	29
(2) 職場での男女差別	30
(3) 女性の働き方についての意識	32
(4) 女性の再就職に対する支援	35
(5) 育児休業・介護休業の利用状況	37
(6) 育児休業・介護休業の利用期間	39
(7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由	41
6 ワーク・ライフ・バランス	44
(1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況	44
(2) 優先度の希望と現実	46
(3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な事	49
7 セクシュアル・ハラスメント	50
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	50
(2) 相談の有無	56

(3) 相談先	58
(4) 相談しなかった、できなかった理由	60
8 ドメスティック・バイオレンス	62
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験の有無	62
(2) 相談の有無	67
(3) 相談先	69
(4) 相談しなかった、できなかった理由	71
(5) ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策.....	73
9 性の表現	74
(1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識	74
10 性の多様性	76
(1) 性自認について悩んだことの有無	76
(2) L G B Tの認知状況	77
11 健康	78
(1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと	79
12 学校教育	80
(1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと.....	80
13 女性の社会参画	82
(1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価	82
(2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因	84
(3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと	85
14 防災	86
(1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと.....	86
15 施策や制度など	87
(1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況.....	87
(2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向	88
(3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策	89
16 自由回答	91
(1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望	91

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

「葛飾区男女平等推進計画（第5次）」の改定にあたり、区民の男女平等に関する意識と実態について把握、分析し、計画改定の基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 調査対象

葛飾区に居住する満18歳以上の男女3,000人住民基本台帳より無作為抽出

3 調査方法

郵送配布－郵送回収法（督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付）

※ただし、回答者がインターネットからでも回答できるよう専用サイトを設けた。

4 調査時期

令和2年6月25日～7月13日

5 回収結果

発送（配布）数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,117	37.2%

6 調査項目

調査項目	問番号	質問内容
男女平等	問 1	男女平等社会の進度（付問：男女の不平等を感じる事）
	問 2	男女の地位の平等感
結婚観	問 3	結婚観
家庭生活	問 4	家事などの分担
	問 5	男性の家庭参画の度合い（付問：回答の理由）
	問 6	男性の家庭参画に必要なこと
就労	問 7	職業（付問：職場での男女差別）
	問 8	女性の働き方についての意識（付問：回答の理由）
	問 9	女性の再就職に対する支援
	問 10	育児休業・介護休業の利用状況 （付問：育児休業・介護休業の期間、利用しなかった理由）
ワーク・ライフ・バランス	問 11	ワーク・ライフ・バランスの認知状況
	問 12	優先度の希望と現実
	問 13	ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
セクシュアル・ハラスメント	問 14	セクシュアル・ハラスメントの経験の有無
	問 15	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
ドメスティック・バイオレンス	問 16	ドメスティック・バイオレンスの経験の有無
	問 17	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
	問 18	ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
性の表現	問 19	性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
性の多様性	問 20	性自認について悩んだことの有無（付問：悩んだ内容）
	問 21	LGBTの認知状況
健康	問 22	性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
学校教育	問 23	男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
女性の社会参画	問 24	区議会議員等に占める女性議員数の評価
	問 25	政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
	問 26	政治や行政への女性の参画推進に必要なこと
防災	問 27	地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
施策や制度など	問 28	葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況
	問 29	葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
	問 30	男女平等社会実現のために充実すべき施策
	問 31	葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望＜自由回答＞
基本属性	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	結婚の有無（付問：共働きの有無）
	F 4	子どもの有無

7 報告書の見方

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率 (%) で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN (Number of case)、それ以外の場合にはnと表記しています。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合 (例えば99.9%、100.1%) があります。
- (3) 性別、年代別などは、無回答の方がいるため、合計が全体とは一致しません。
- (4) 回答者が2つ以上回答することのできる質問 (複数回答) については、%の合計は100%にならないことがあります。
- (5) 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略している場合があります。
- (6) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち回答者数が20未満の場合、全体結果と比率に大きな差がある選択肢であっても、本文で触れていないところがあります。

第 2 章 調査結果

1 基本属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

【全体】

「女性」が55.7%、「男性」が42.8%となっています。(図表 1-1)

図表 1-1 性別 (全体)



(2) 年齢

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)

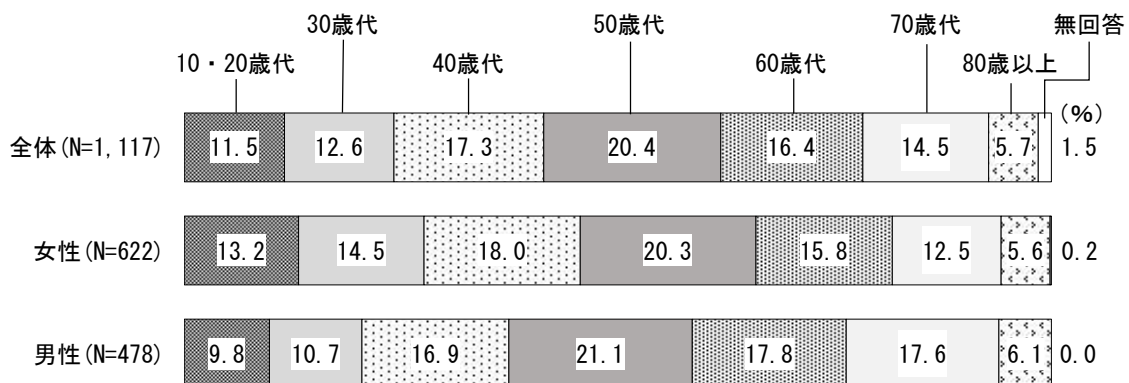
【全体】

全体では、「50 歳代 (20.4%)」が最も多く、「40 歳代 (17.3%)」、「60 歳代 (16.4%)」が続いています。(図表 1-2)

【性別】

性別にみると、女性は「50 歳代 (20.3%)」が最も多く、「40 歳代 (18.0%)」が続いています。男性は「50 歳代 (21.1%)」が最も多く、「60 歳代 (17.8%)」、「70 歳代 (17.6%)」が続いています。(図表 1-2)

図表 1-2 年齢 (全体、性別)



(3) 結婚の有無

F3 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

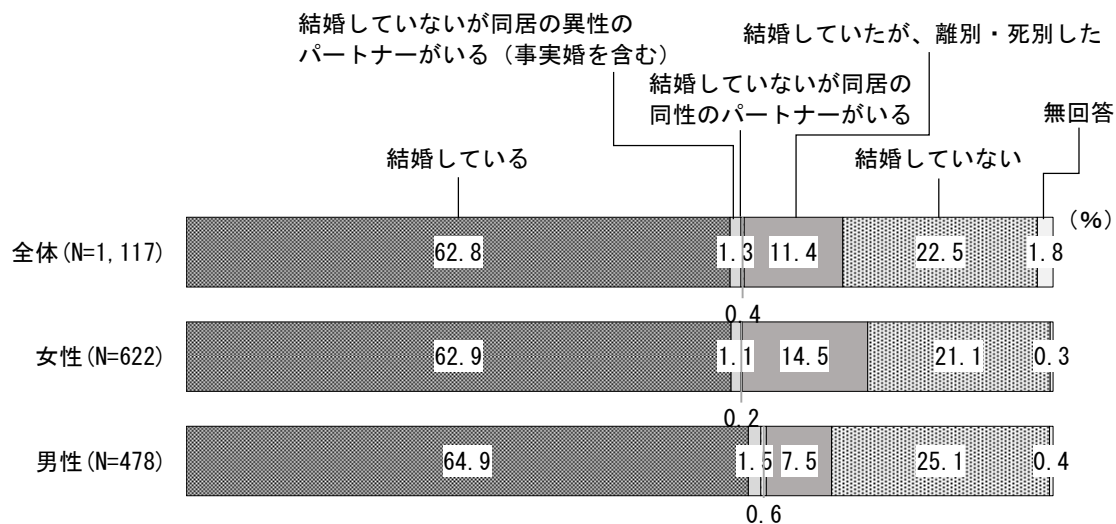
【全体】

全体では、「結婚している (62.8%)」が最も多く、「結婚していない (22.5%)」、「結婚していたが、離別・死別した (11.4%)」が続いています。(図表 1-3)

【性別】

性別にみると、男女ともに「結婚している (女性：62.9%、男性：64.9%)」が最も多く、「結婚していない (女性：21.1%、男性 25.1%)」、「結婚していたが、離別・死別した (女性：14.5%、男性 7.5%)」が続いています。(図表 1-3)

図表 1-3 結婚の有無 (全体、性別)



(4) 共働きの有無

F3で1～3のいずれかをお答えの方に
 F3-1 あなたの世帯は共働きですか。(○は1つだけ)

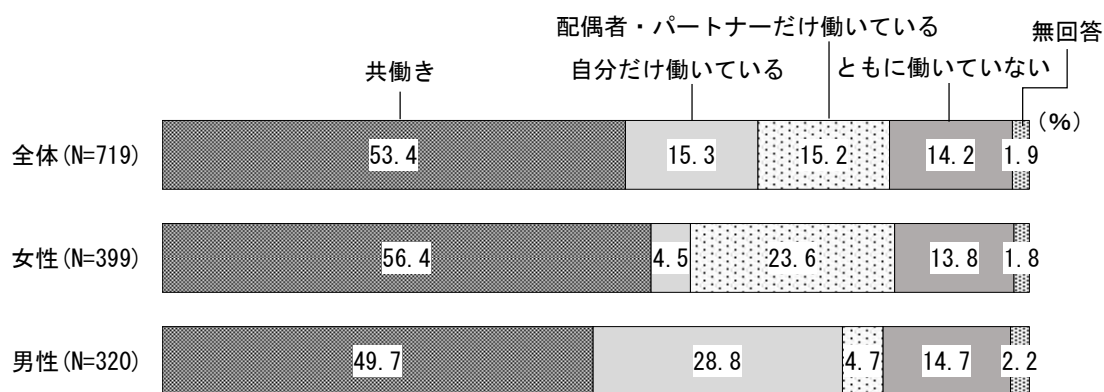
【全体】

全体では、「共働き (53.4%)」が最も多く、「自分だけ働いている (15.3%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている (15.2%)」「ともに働いていない (14.2%)」が続いています。
 (図表 1-4)

【性別】

性別にみると、男女ともに「共働き (女性：56.4%、男性：49.7%)」が最も多くなっています。次いで女性は「配偶者・パートナーだけ働いている」が 23.6%、男性は「自分だけ働いている」が 28.8%で続いています。(図表 1-4)

図表 1-4 共働きの有無 (全体、性別)
 <結婚している人、結婚していないが同居のパートナーがいる人>



(5) 子どもの有無

F 4 お子さんはいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

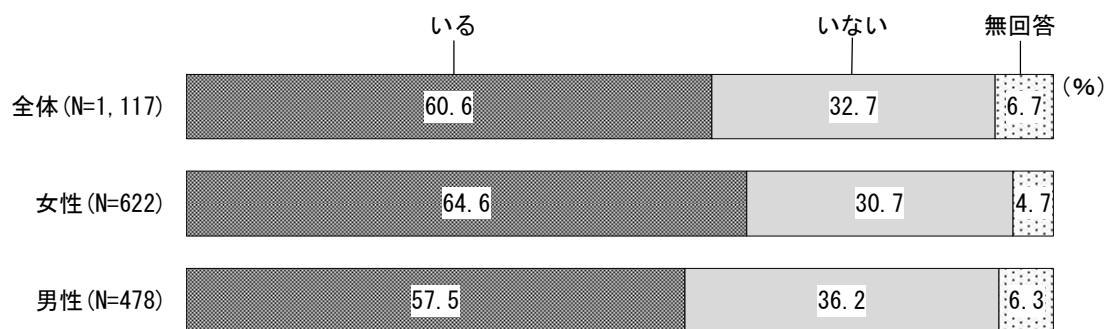
【全体】

全体では、「いる」が60.6%、「いない」が32.7%となっています。(図表 1-5)

【性別】

性別にみると、「いる」は女性が64.6%、男性が57.5%となっています。(図表 1-5)

図表 1-5 子どもの有無 (全体、性別)



2 男女平等

(1) 男女平等社会の進捗

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

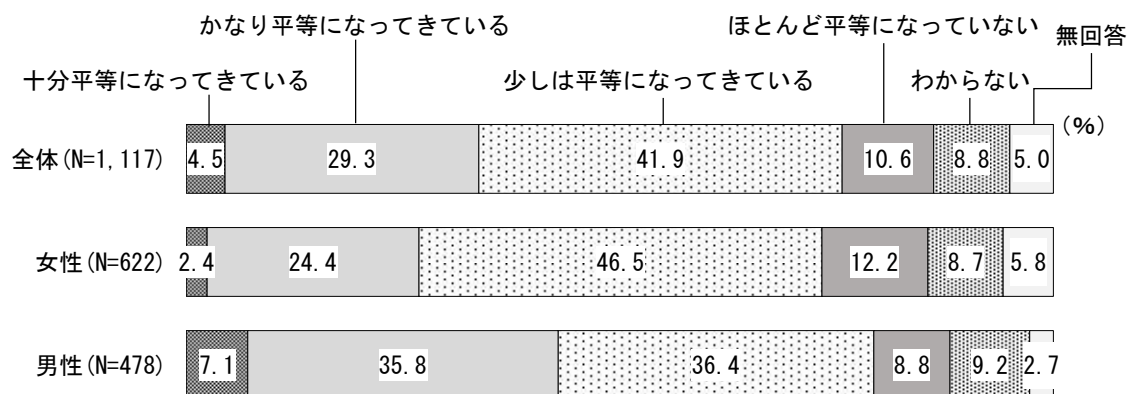
全体では、「少しは平等になってきている (41.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている (29.3%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は33.8%です。一方、「ほとんど平等になっていない」は10.6%となっています。(図表 2-1-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「少しは平等になってきている (女性：46.5%、男性 36.4%)」が最も多くなっています。

「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、男性 (42.9%) が女性 (26.8%) を 16.1 ポイント上回っています。一方、「ほとんど平等になっていない」は女性 (12.2%) が男性 (8.8%) を 3.4 ポイント上回っています。(図表 2-1-1)

図表 2-1-1 男女平等社会の進捗 (全体、性別)

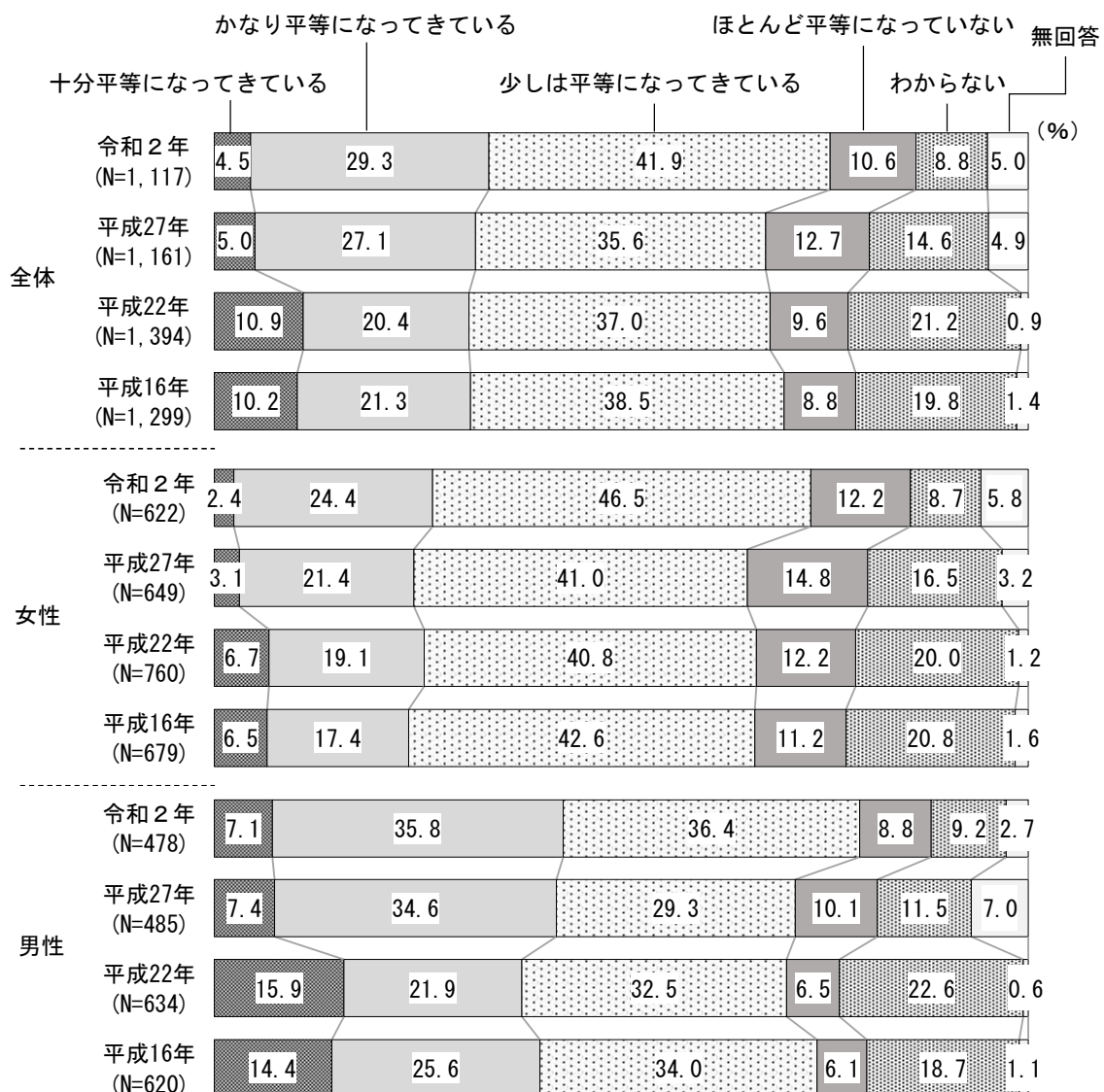


【平成 27 年調査、平成 22 年調査、平成 16 年調査との比較】

平成 27 年調査、22 年調査、16 年調査と比較すると、全体では、「十分平等になってきている (4.5%)」が、過去調査 (平成 27 年調査 : 5.0%、平成 22 年調査 : 10.9%、平成 16 年調査 : 10.2%) に比べて減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計 (33.8%) は、過去調査と大きく変わりません。一方「ほとんど平等になっていない (10.6%)」は平成 27 年調査よりも減っていますが、1 割を超えています。

性別にみると、女性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計 (26.8%) がやや増え、「ほとんど平等になっていない (12.2%)」が減っています。男性は「十分平等になってきている (7.1%)」が減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計 (42.9%) はやや増えています。(図表 2-1-2)

図表 2-1-2 男女平等社会の進捗 (全体、性別、平成 27 年・平成 22 年・平成 16 年調査)



(2) 男女の不平等を感じること

問1で3～4のいずれかをお答えの方に

問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。

(○はあてはまるものすべて)

【全体】

男女平等社会の進捗について、「少しは平等になってきている」「ほとんど平等になっていない」と回答した人に、不平等を感じる点をたずねました。

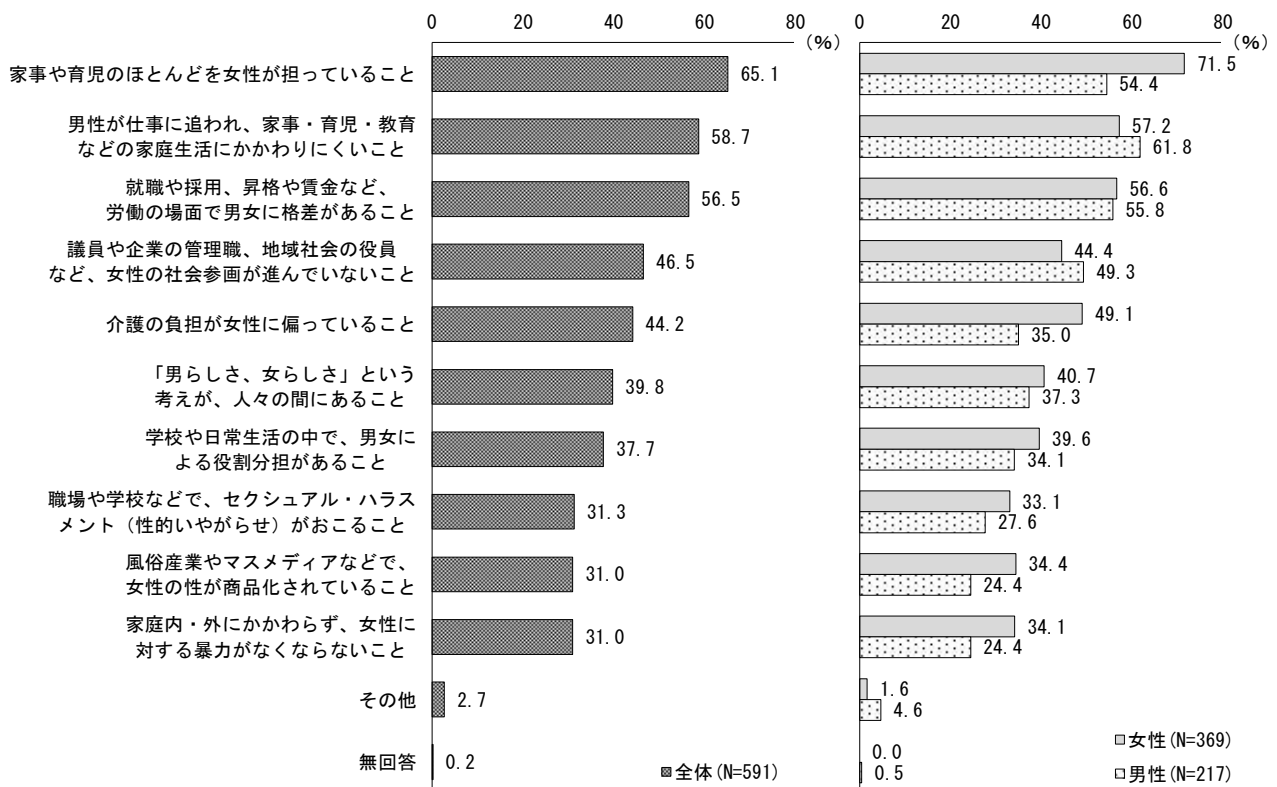
全体では、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (65.1%)」が最も多く、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと (58.7%)」、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること (56.5%)」が続いています。(図表 2-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (71.5%)」が最も多く7割を超えています。男性は「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと (61.8%)」が最も多く、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること (55.8%)」が続いています。

男女の違いをみると、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (女性：71.5%、男性：54.4%)」、「介護の負担が女性に偏っていること (女性：49.1%、男性：35.0%)」で、女性が男性をそれぞれ17.1ポイント、14.1ポイント上回っています。(図表 2-2-1)

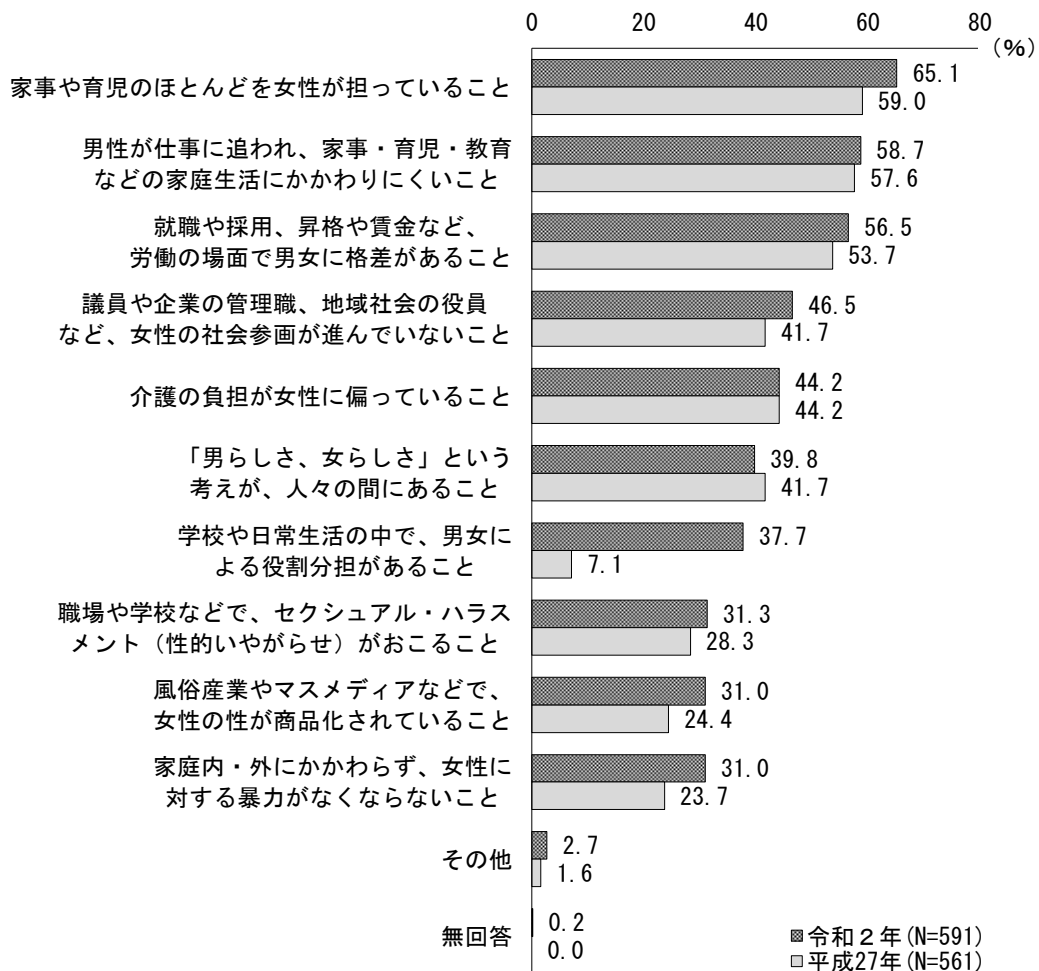
図表 2-2-1 男女の不平等を感じること (全体、性別：複数回答)
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「学校や日常生活の中で男女による役割分担があること」が増加しています。(図表 2-2-2)

図表 2-2-2 男女不平等を感じる事（全体、平成 27 年調査）
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



(3) 男女の地位の平等感

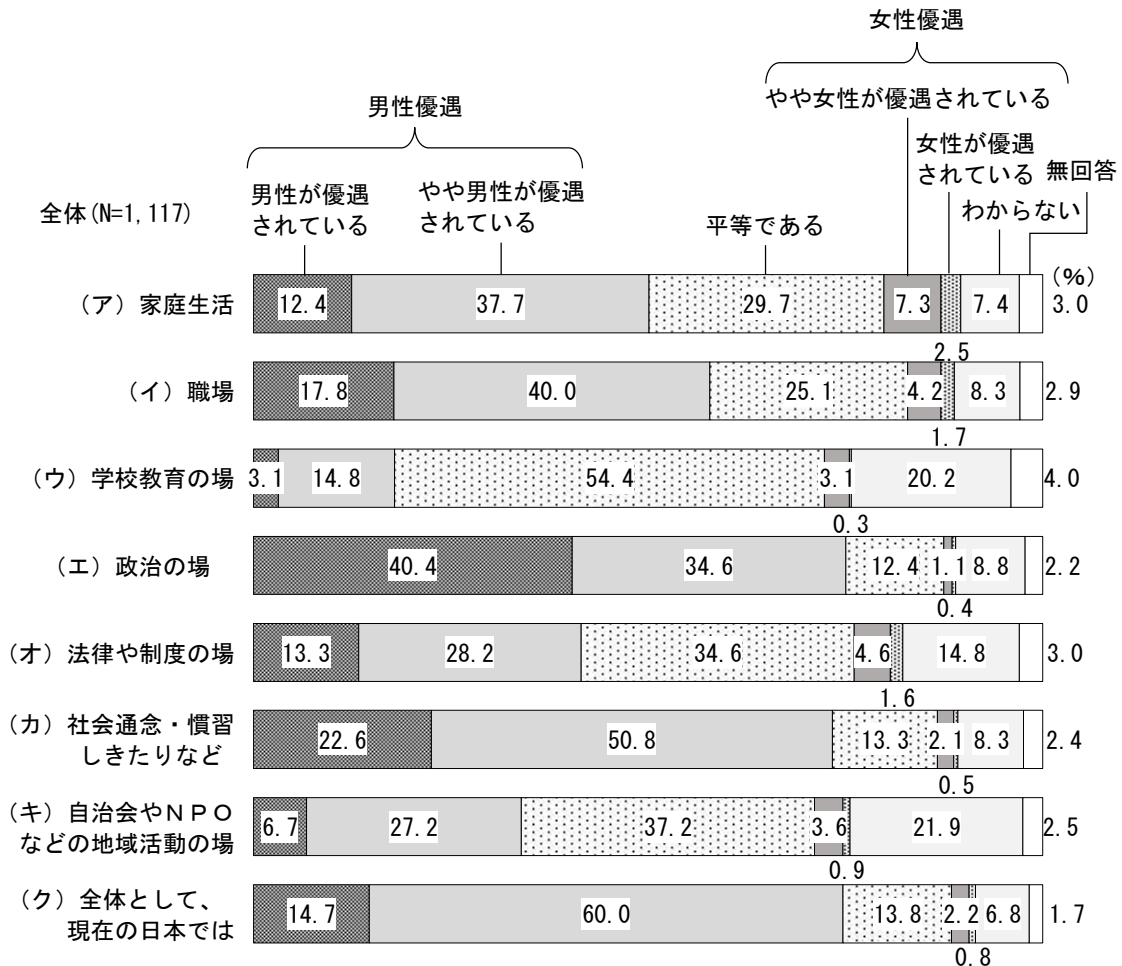
問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

7つの分野および『全体として、現在の日本では』について男女の地位の平等感をたずねました。ここでは、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」の合計を《男性優遇》、「平等である」を《平等》、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、『政治の場 (75.0%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど (73.4%)』で《男性優遇》が7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で《平等 (54.4%)》が5割台で7つの分野の中で最も多くなっています。また、『全体として、現在の日本では』では、《男性優遇 (74.7%)》が7割台となっています。(図表 2-3-1)

図表 2-3-1 男女の地位の平等感 (全体)



【性別】

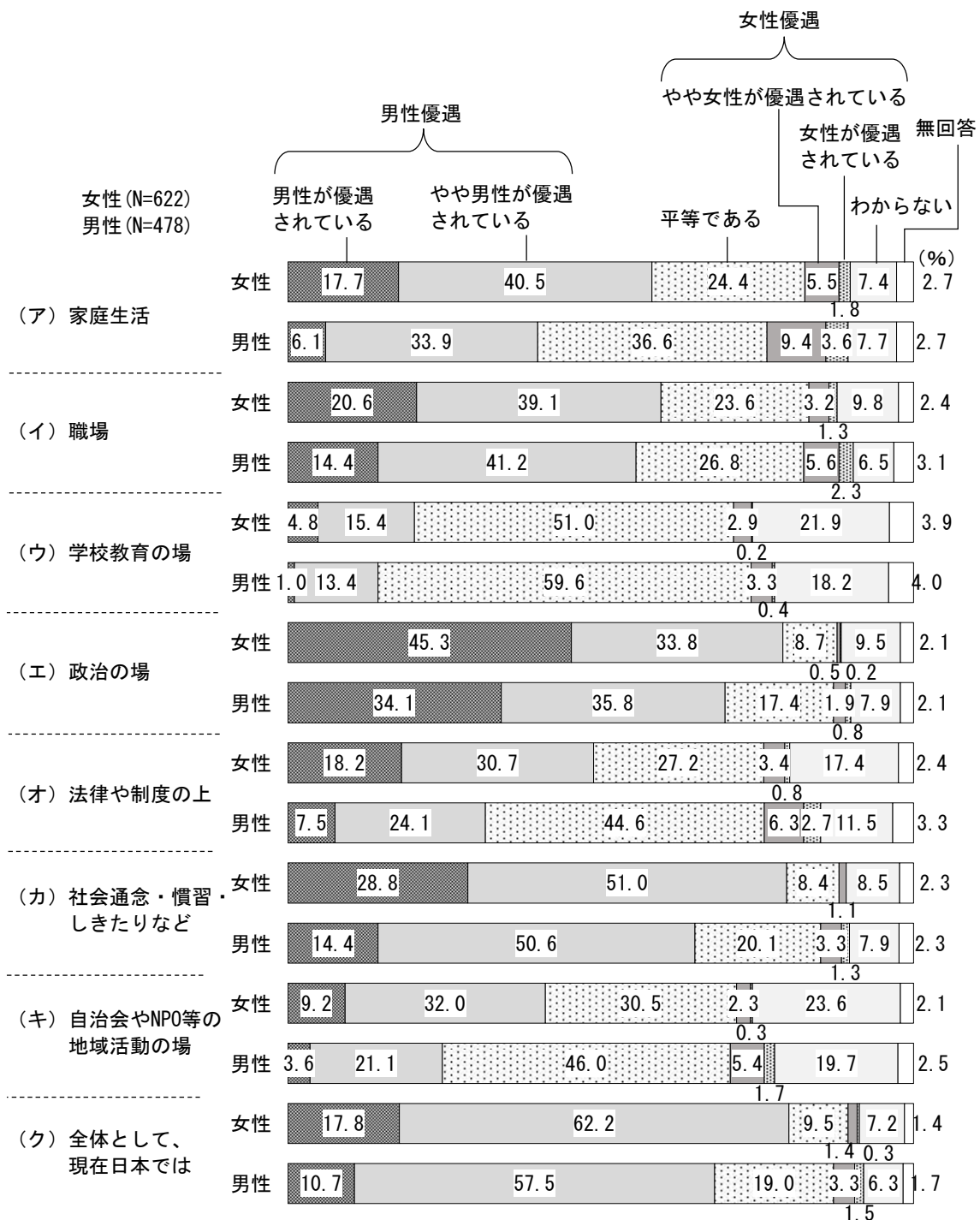
性別にみると、いずれの項目も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。

また、女性は『学校教育の場』以外では、《男性優遇》が《平等》を上回っており、『社会通念・慣習・しきたりなど (79.8%)』、『政治の場 (79.1%)』で8割近くを占めています。

一方、男性は『学校教育の場』、『法律や制度の上』、『自治会やNPOなどの地域活動の場』で《平等》が《男性優遇》を上回っています。

また、『家庭生活』では男女の差が大きく、《男性優遇》は、女性 (58.2%) が男性 (40.0%) を18.2ポイント上回っています。(図表 2-3-2)

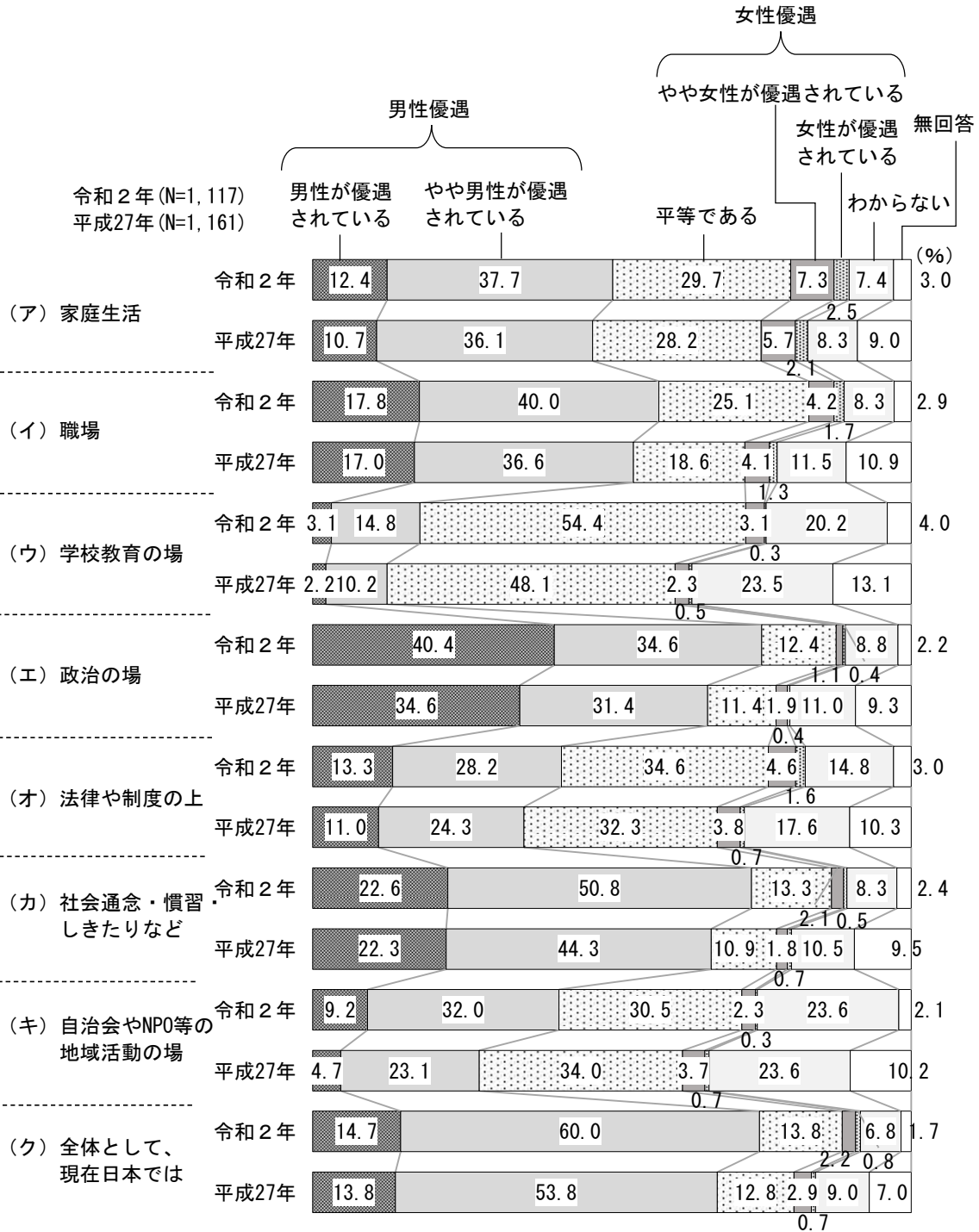
図表 2-3-2 男女の地位の平等感 (性別)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、すべての分野で《男性優遇》の割合が増えており、特に『全体として現在日本では』は、63.9%から 74.7%へ 10.8 ポイント増えています。(図表 2-3-3)

図表 2-3-3 男女の地位の平等感 (全体、平成 27 年調査)



3 結婚観

(1) 結婚観

問3 次にあげる(ア)～(カ)の考えについて、あなたはどのように思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

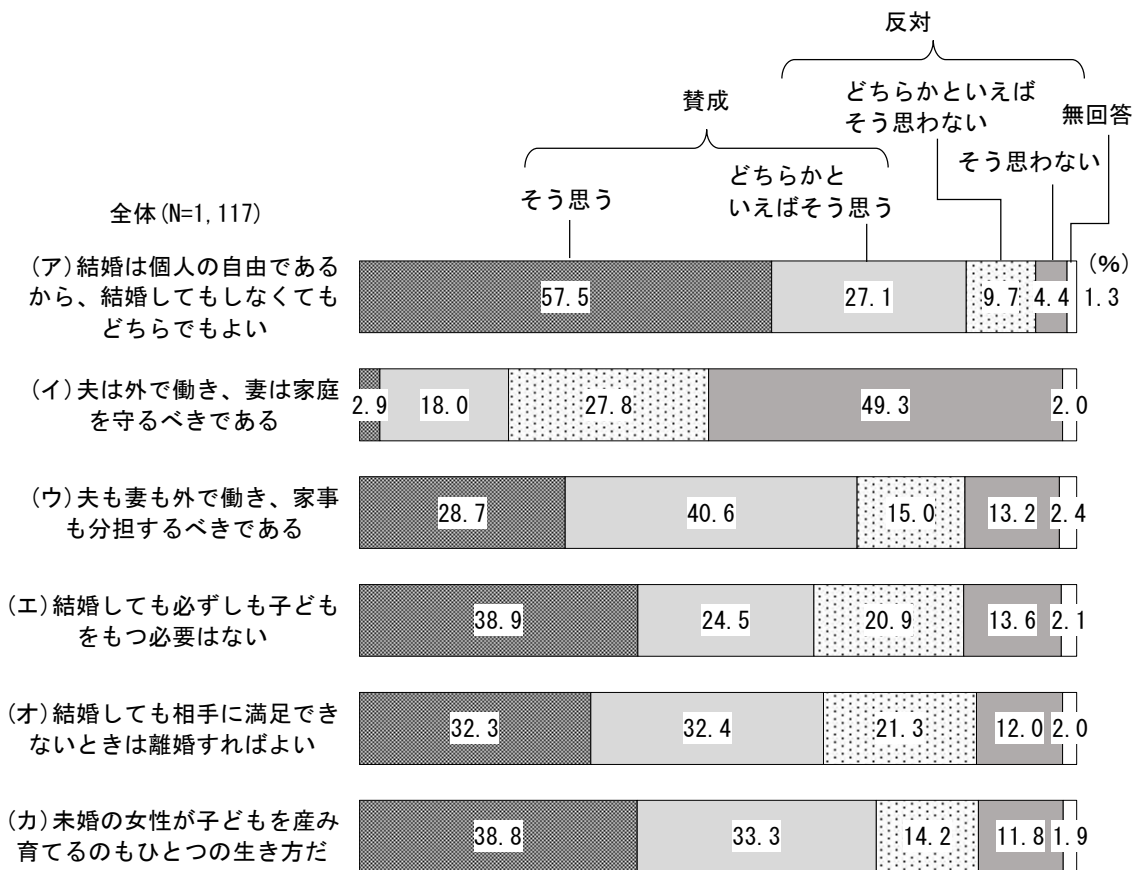
【全体】

結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を《賛成》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を《反対》としています。

《賛成》の多い順でみると、全体では『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』が84.6%で最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ(72.1%)』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである(69.3%)』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(64.7%)』となっています。

一方、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』は《反対》が77.1%と7割を超えています。(図表3-1-1)

図表 3-1-1 結婚観 (全体)



【性別】

性別にみると、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』は《賛成》が、女性は87.8%、男性は81.2%で、女性が多くなっています。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対》は女性80.2%、男性74.0%で、女性が多くなっています。

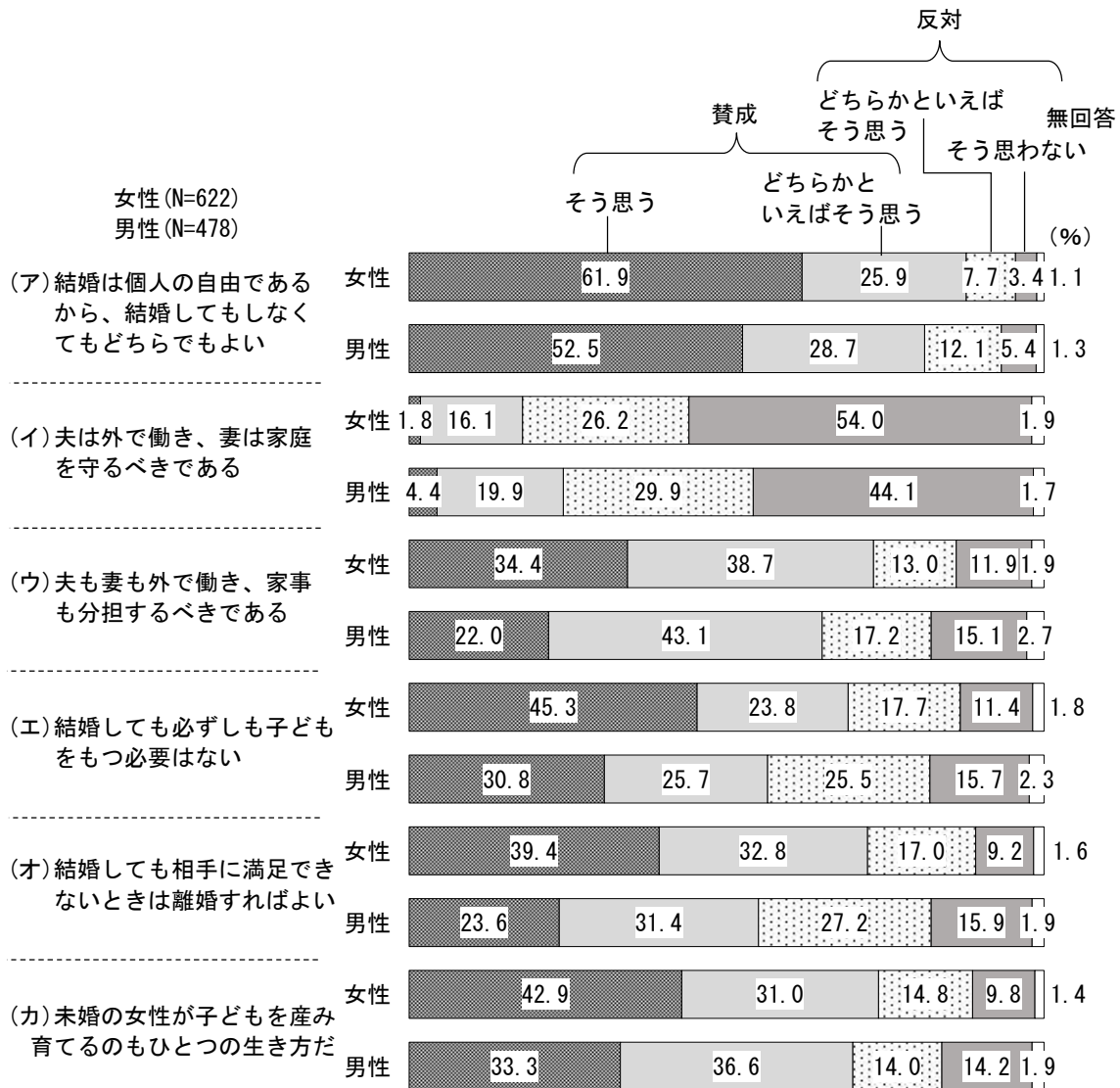
『夫も妻も外で働き、家事を分担するべきである』では、《賛成》は女性73.1%、男性65.1%で、女性が多くなっています。

『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成》は女性69.1%、男性56.5%で、女性が多くなっています。

『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成》は女性72.2%、男性55.0%で、女性が多くなっています。

『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成》は女性73.9%、男性69.9%で、大きな差はありません。(図表 3-1-2)

図表 3-1-2 結婚観（性別）

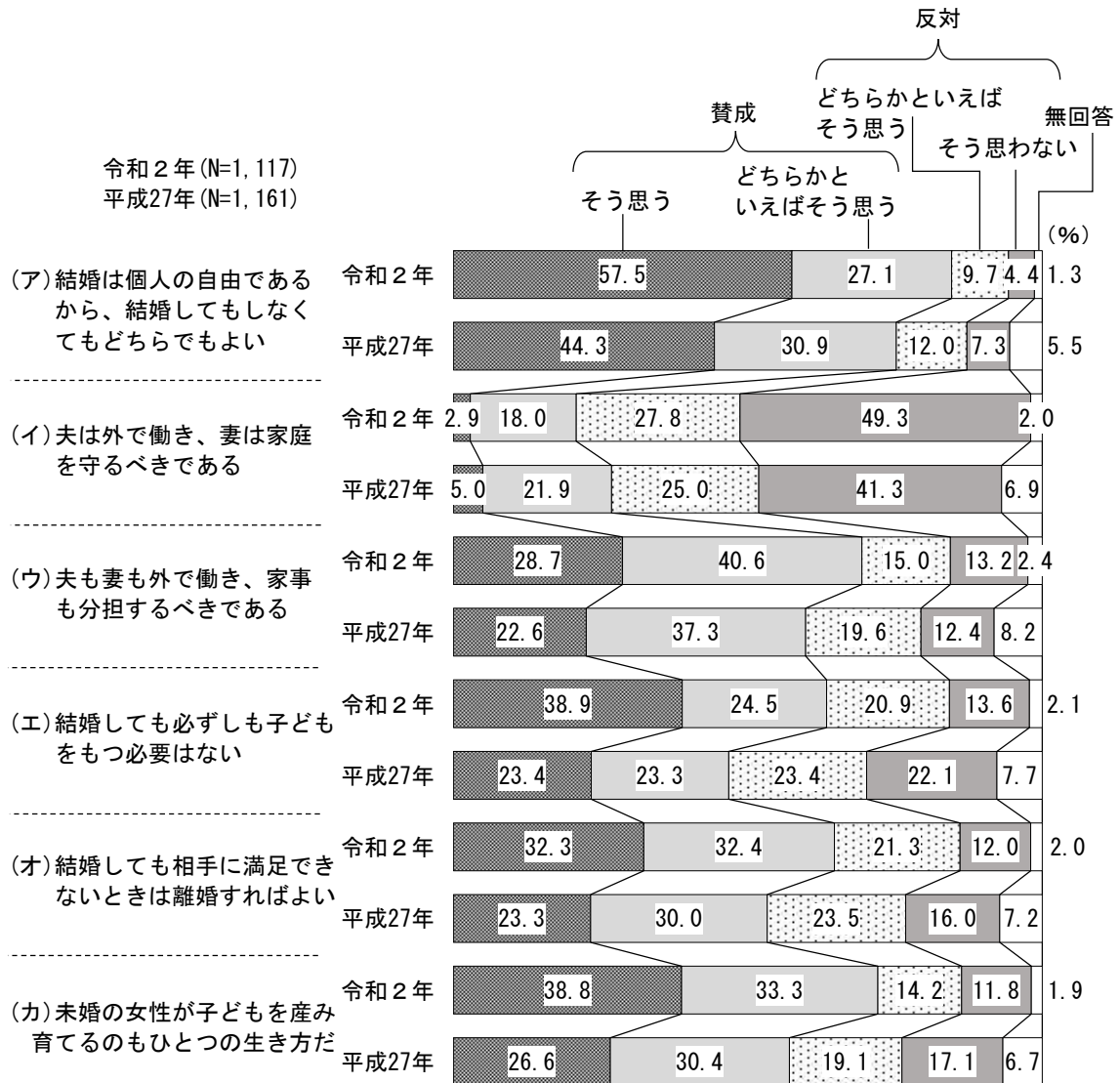


【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』について《反対》は 77.1%で平成 27 年調査 (66.3%) より 10.8 ポイント増えています。

その他の《賛成》は全て平成 27 年調査より増えています。(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 結婚観 (全体、平成 27 年調査)



4 家庭生活

(1) 家事などの分担

問4 家庭の中で、あなたは(ア)～(シ)にあげることを、どの程度行っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

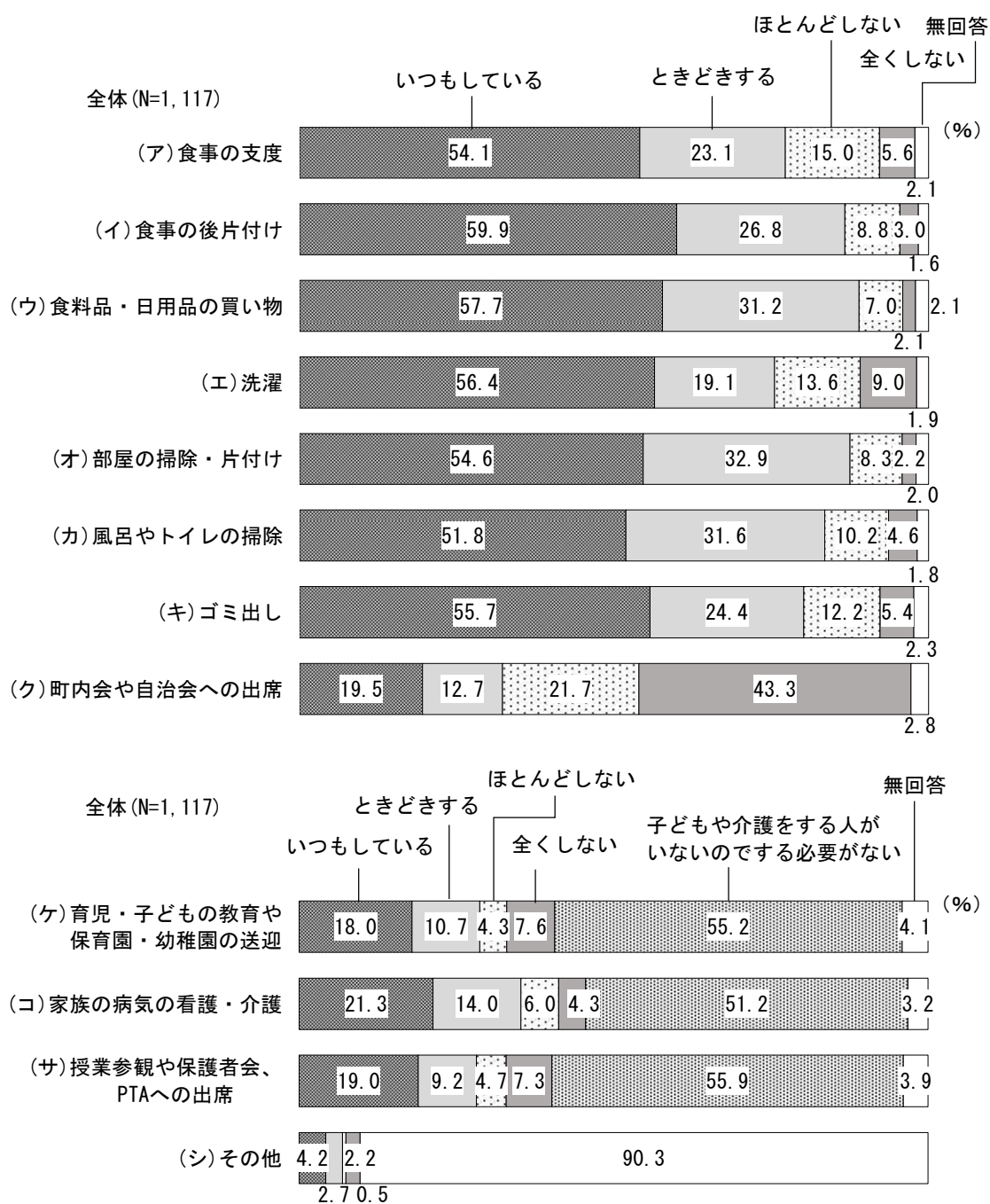
【全体】

家事などの分担の頻度についてたずねました。

「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食事の後片付け』が59.9%で最も多く、『食料品・日用品の買い物(57.7%)』、『洗濯(56.4%)』、『ゴミ出し(55.7%)』が続いています。

(図表4-1-1)

図表4-1-1 家事などの分担(全体)

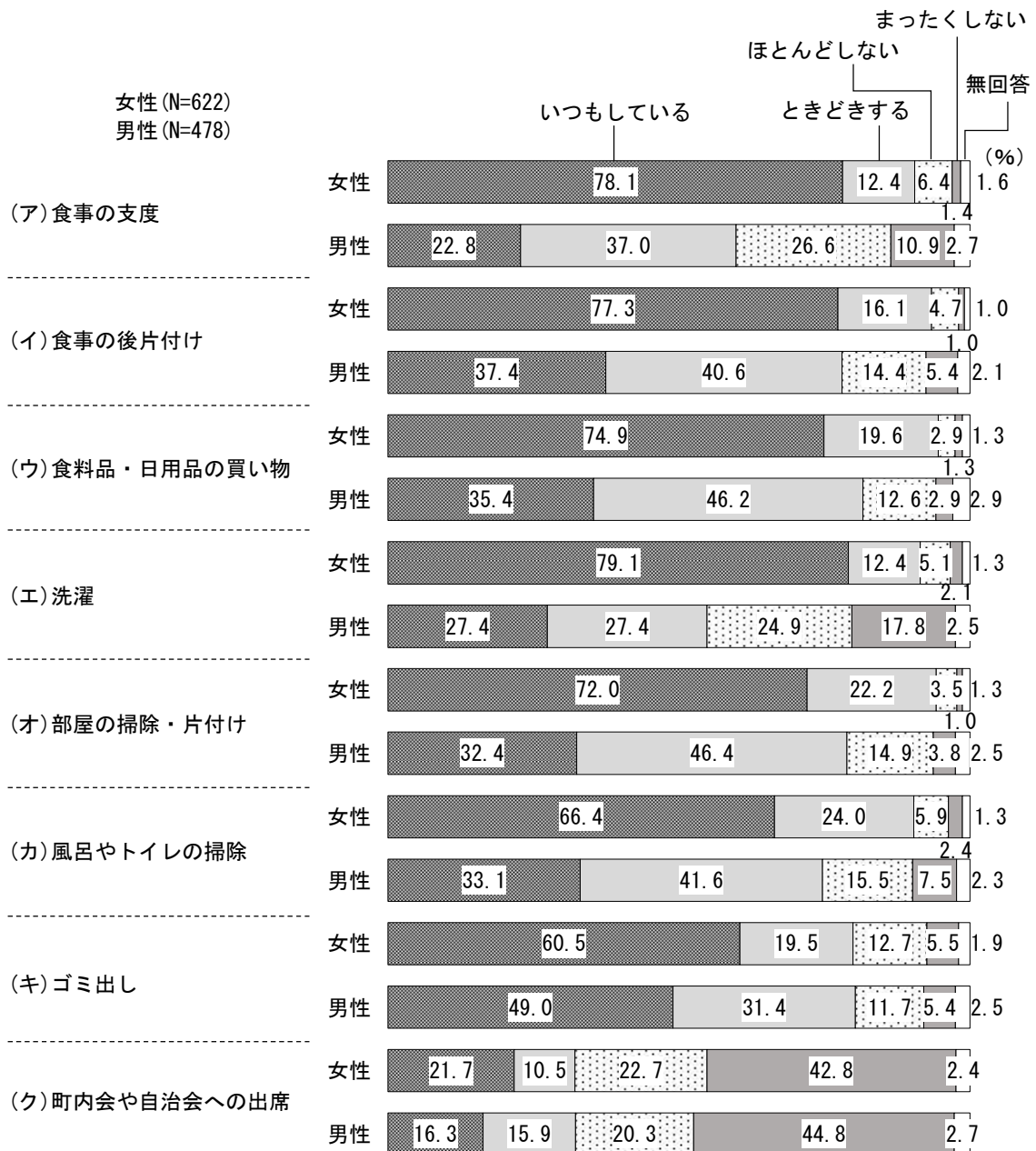


【性別】

性別にみると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。

「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯（79.1%）』が最も多く、『食事の支度（78.1%）』、『食事の後片付け（77.3%）』、『食料品・日用品の買い物（74.9%）』、『部屋の清掃・片付け（72.0%）』が7割台となっています。男性は『ゴミ出し（49.0%）』が4割台で最も多く、『食事の後片付け（37.4%）』、『食料品・日用品の買い物（35.4%）』が続いています。（図表 4-1-2）

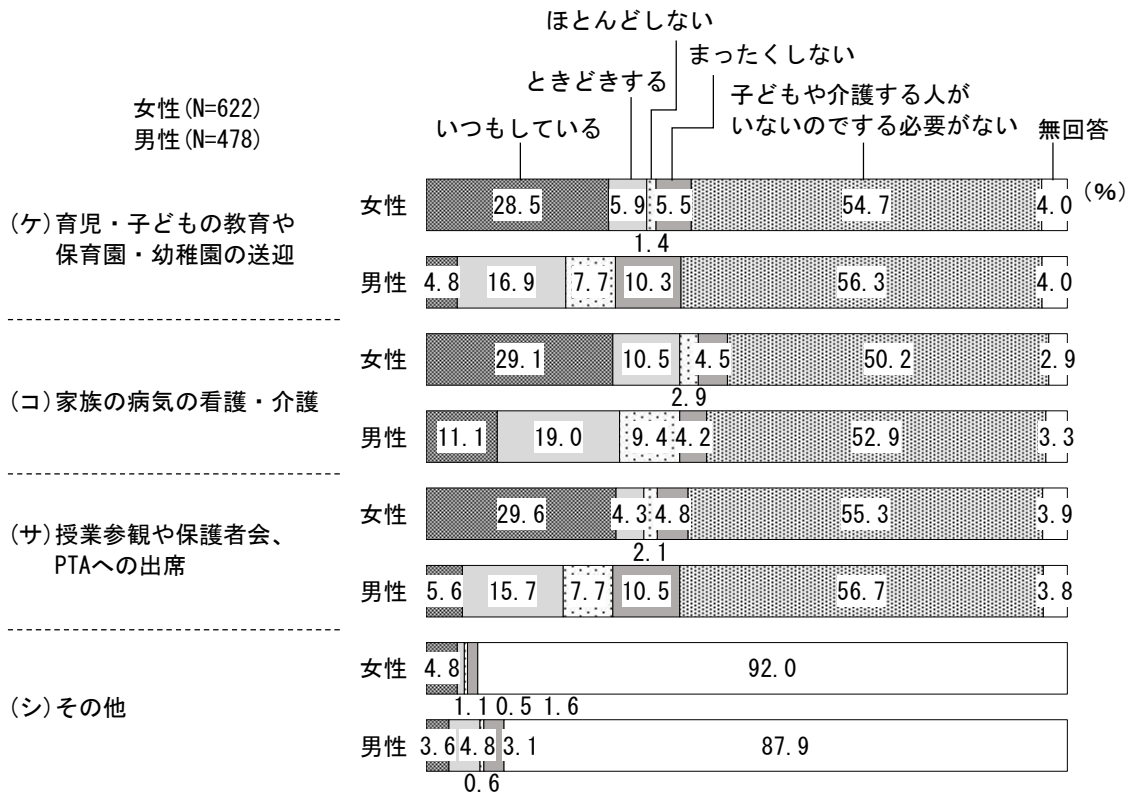
図表 4-1-2 家事などの分担（性別）



【性別】

育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『授業参観や保護者会、PTA への出席 (29.6%)』が最も多く、『家族の病気の看護・介護 (29.1%)』、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎 (28.5%)』が続いています。男性は『授業参観や保護者会への出席 (5.6%)』、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎 (4.8%)』が1割未満です。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 家事などの分担 (性別)



(2) 男性の家庭参画の度合い

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組めばよいと思いますか。(○は1つだけ)

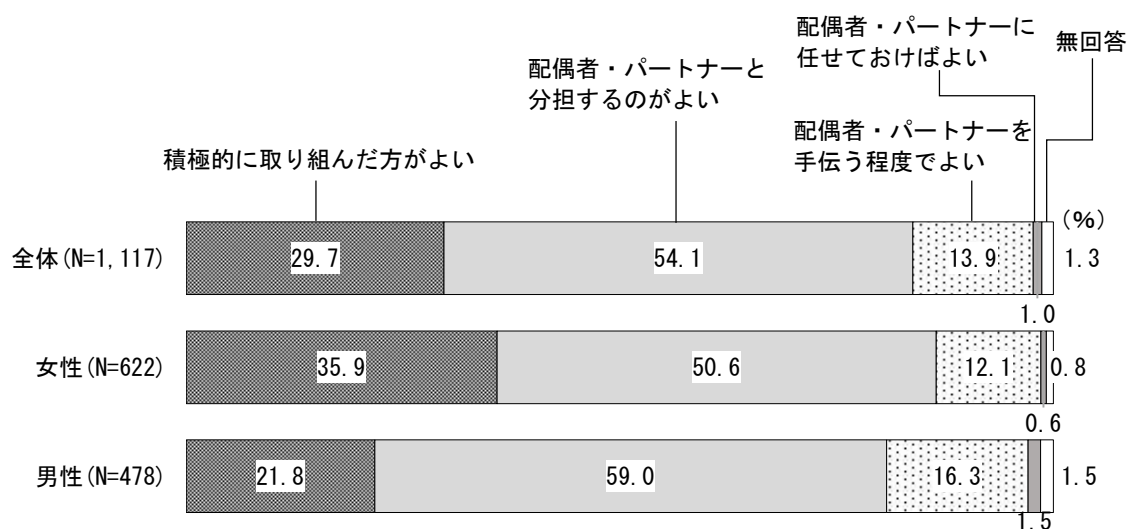
【全体】

全体では、「配偶者・パートナーと分担するのがよい (54.1%)」が最も多く、「積極的に取り組んだ方がよい (29.7%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度でよい (13.9%)」が続いています。(図表 4-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は「積極的に取り組んだ方がよい (女性：35.9%、男性：21.8%)」で男性を上回っています。(図表 4-2-1)

図表 4-2-1 男性の家庭参画の度合い (全体、性別)



問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから (48.0%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから (35.2%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思うから (33.8%)」が続いています。

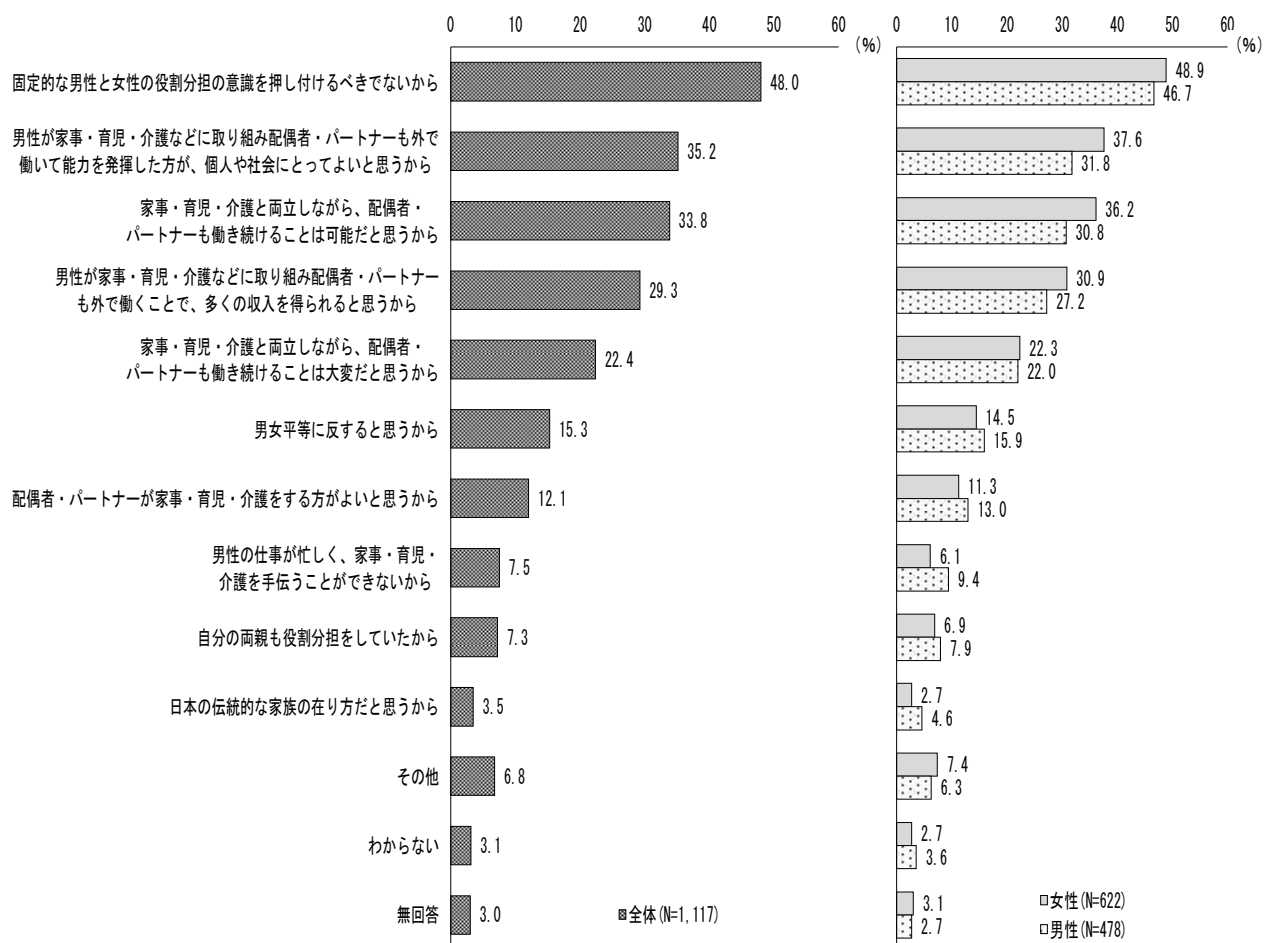
(図表 4-2-2)

【性別】

性別にみると、男女ともに「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから (女性：48.9%、男性46.7%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから (女性：37.6%、男性：31.8%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思うから (女性：36.2%、男性：30.8%)」で、女性が男性を5ポイント以上、上回っています。(図表 4-2-2)

図表 4-2-2 問5で回答した理由 (全体、性別)



(3) 男性の家庭参画に必要なこと

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

【全体】

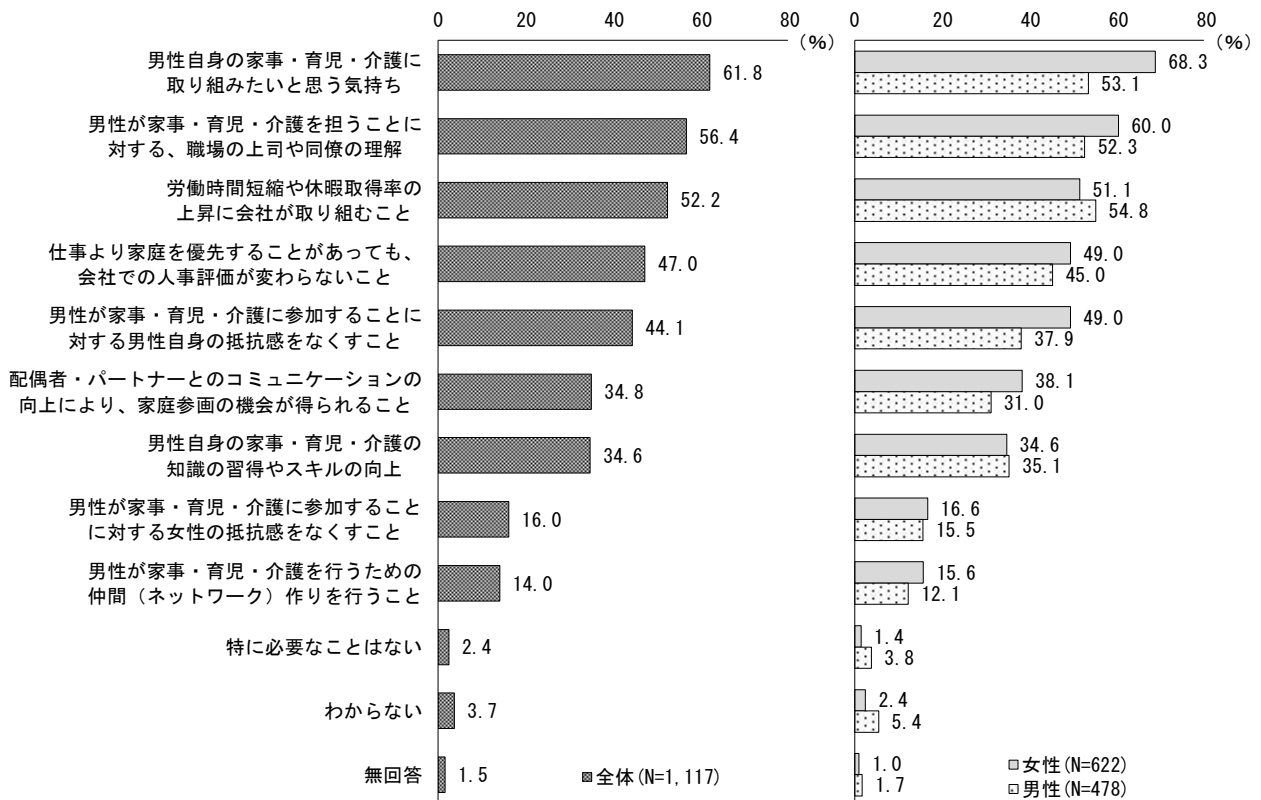
全体では、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (61.8%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (56.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (52.2%)」が続いています。(図表 4-3-1)

【性別】

性別にみると、女性は「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (68.3%)」が6割を超えて最も多く、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (60.0%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (51.1%)」が続いています。

男性は「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (54.8%)」、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (53.1%)」、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (52.3%)」が5割を超えています。(図表 4-3-1)

図表 4-3-1 男性の家庭参画に必要なこと (全体、性別：複数回答)



5 就労

(1) 職業

問7 あなたの職業は、次のどれですか。(○は1つだけ)

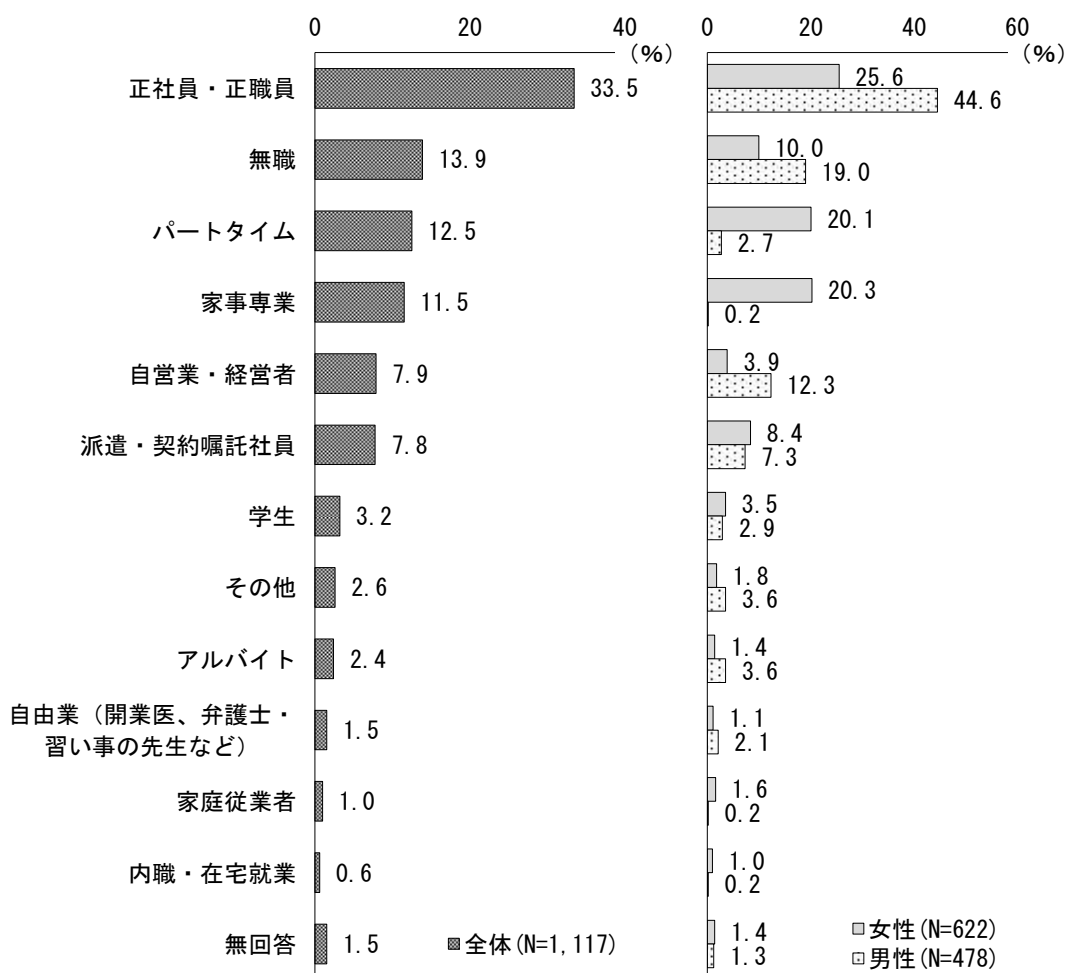
【全体】

全体では、「正社員・正職員 (33.5%)」が最も多く、「パートタイム (12.5%)」、「家事専業 (11.5%)」が続いています。「無職」は13.9%です。(図表 5-1)

【性別】

性別にみると、女性は「正社員・正職員 (25.6%)」が最も多く、「家事専業 (20.3%)」、「パートタイム (20.1%)」が続いています。男性は「正社員・正職員 (44.6%)」が最も多くなっています。(図表 5-1)

図表 5-1 職業 (全体、性別)



(2) 職場での男女差別

問7で1～9のいずれかをお答えの方に

問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

【全体】

何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。

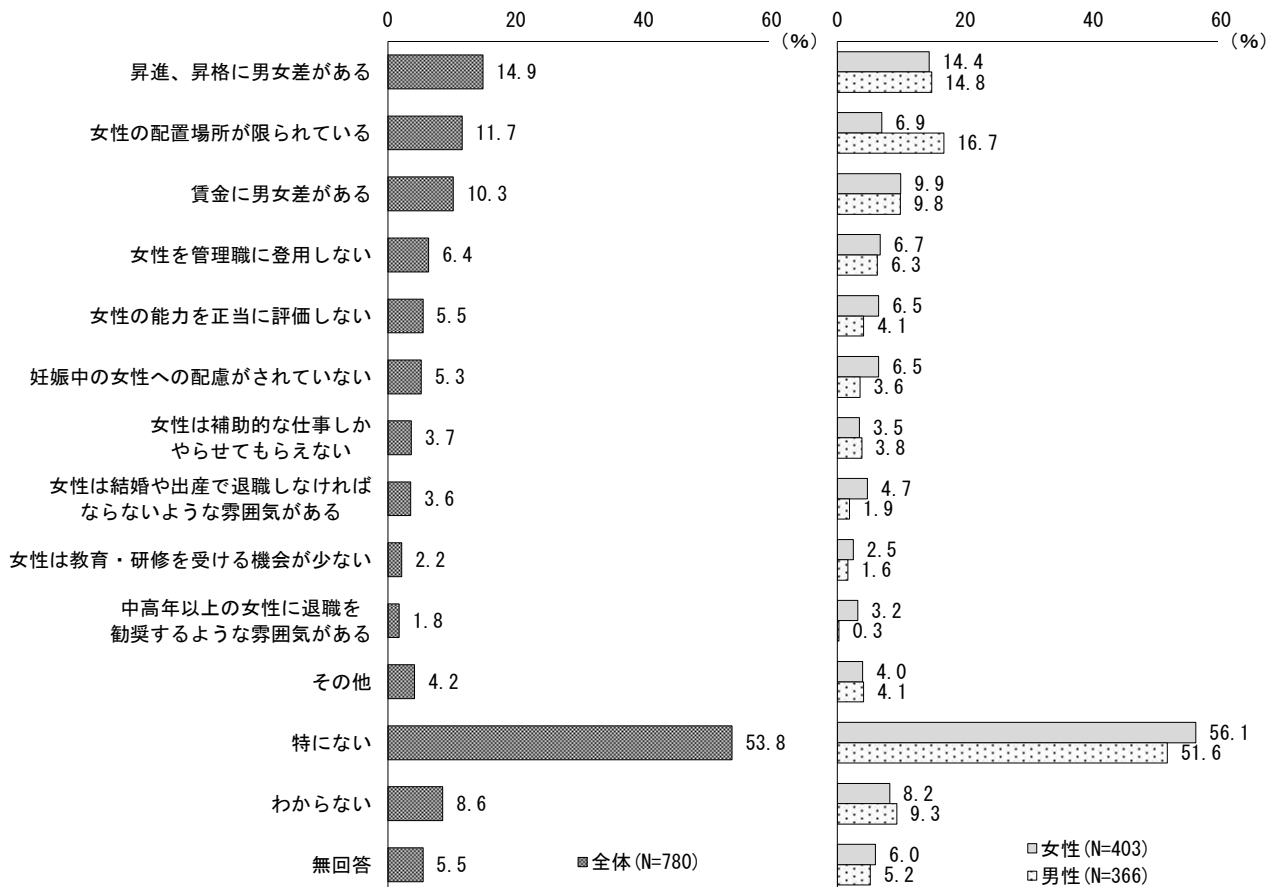
全体では、「昇進、昇格に男女差がある (14.9%)」が最も多く、「女性の配置場所が限られている (11.7%)」、「賃金に男女差がある (10.3%)」が続いています。(図表 5-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は「昇進、昇格に男女差がある (14.4%)」が最も多く、「賃金に男女差がある (9.9%)」、「女性の配置場所が限られている (6.9%)」が続いています。男性は「女性の配置場所が限られている (16.7%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差がある (14.8%)」、「賃金に男女差がある (9.8%)」が続いています。

また、「女性の配置場所が限られている (女性：6.9%、男性：16.7%)」は、男性が女性を 9.8ポイント上回っています。(図表 5-2-1)

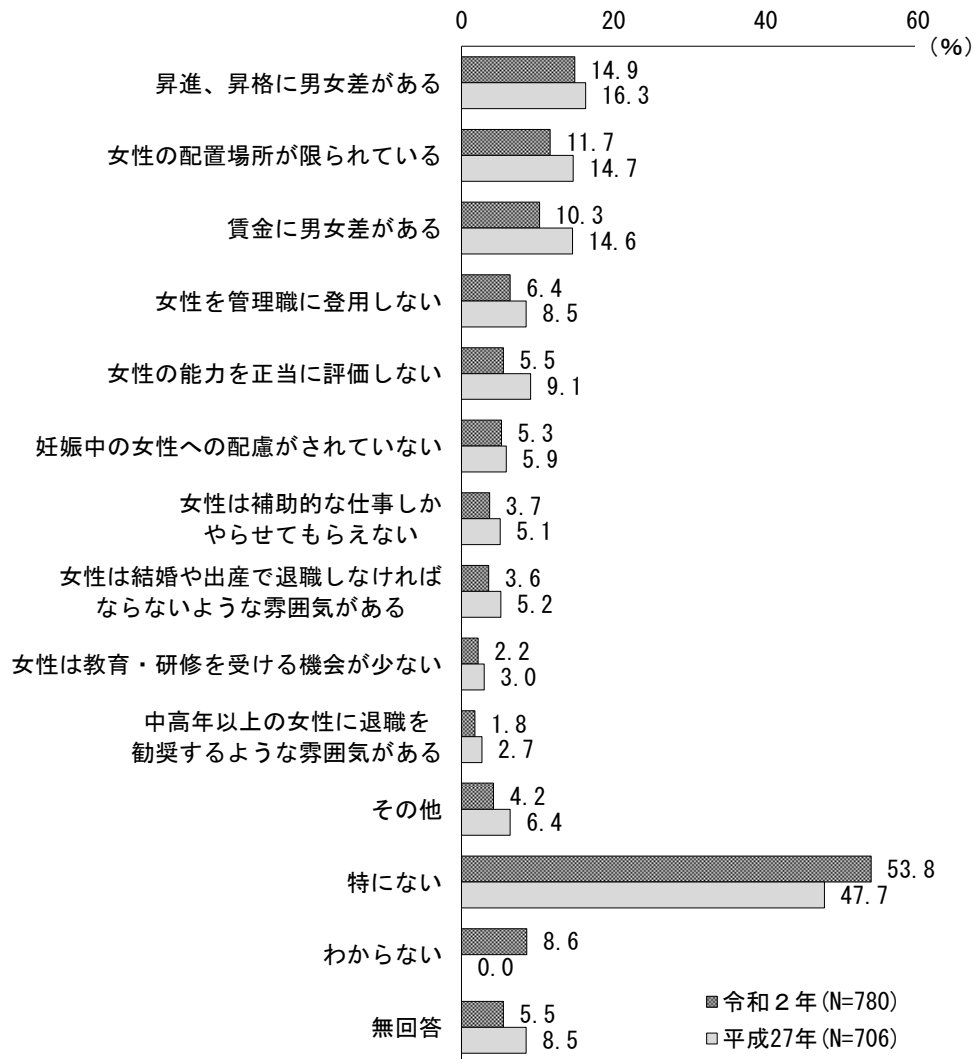
図表 5-2-1 職場での男女差別 (全体、性別：複数回答)
 <働いている人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「特にない」が増えています。(図表 5-2-2)

図表 5-2-2 職場での男女差別（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <働いている人>



(3) 女性の働き方についての意識

問8 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

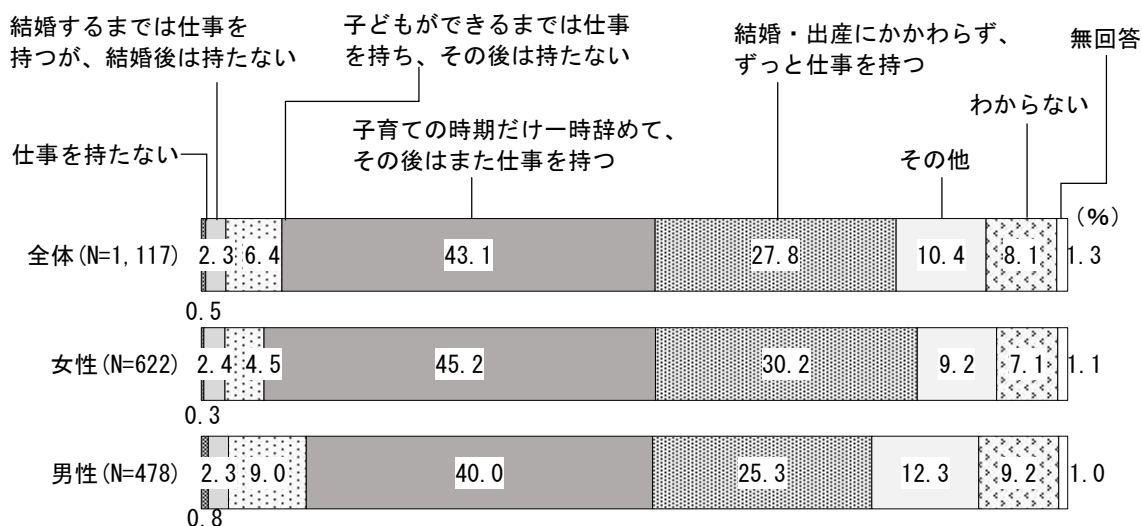
【全体】

全体では、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ（43.1%）」が最も多く、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ（27.8%）」が続いています。（図表 5-3-1）

【性別】

性別にみると、女性は、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事を持つ（女性：45.2%、男性 40.0%）」、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ（女性：30.2%、男性：25.3%）」で男性を上回っています。（図表 5-3-1）

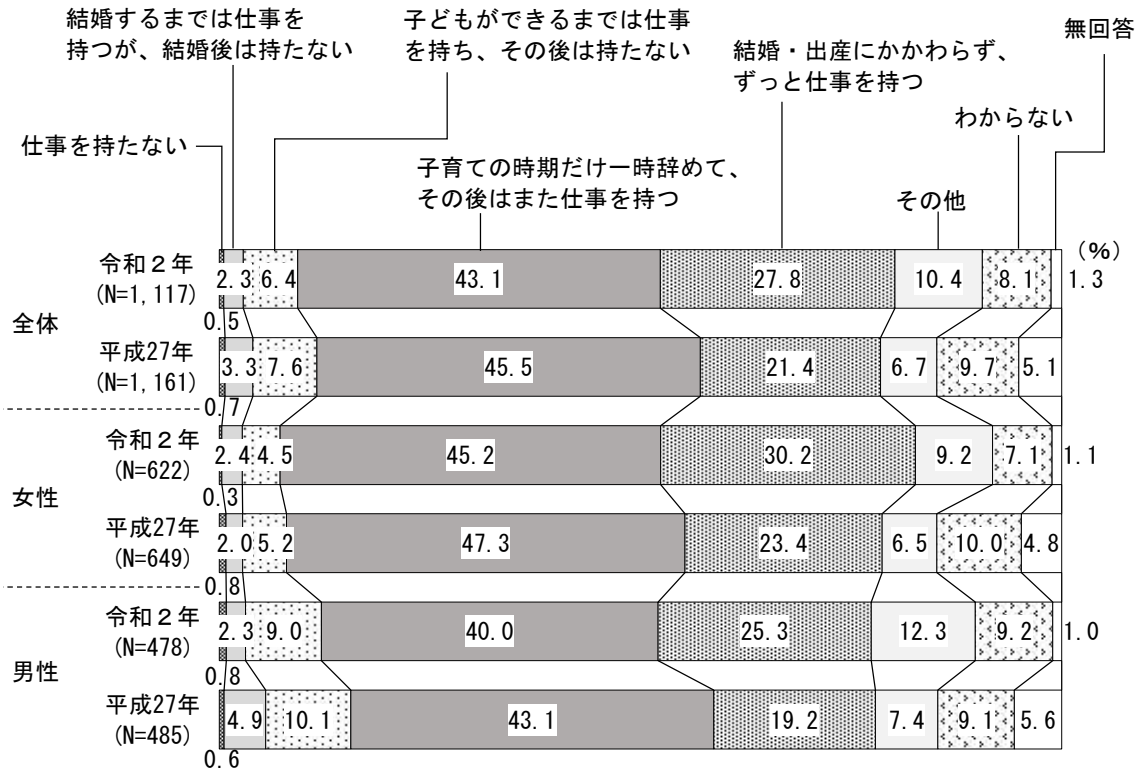
図表 5-3-1 女性の働き方についての意識（全体、性別）



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、男女ともに「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ」が増えています。(図表 5-3-2)

図表 5-3-2 女性の働き方についての意識（全体、性別、平成 27 年調査）



問8-1 問8で回答した理由をご記入ください。(○はあてはまるものすべて)

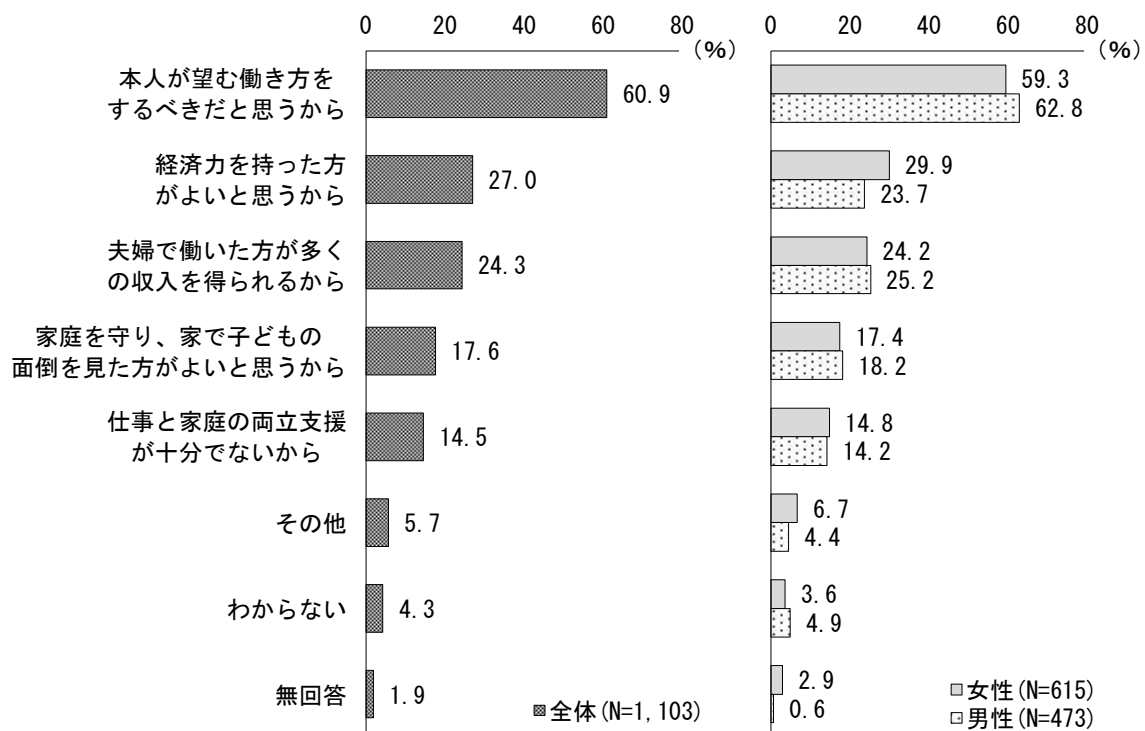
【全体】

全体では、「本人が望む働き方をすべきだと思うから (60.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思うから (27.0%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから (24.3%)」が続いています。(図表 5-3-3)

【性別】

性別にみると、男女ともに「本人が望む働き方をすべきだと思うから (女性：59.3%、男性 62.8%)」が最も多くなっています。

図表 5-3-3 問8で回答した理由 (全体、性別)



(4) 女性の再就職に対する支援

問9 結婚や妊娠・出産により仕事を辞めた女性が再び仕事を持つことを希望する場合、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (62.5%)」が最も多く、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (60.3%)」、「家族の理解と協力 (56.1%)」が続いています。(図表 5-4-1)

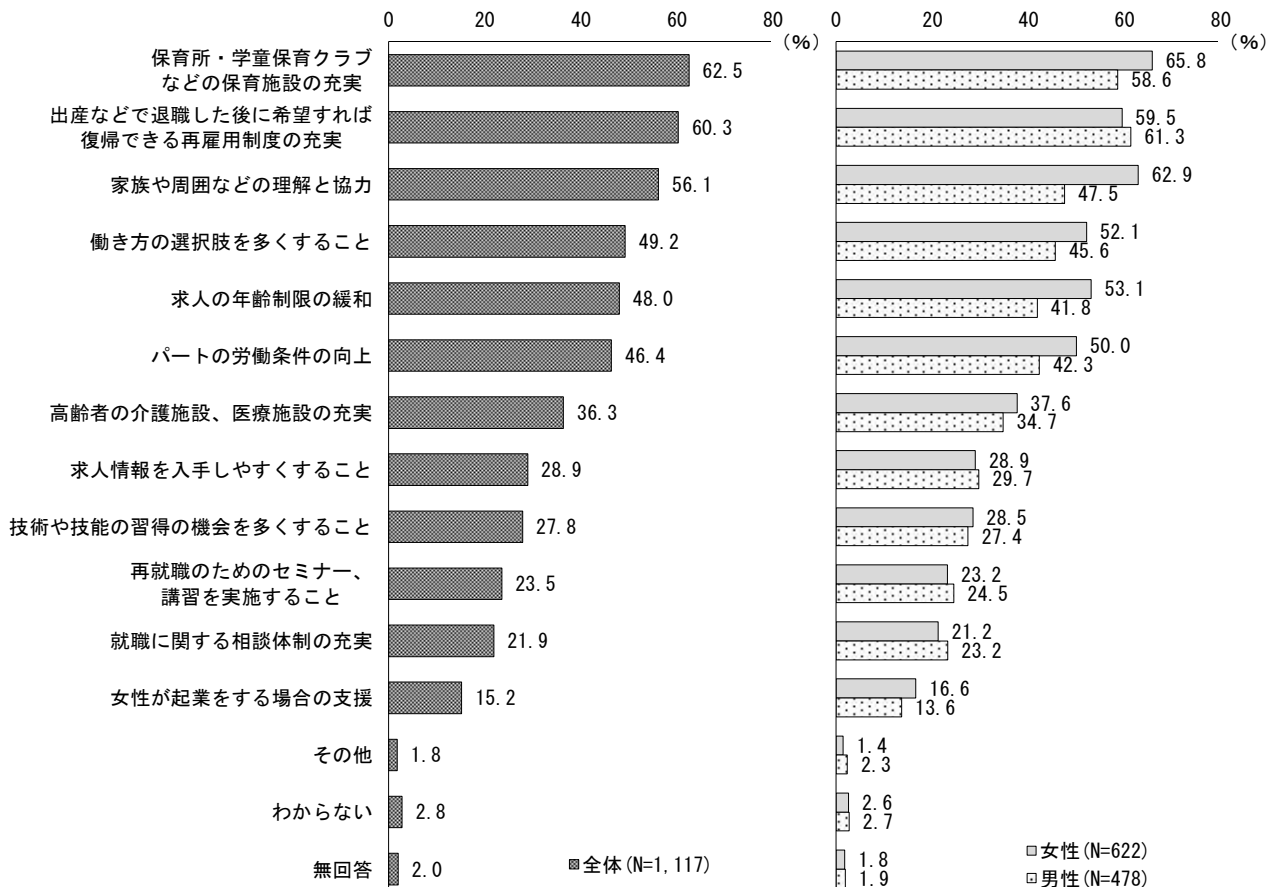
【性別】

性別にみると、女性は「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (65.8%)」、「家族や周囲などの理解と協力 (62.9%)」が6割台、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (59.5%)」、「求人の年齢制限の緩和 (53.1%)」、「働き方の選択肢を多くすること (52.1%)」、「パートの労働条件の向上 (50.0%)」が5割台となっています。

男性は「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (61.3%)」が6割台となっています。

また、男女の違いをみると、女性は、「家族や周囲などの理解と協力 (女性：62.9%、男性：47.5%)」、「求人の年齢制限の緩和 (女性：53.1%、男性：41.8%)」で男性をそれぞれ 15.4 ポイント、11.3 ポイント上回っています。(図表 5-4-1)

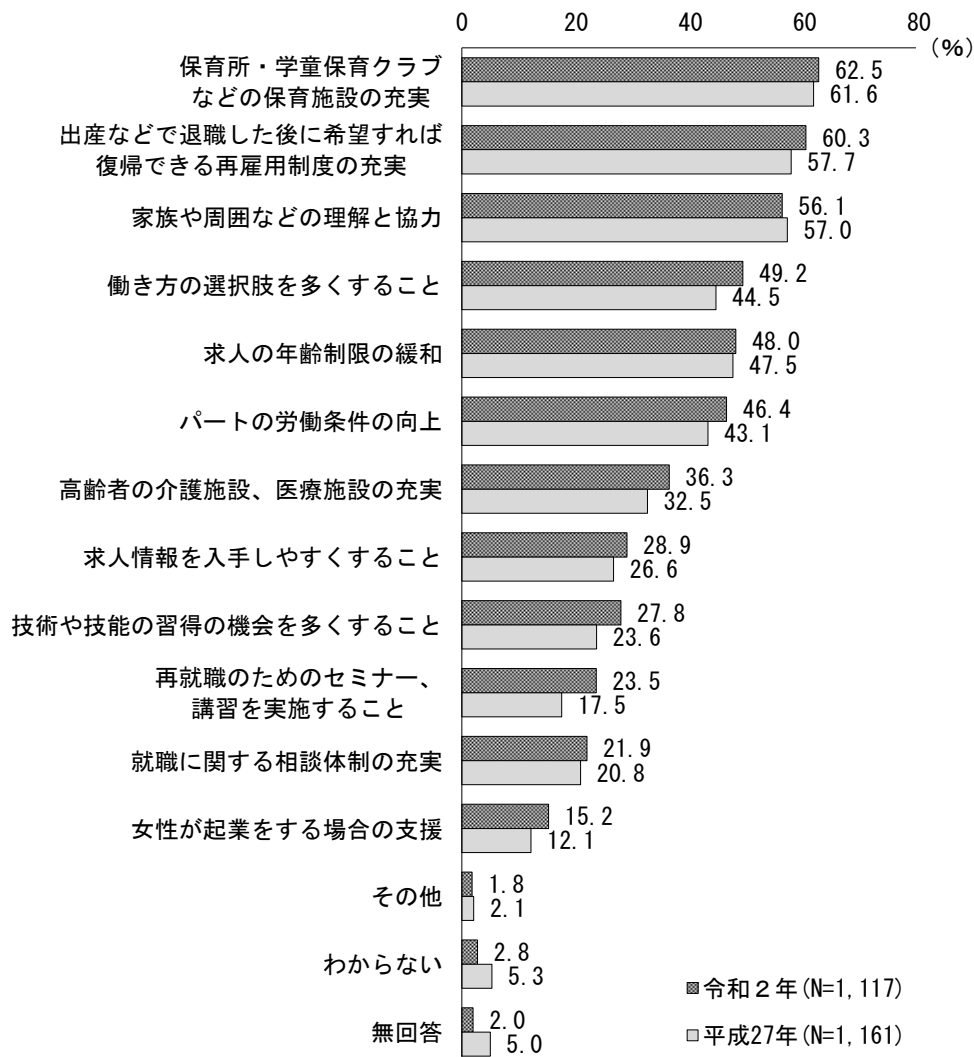
図表 5-4-1 女性の再就職に対する支援 (全体、性別：複数回答)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、令和 2 年調査、平成 27 年調査ともに「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」が最も多くなっています。また、「働き方の選択肢を多くすること」が平成 27 年調査から増えています。(図表 5-4-2)

図表 5-4-2 女性の再就職に対する支援（全体、平成 27 年調査：複数回答）



(5) 育児休業・介護休業の利用状況

問 10 あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

■ 育児休業

【全体】

全体では、「利用したことがある」が6.9%、「利用したことはない」が46.6%となっています。
 (図表 5-5-1)

【性別】

性別にみると、「利用したことがある」は女性が 11.4%、男性が 1.3%となっています。(図表 5-5-1)

■ 介護休業

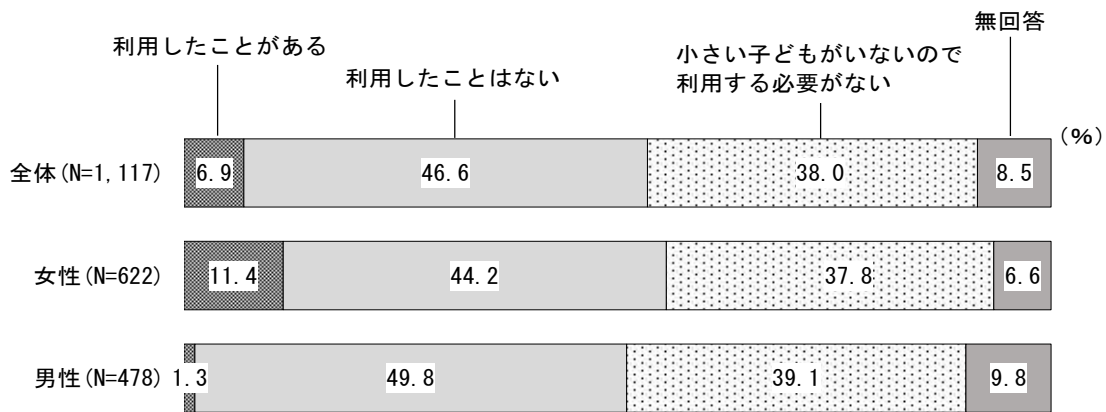
【全体】

全体では、「利用したことがある」が1.2%、「利用したことはない」が38.9%となっています。
 (図表 5-5-2)

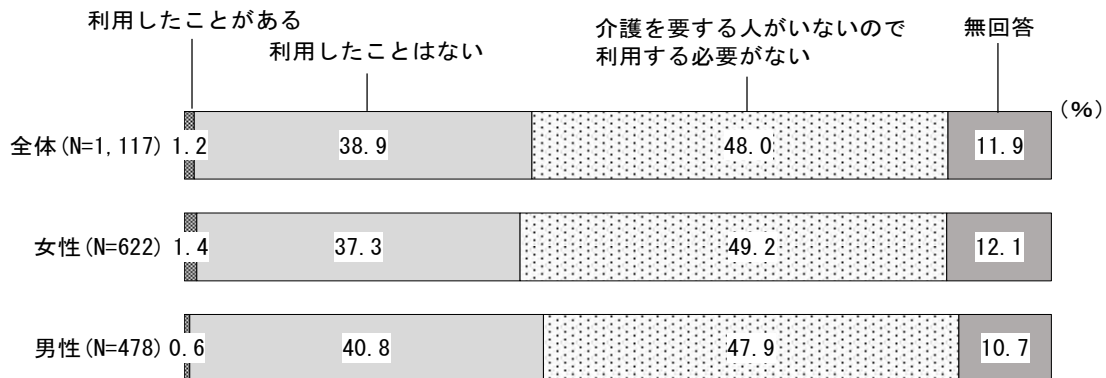
【性別】

性別にみると、「利用したことがある」が女性は1.4%、男性は0.6%となっています。(図表 5-5-2)

図表 5-5-1 育児休業の利用状況 (全体、性別)



図表 5-5-2 介護休業の利用状況 (全体、性別)



【平成 27 年調査との比較】

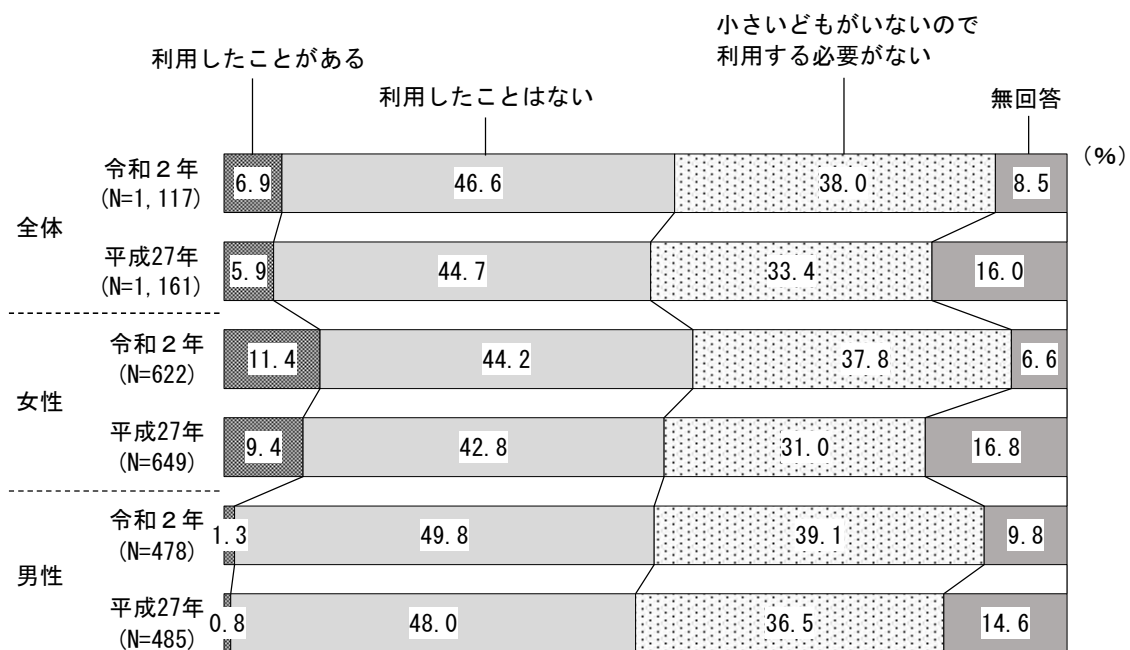
■育児休業

平成 27 年調査と比較すると、女性は「利用したことがある（令和 2 年調査：11.4%、平成 27 年調査：9.4%）」が 2.0 ポイント増えています。（図表 5-5-3）

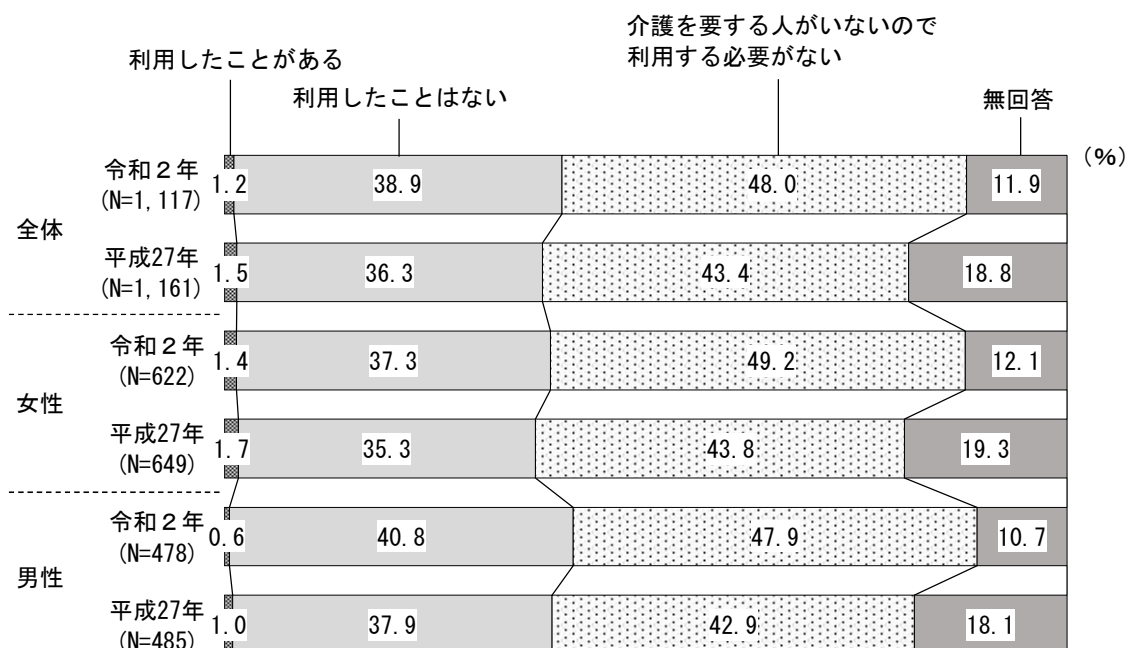
■介護休業

平成 27 年調査と比較すると、女性は「利用したことがある（令和 2 年調査：1.4%、平成 27 年調査：1.7%）」が 0.3 ポイント減っています。（図表 5-5-4）

図表 5-5-3 育児休業の利用状況（全体、性別、平成 27 年調査）



図表 5-5-4 介護休業の利用状況（全体、性別、平成 27 年調査）



(6) 育児休業・介護休業の利用期間

問 10 で「1. 利用したことがある」とお答えの方に
 問 10-1 どのくらいの期間、休暇を取りましたか。複数回利用したことがある方は、
 最近のケースでご回答ください。(回答の場合、○はどちらも1つ)

■育児休業

【全体】

育児休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。
 全体では、「6カ月～1年未満（41.6%）」が最も多く、「1年以上（36.4%）」、「3カ月未満（11.7%）」が続いています。(図表 5-6-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「6カ月～1年未満（女性：40.8%、男性：50.0%）」が最も多く、
 女性は「1年以上（39.4%）」が男性は「3カ月未満（33.3%）」が続いています。(図表 5-6-1)

■介護休業

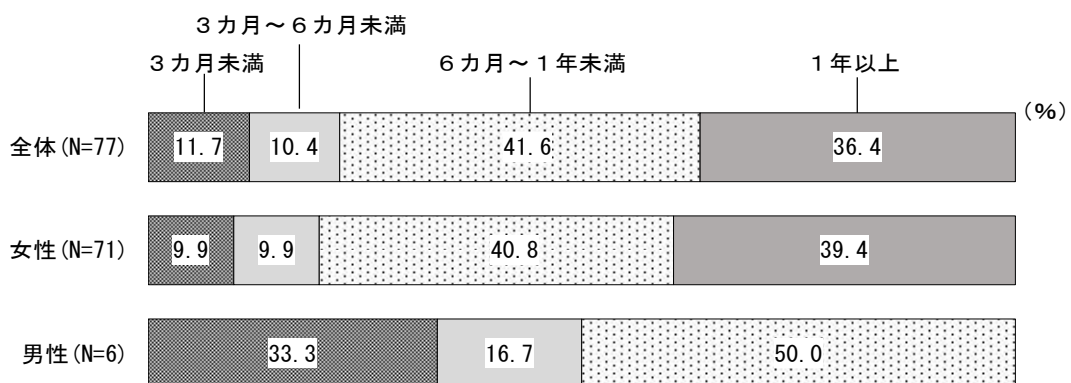
【全体】

介護休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。
 全体では、「1カ月未満（53.8%）」が最も多く、「1カ月～2カ月未満（23.1%）」、「3カ月以上（15.4%）」が続いています。(図表 5-6-2)

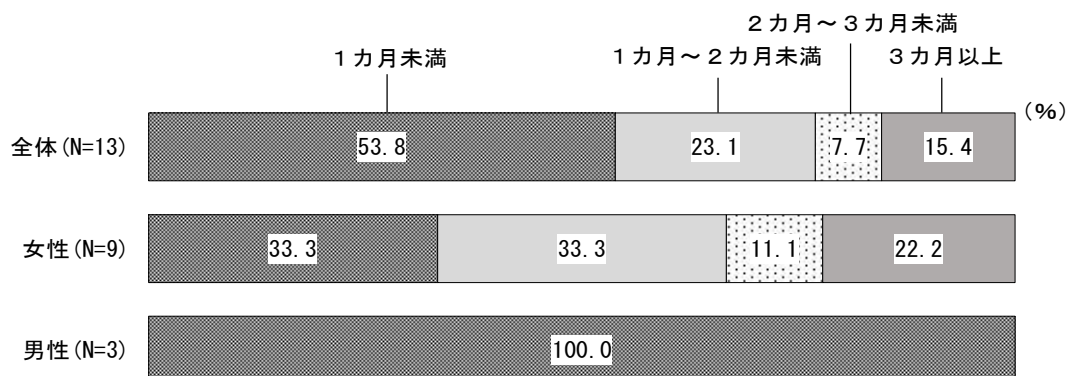
【性別】

性別にみると、男女ともに「1カ月未満（女性：33.3%、男性：100.0%）」が最も多くなっ
 ています。(図表 5-6-2)

図表 5-6-1 育児休業の利用期間（全体、性別）＜育児休業を利用したことがある人＞



図表 5-6-2 介護休業の利用期間（全体、性別）＜介護休業を利用したことがある人＞



【平成 27 年調査との比較】

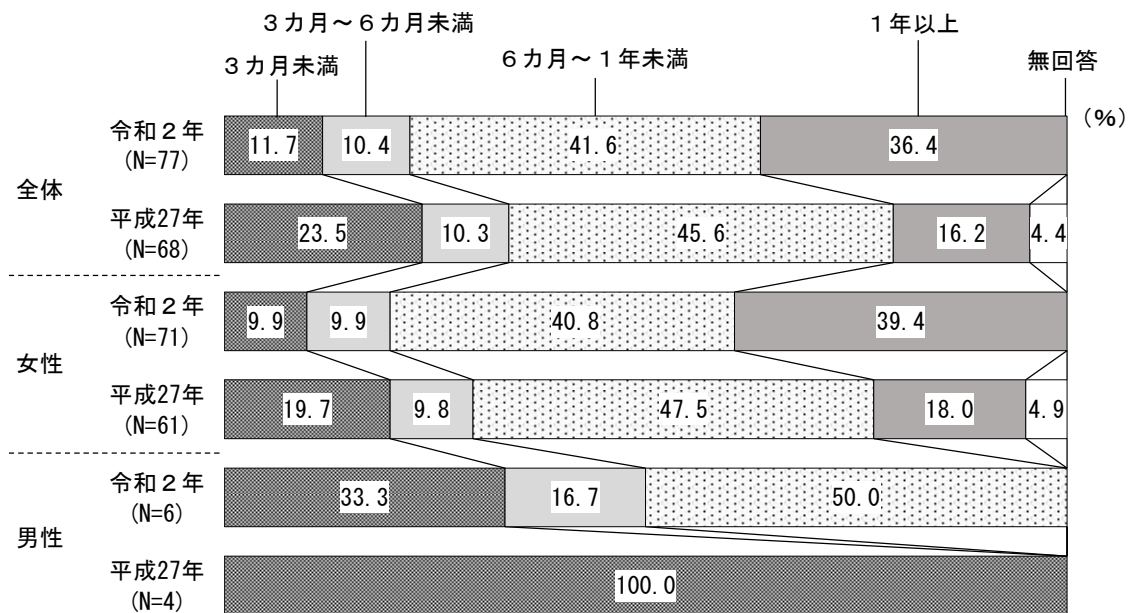
■育児休業

平成 27 年調査と比較すると、女性は「1 年以上（令和 2 年：39.4%、平成 27 年調査：18.0%）」が 21.4 ポイント増えています。男性は（図表 5-6-3）

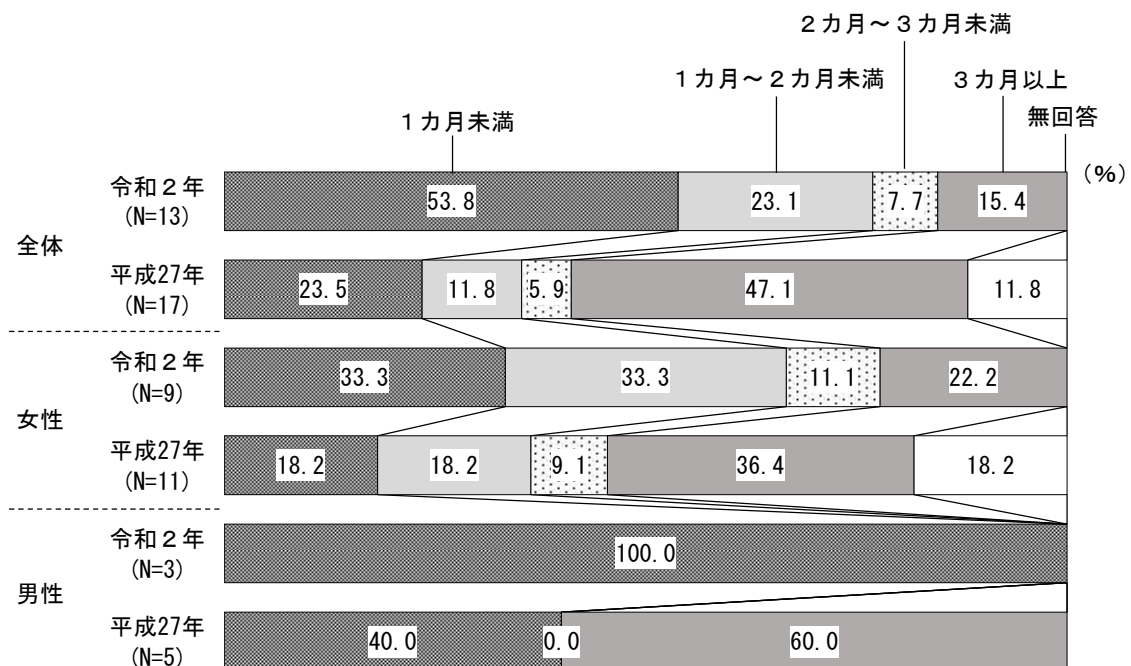
■介護休業

令和 2 年調査、平成 27 年調査ともに対象者数が 20 件未満のためグラフの掲載のみとします。（図表 5-6-4）

図表 5-6-3 育児休業の利用期間（全体、性別、平成 27 年調査）
 <育児休業を利用したことがある人>



図表 5-6-4 介護休業の利用期間（全体、性別、平成 27 年調査）
 <介護休業を利用したことがある人>



(7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由

問 10 で「2. 利用したことはない」とお答えの方に
 問 10-2 利用しなかった理由はなんですか。
 (回答の場合、○はどちらもあてはまるものすべて)

■ 育児休業

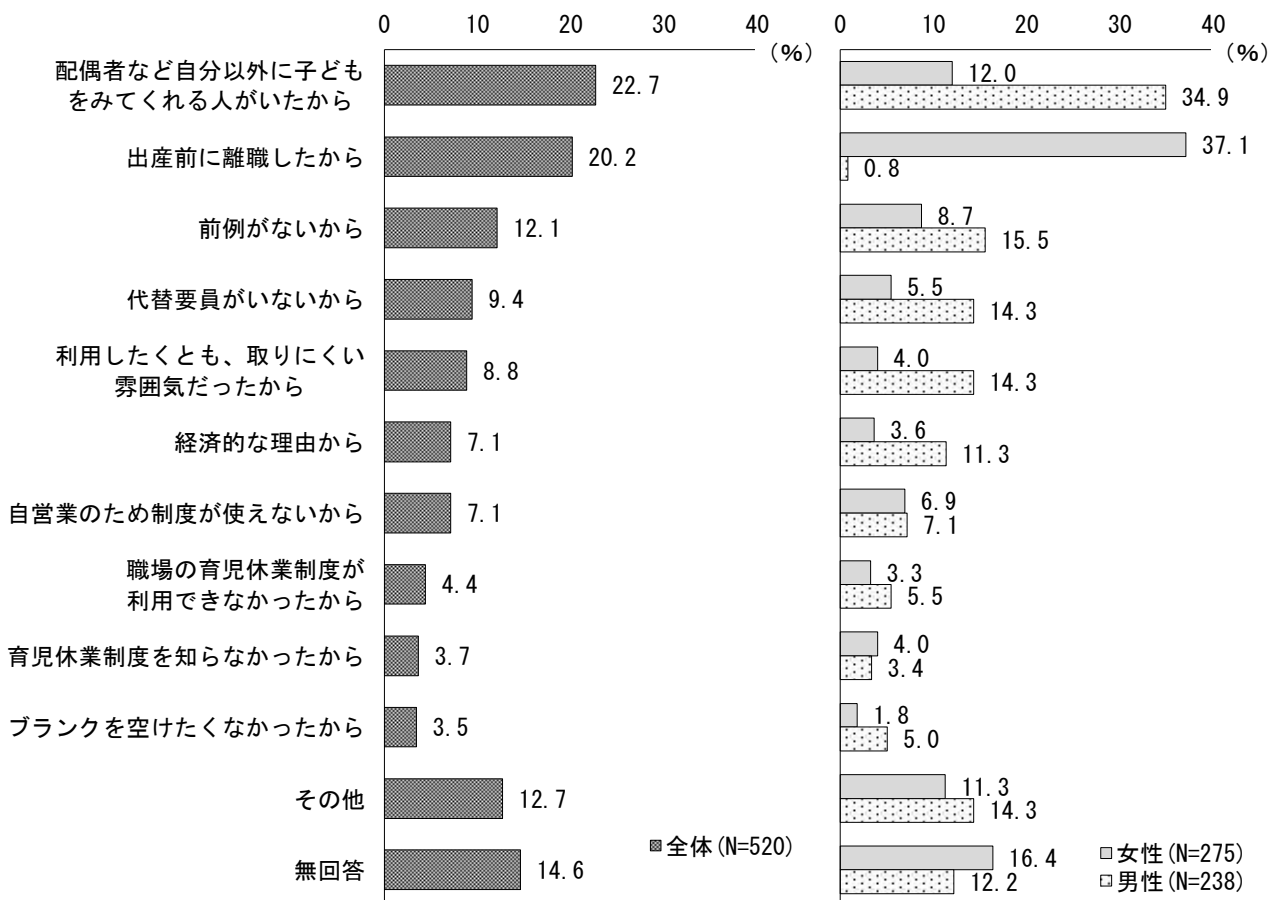
【全体】

育児休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。
 全体では、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから (22.7%)」が最も多く、「出産前に離職したから (20.2%)」が2割台、「前例がないから (12.1%)」、「代替要員がないから (9.4%)」、が続いています。
 なお、「その他 (12.7%)」には、「自営」、「未婚」といった回答があがっています。(図表 5-7-1)

【性別】

性別にみると、女性は「出産前に離職したから (37.1%)」が4割近くで多くなっています。
 男性は、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから (34.9%)」が最も多くなっています。(図表 5-7-1)

図表 5-7-1 育児休業を利用しなかった理由 (全体、性別：複数回答)
 <育児休業を利用したことがない人>



■介護休業

【全体】

介護休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

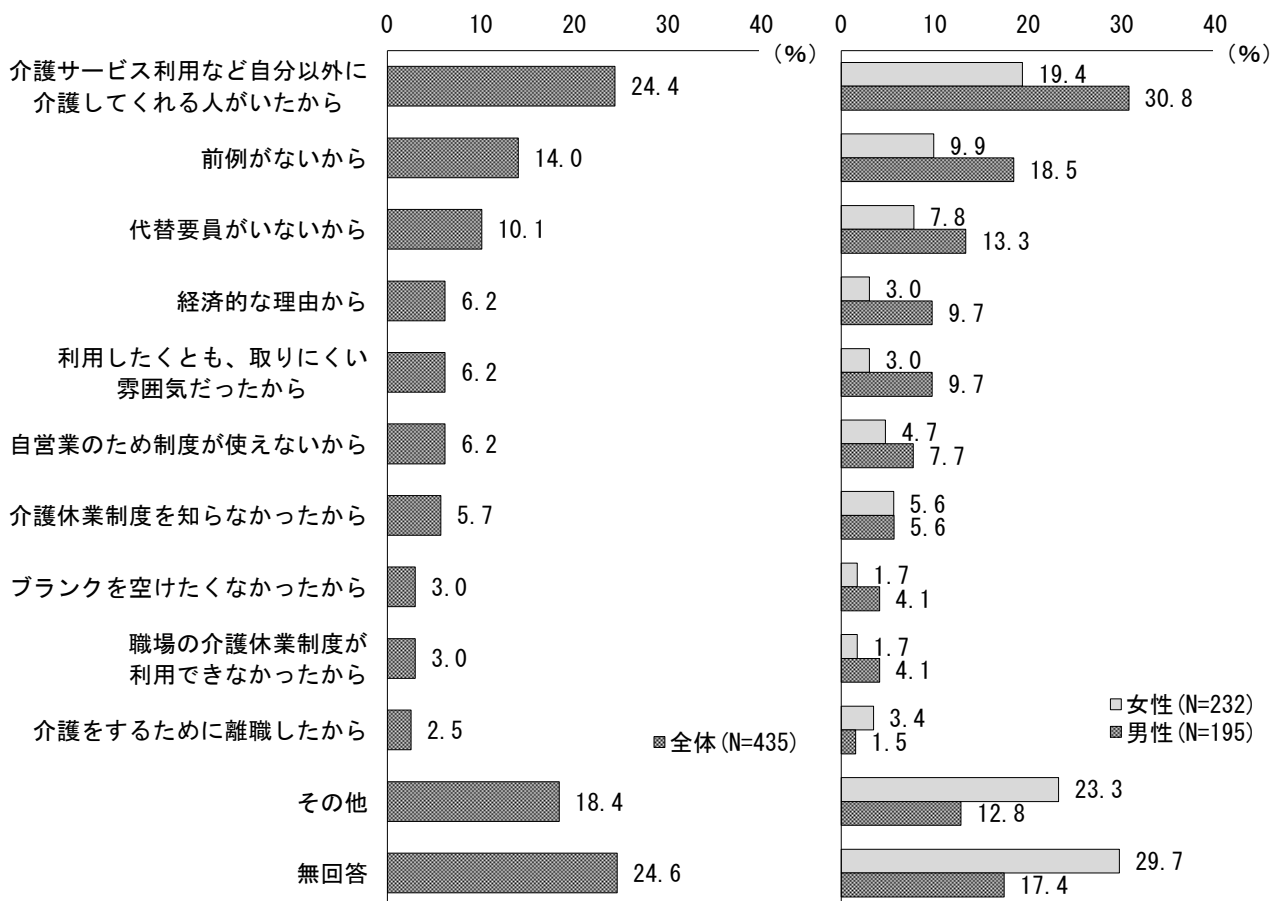
全体では、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから（24.4%）」が最も多く、「前例がないから（14.0%）」、「代替要員がないから（10.1%）」が続いています。

なお、「その他（18.4%）」には、「必要がない」、「仕事をしていない」といった回答があがっています。（図表 5-7-2）

【性別】

性別にみると、女性も男性も「自分以外に介護をしてくれる人がいたから（女性：19.4%、男性：30.8%）」が最も多くなっています。「介護をするために退職したから」は、女性 3.4%、男性 1.5%となっています。（図表 5-7-2）

図表 5-7-2 介護休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <介護休業を利用したことがない人>



【平成 27 年調査との比較】

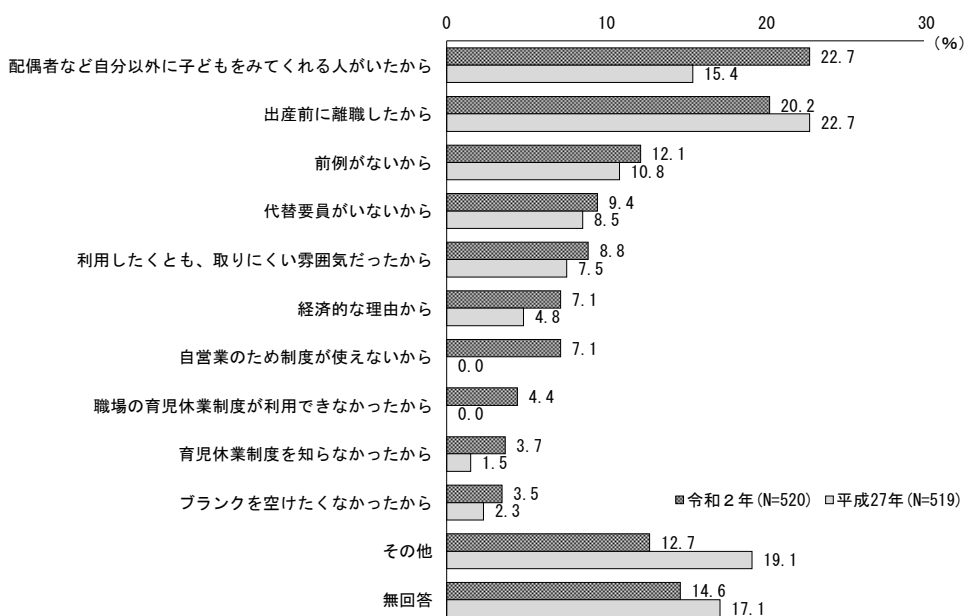
■育児休業

平成 27 年調査と比較すると、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから（令和 2 年調査：22.7%、平成 27 年調査：15.4%）」は 7.3 ポイント増えています。（図表 5-7-3）

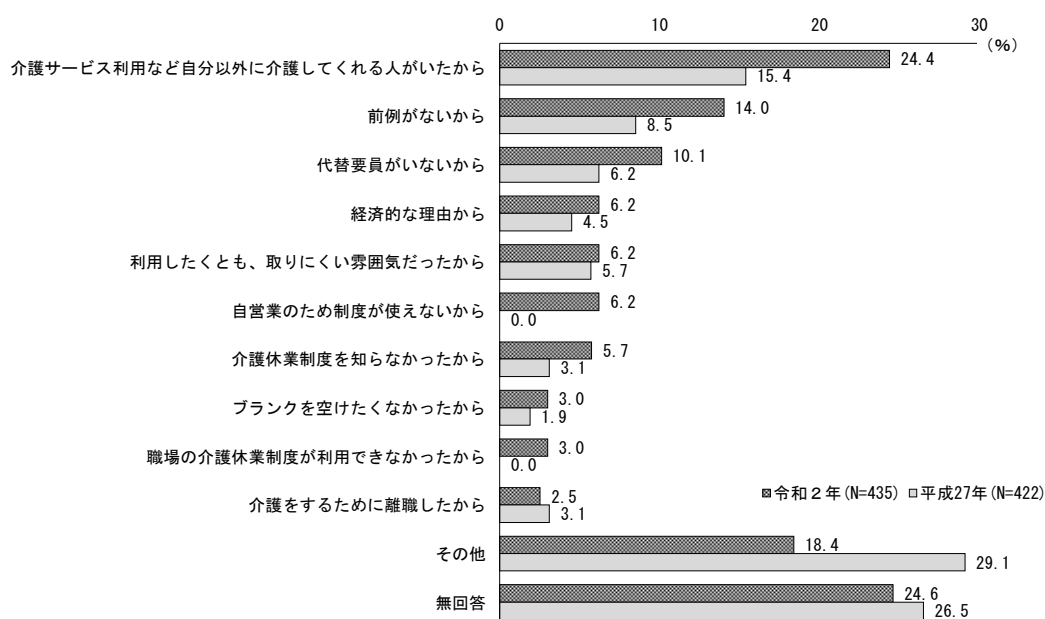
■介護休業

平成 27 年調査と比較すると、平成 27 年調査を上回る項目が多くなっており、特に「介護サービスなど自分以外に介護してくれる人がいたから（令和 2 年調査：24.4%、平成 27 年調査：15.4%）」は 9.0 ポイント増えています。（図表 5-7-4）

図表 5-7-3 育児休業を利用しなかった理由（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <育児休業を利用したことがない人>



図表 5-7-4 介護休業を利用しなかった理由（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <介護休業を利用したことがない人>



6 ワーク・ライフ・バランス

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況

問 11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。

(○は1つだけ)

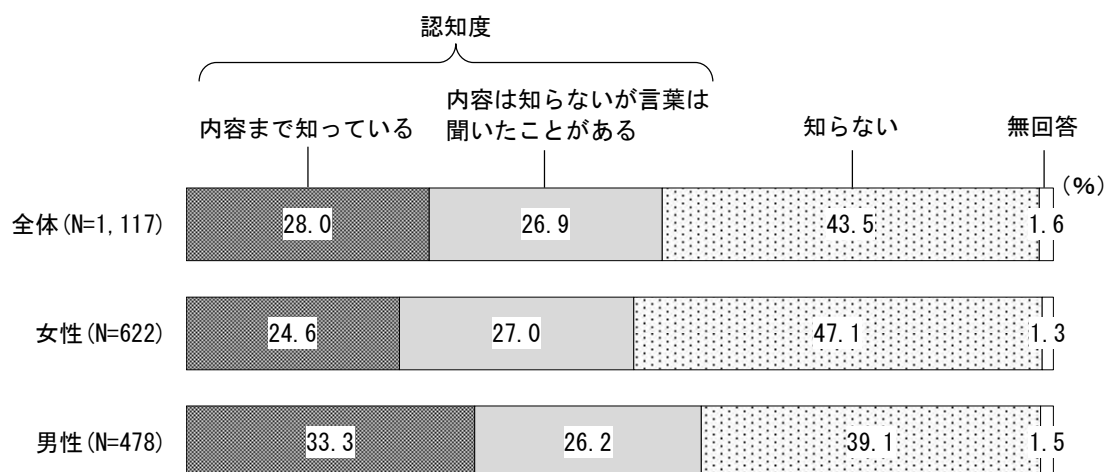
【全体】

全体では、「内容まで知っている」が 28.0%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が 26.9%となっており、両者をあわせた《認知度》は 54.9%となっています。一方、「知らない」は 43.5%となっています。(図表 6-1-1)

【性別】

性別にみると、《認知度》は女性が 51.6%、男性が 59.5%となっています。(図表 6-1-1)

図表 6-1-1 認知状況 (全体、性別)

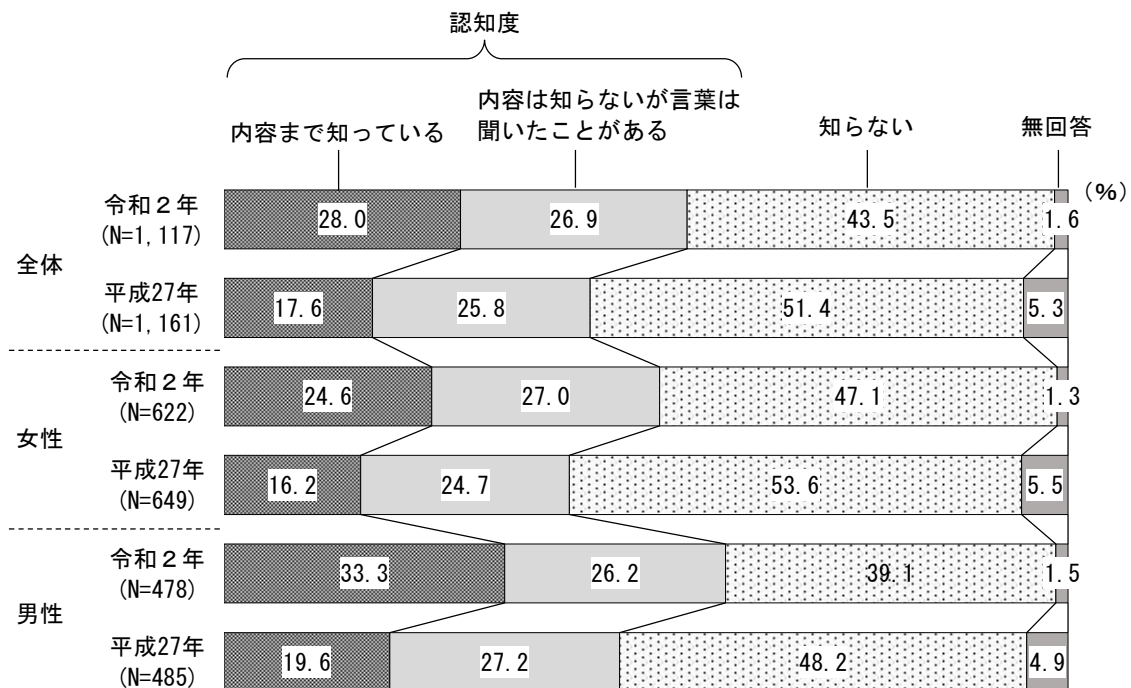


【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全体の《認知度》（「内容まで知っている」と「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の合計）は 54.9%で平成 27 年調査（43.4%）よりも 11.5 ポイント高くなっています。

性別にみると、女性の《認知度》は 51.6%で平成 27 年調査（40.9%）よりも 10.7 ポイント高くなっています。男性の《認知度》は 59.5%で平成 27 年調査（46.8%）よりも 12.7 ポイント高くなっています。（図表 6-1-2）

図表 6-1-2 認知状況（全体、性別、平成 27 年調査）



(2) 優先度の希望と現実

問 12 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、(ア) 希望と (イ) 現実（現状）、それぞれお答えください。(○は1つだけ)

■ 希望

【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について希望をたずねました。

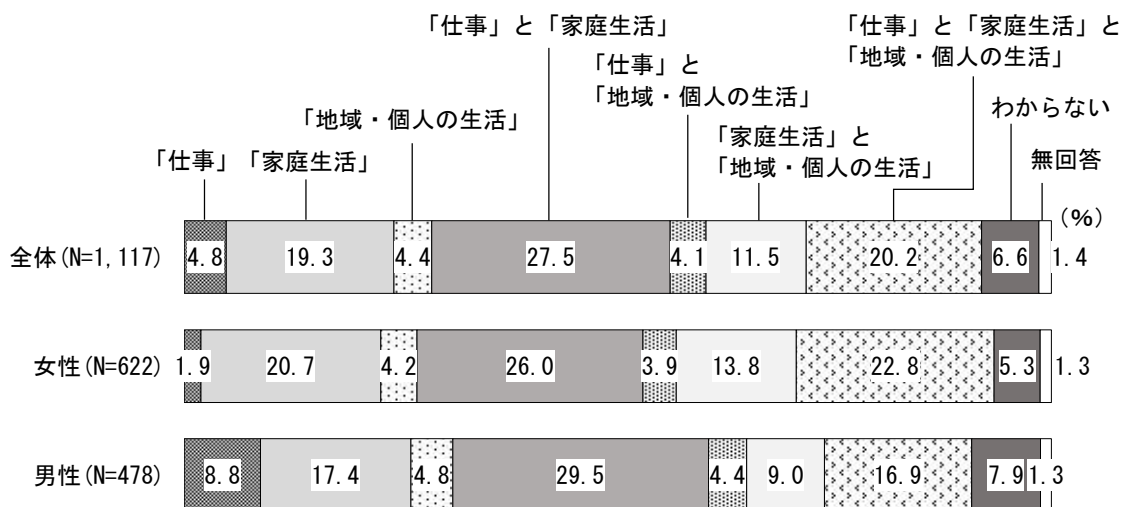
全体では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（27.5%）』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを優先したい（20.2%）』、『「家庭生活」を優先したい（19.3%）』が続いています。（図表 6-2-1）

【性別】

性別にみると、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（26.0%）』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを優先したい（22.8%）』、『「家庭生活」を優先したい（20.7%）』が2割台となっています。

男性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（29.5%）』が最も多くなっています。（図表 6-2-1）

図表 6-2-1 優先度の希望（全体、性別）



■現実

【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について現実をたずねました。

全体では、『「仕事」を優先している（24.4%）』が最も多く、『「家庭生活」を優先している（23.0%）』、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（21.7%）』が続いています。（図表6-2-2）

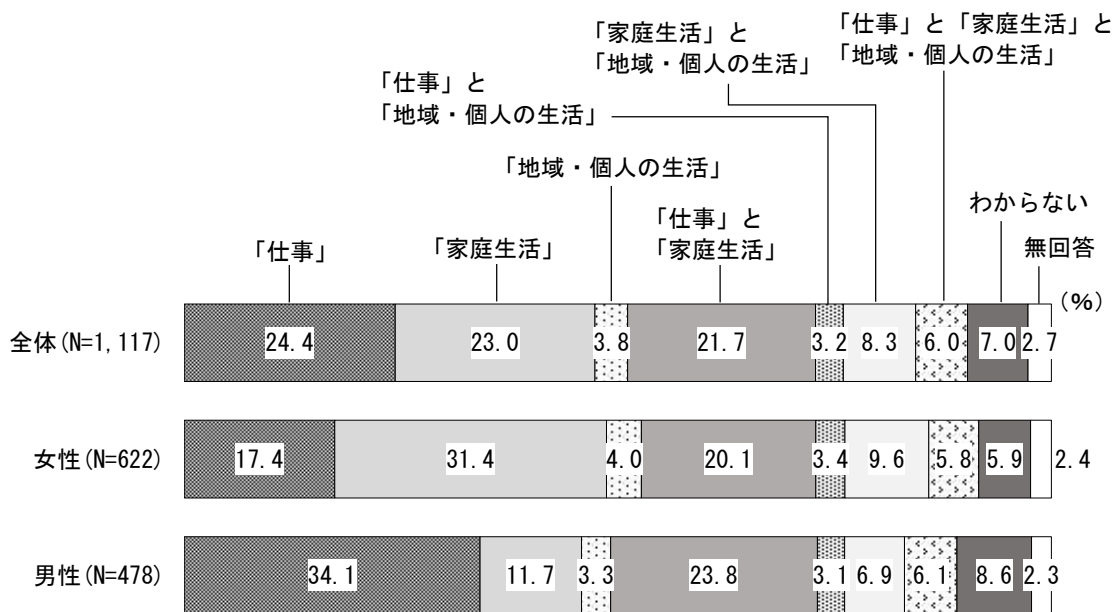
【性別】

性別にみると、女性は『「家庭生活」を優先している（31.4%）』が最も多くなっています。男性は『「仕事」を優先している（34.1%）』が最も多くなっています。（図表6-2-2）

■希望と現実の差

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』について希望と現実の差をみると、女性は希望が26.0%、現実が20.1%で差は5.9ポイントとなっています。男性は希望が29.5%、現実が23.8%で差は5.7ポイントとなっています。（図表6-2-1、6-2-2）

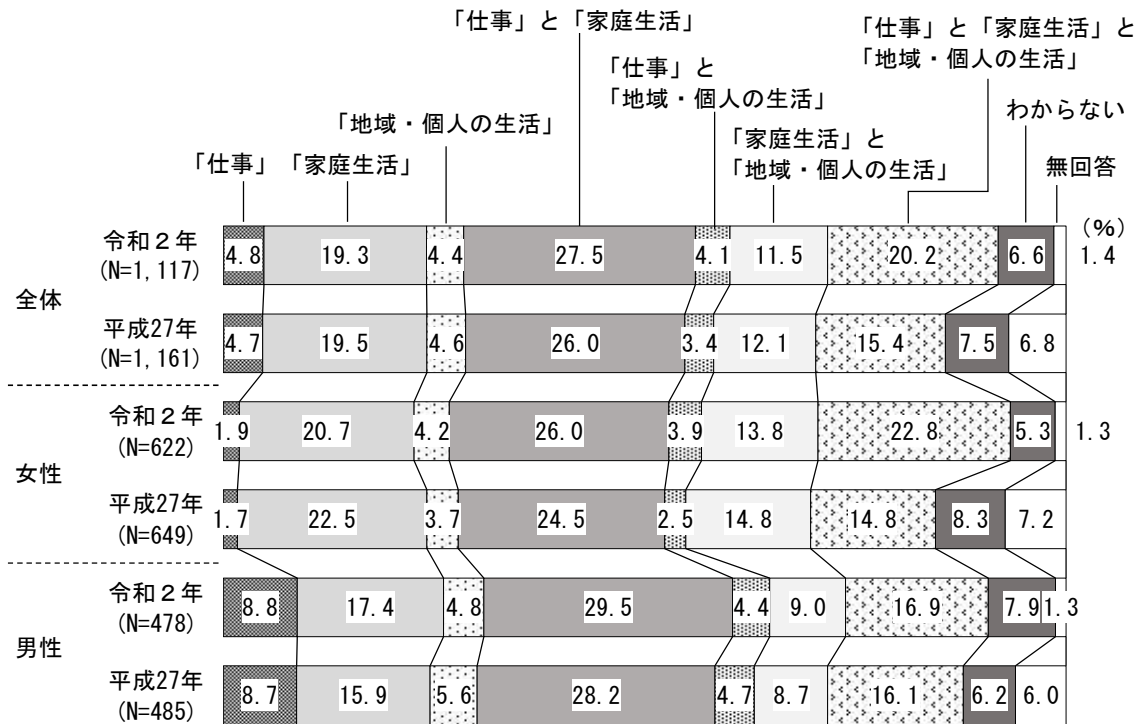
図表 6-2-2 優先度の現実（全体、性別）



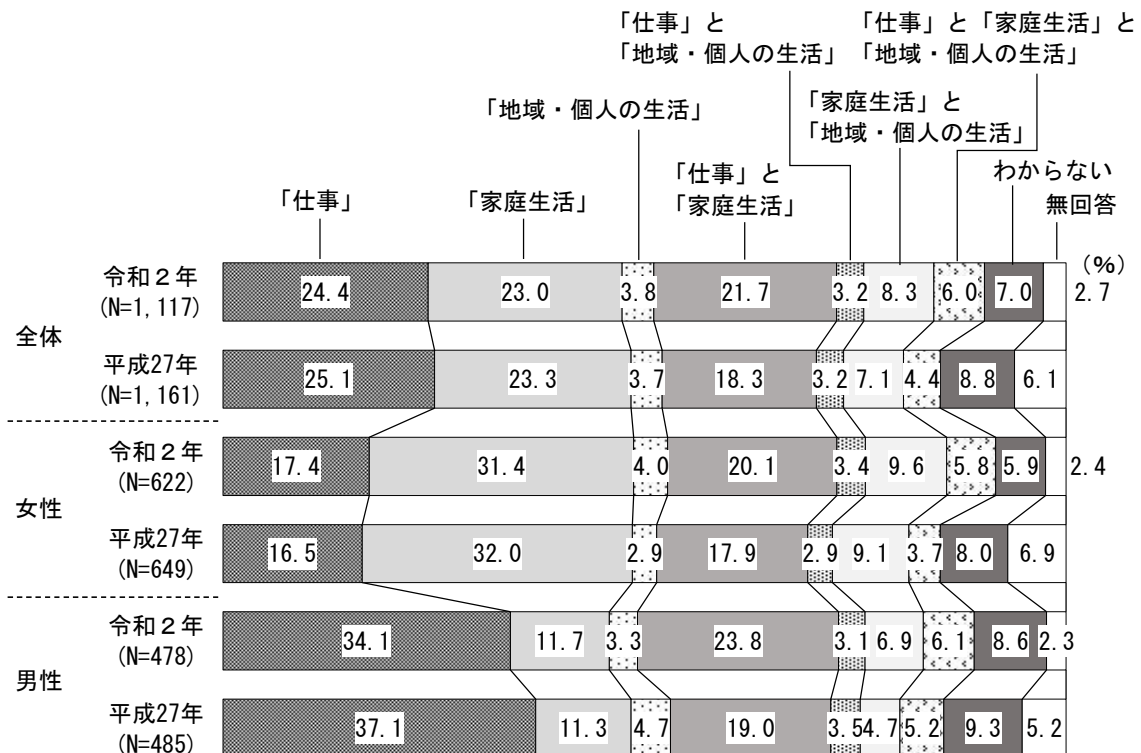
【平成 27 年調査との比較】

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の希望と現実の差について平成 27 年調査と比較すると、女性は 6.6 ポイントから 5.9 ポイントに、男性は 9.2 ポイントから 5.7 ポイントに差が縮まっています。(図表 6-2-3、図表 6-2-4)

図表 6-2-3 優先度の希望 (全体、性別、平成 27 年調査)



図表 6-2-4 優先度の現実 (全体、性別、平成 27 年調査)



(3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問 13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

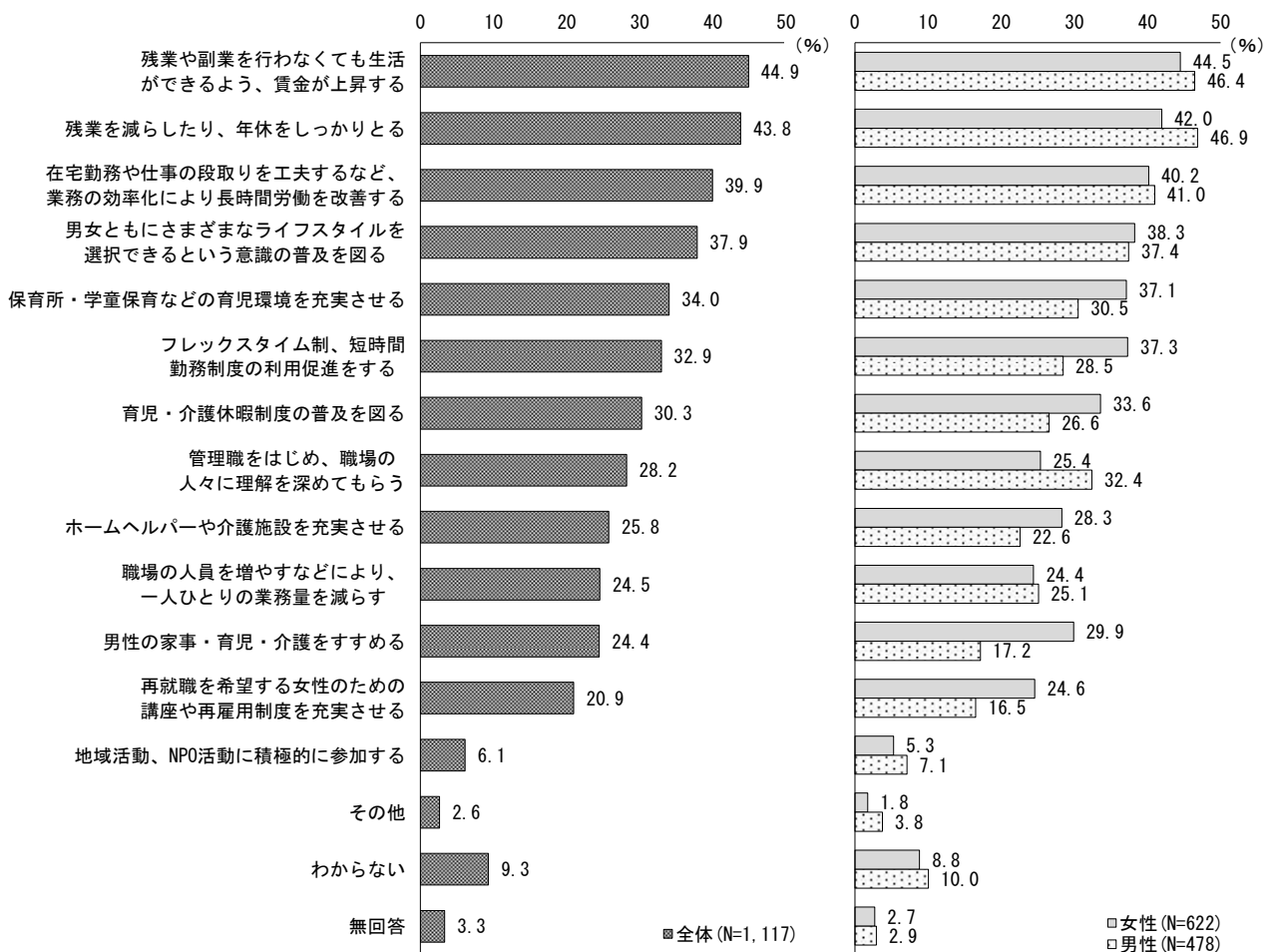
全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (44.9%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (43.8%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (39.9%)」が続いています。(図表 6-3-1)

【性別】

性別にみると、女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (44.5%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (42.0%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (40.2%)」が続いています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (46.9%)」が最も多く、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (46.4%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (41.0%)」が続いています。(図表 6-3-1)

図表 6-3-1 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと (全体、性別：複数回答)



7 セクシュアル・ハラスメント

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問 14 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。（○は職場、学校、地域ごとにあてはまるものすべて）

■ 職場

【全体】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

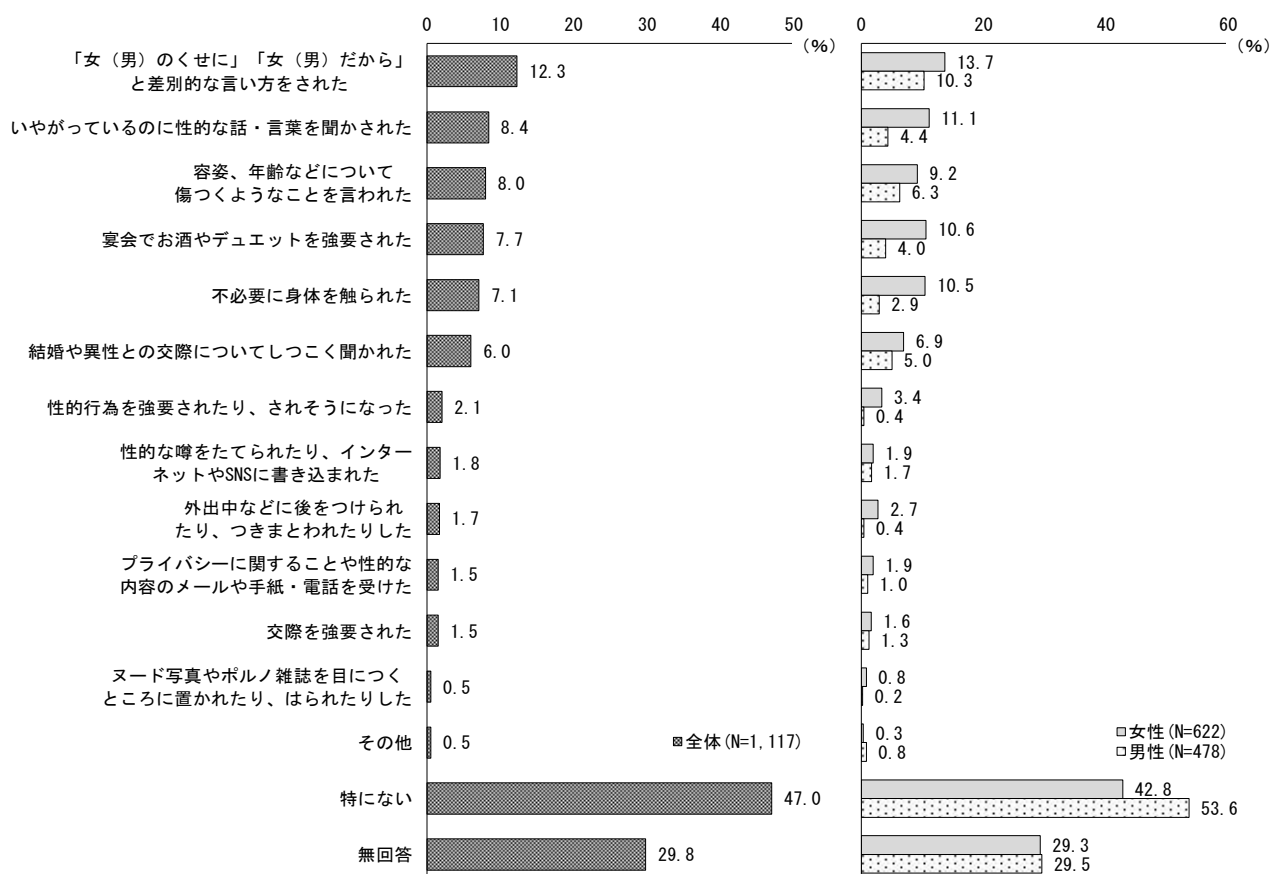
全体では、「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（12.3%）」が最も多く、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた（8.4%）」、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（8.0%）」が続いています。（図表 7-1-1）

【性別】

性別にみると、女性は「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（13.7%）」、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた（11.1%）」、「宴会でお酒やデュエットを強要された（10.6%）」、「不必要に身体を触られた（10.5%）」が1割台となっています。

男性は「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（10.3%）」が最も多くなっています。また、「特にない」は女性 42.8%、男性 53.6%で男性が多くなっています。（図表 7-1-1）

図表 7-1-1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）



■学校

【全体】

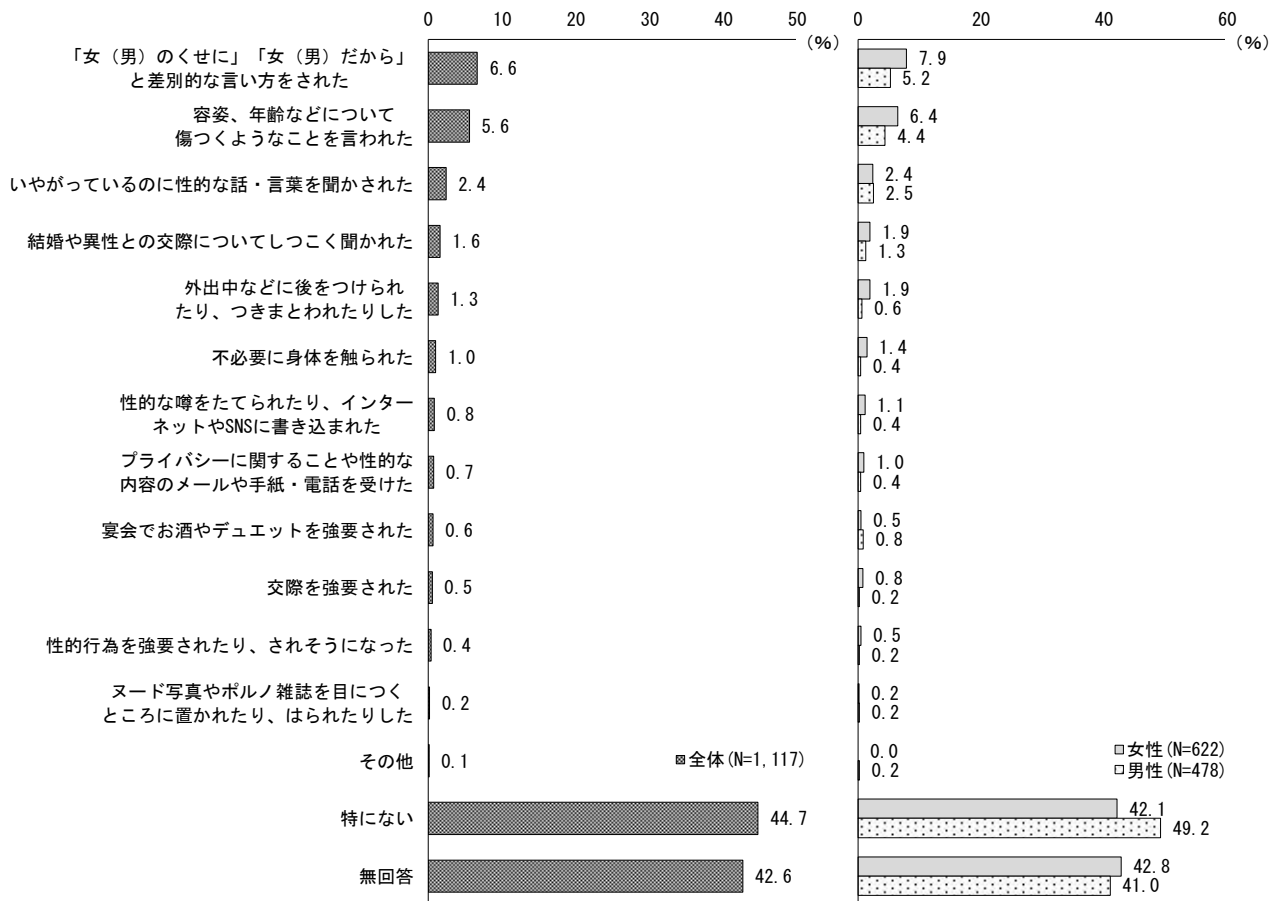
学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（6.6%）」と「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（5.6%）」が多くなっています。（図表 7-1-2）

【性別】

性別にみると、男女ともに「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：7.9%、男性 5.2%）」が最も多くなっています。また、「特にない」は女性 42.1%、男性 49.2%で男性が多くなっています。（図表 7-1-2）

図表 7-1-2 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）



■ 地域

【全体】

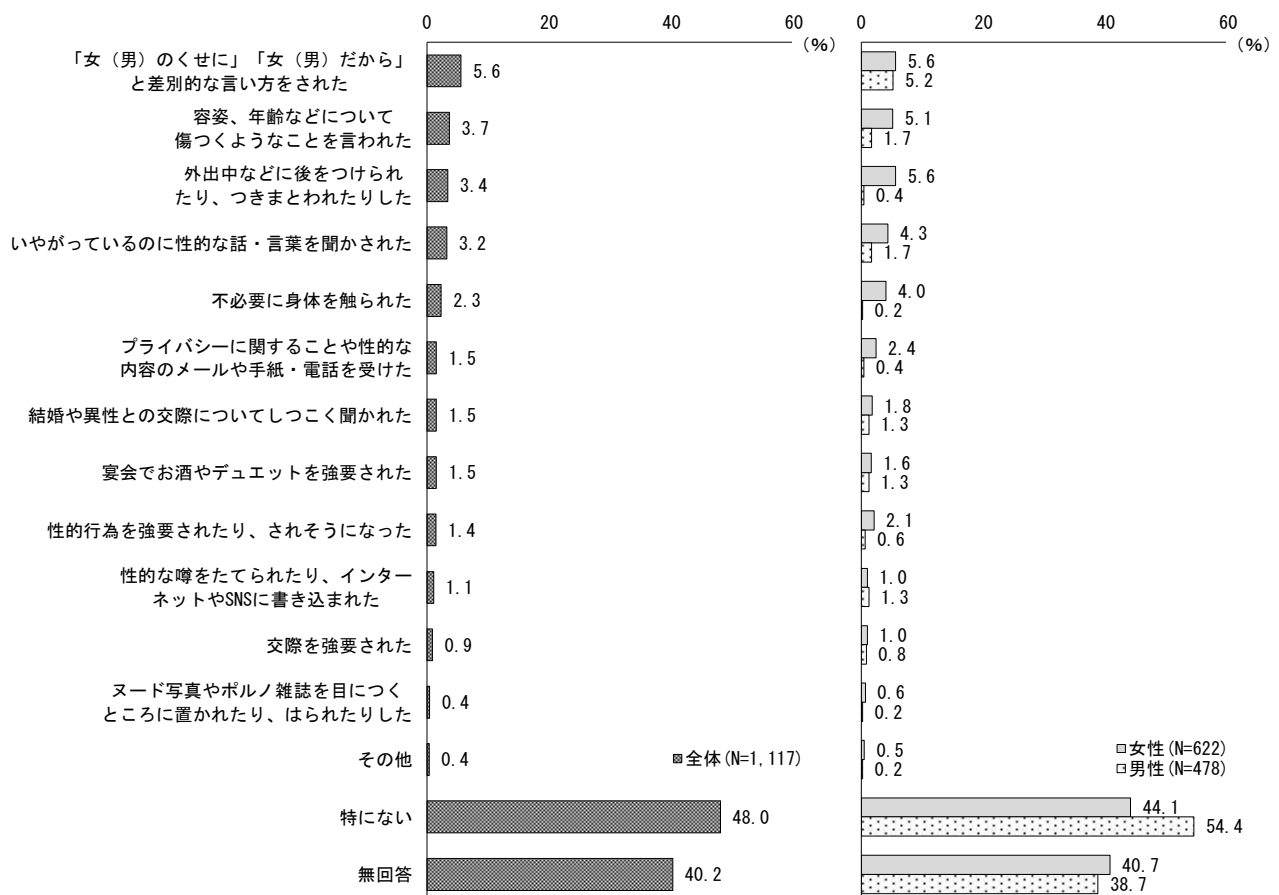
地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（5.6%）、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（3.7%）」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした（3.4%）」、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた（3.2%）」が多くなっています。（図表 7-1-3）

【性別】

性別にみると、男性女性いずれも「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：5.6%、男性 5.2%）」が最も多くなっています。また、「特にない」は女性 44.1%、男性 54.4%で男性が多くなっています。（図表 7-1-3）

図表 7-1-3 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）

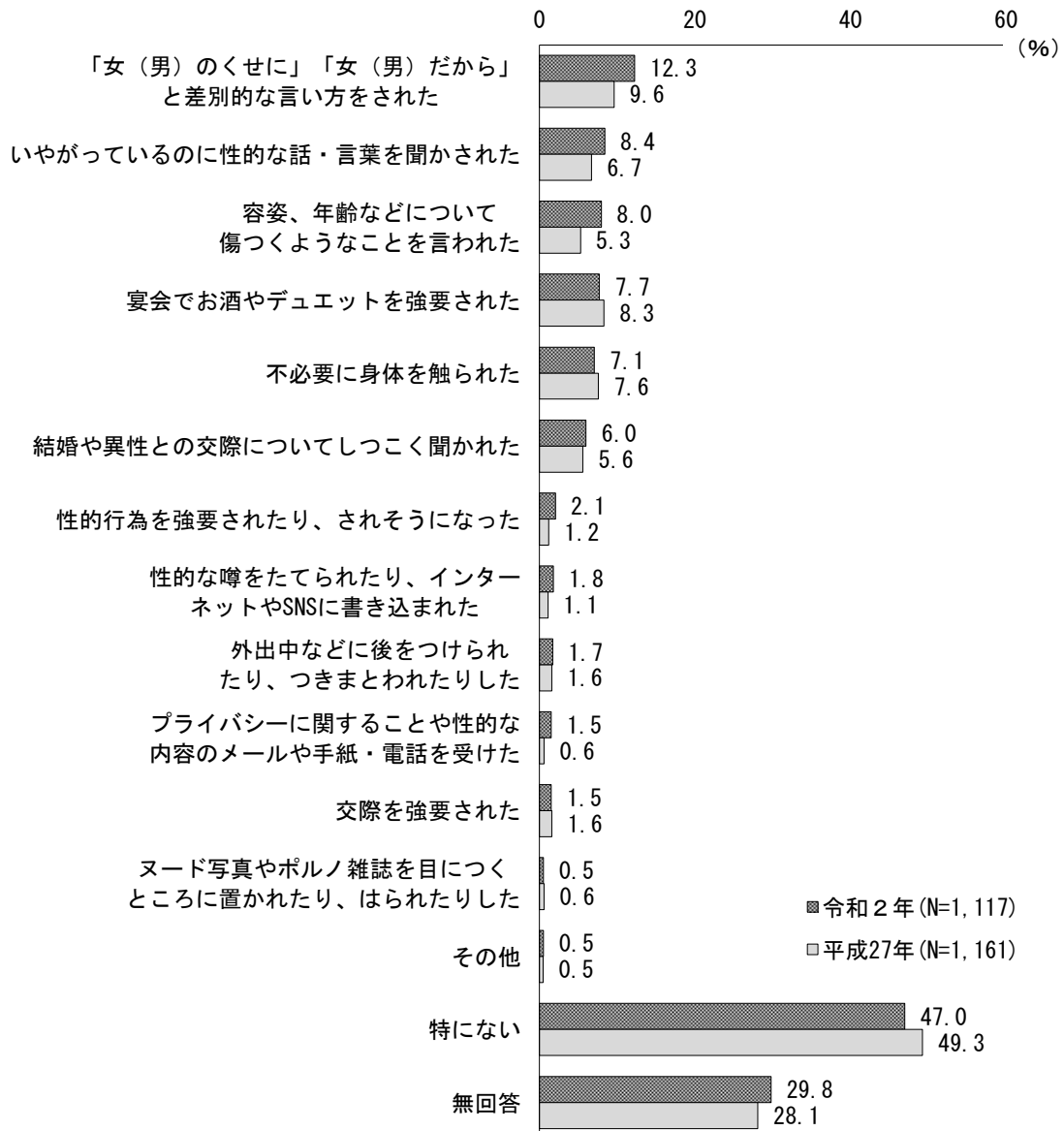


■ 職場

【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた」と「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」が平成 27 年調査から上位に上がっています。(図表 7-1-4)

図表 7-1-4 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、平成 27 年調査）

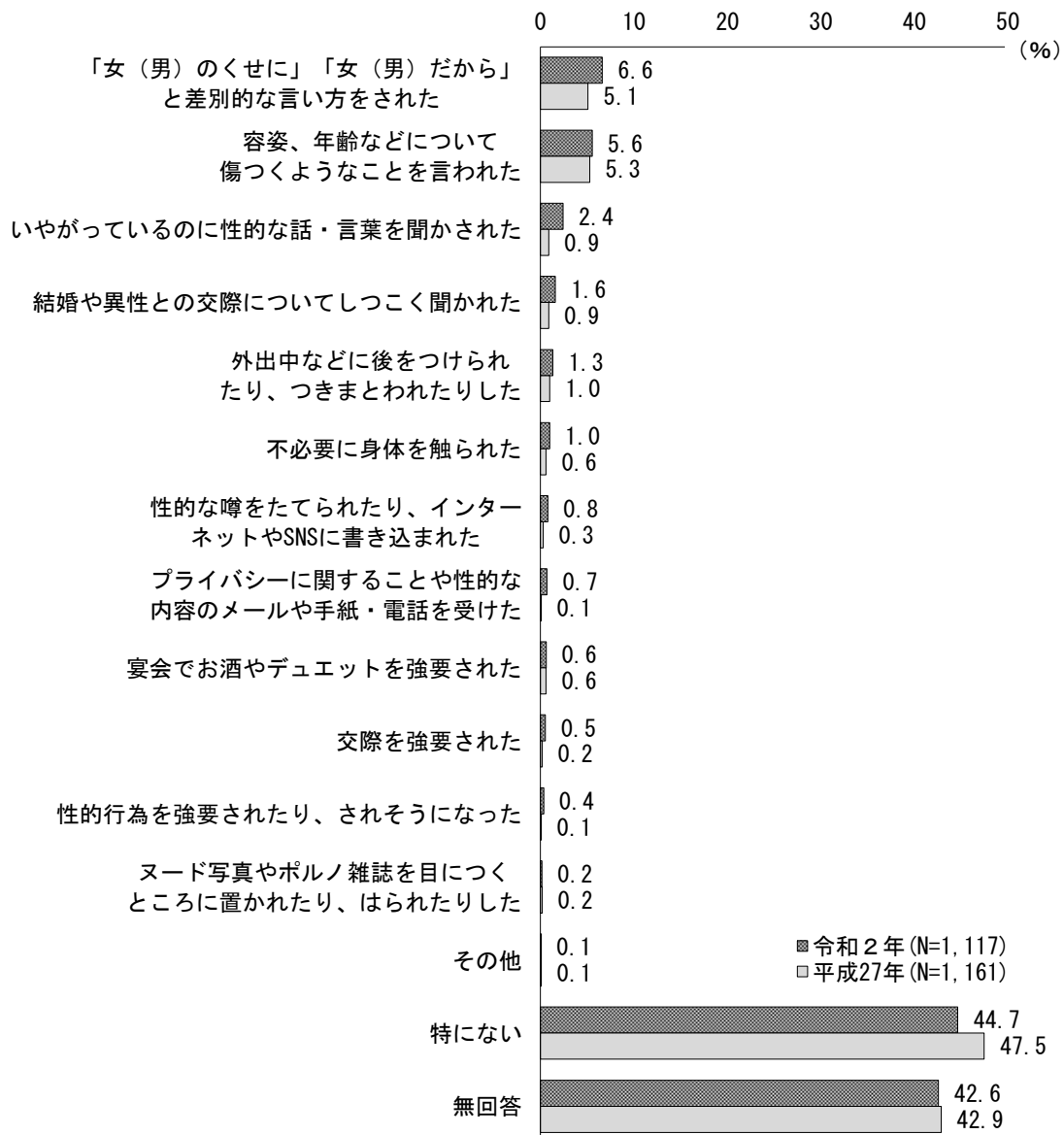


■学校

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、上位2項目は平成27年調査と同じです。(図表7-1-5)

図表7-1-5 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、平成27年調査)

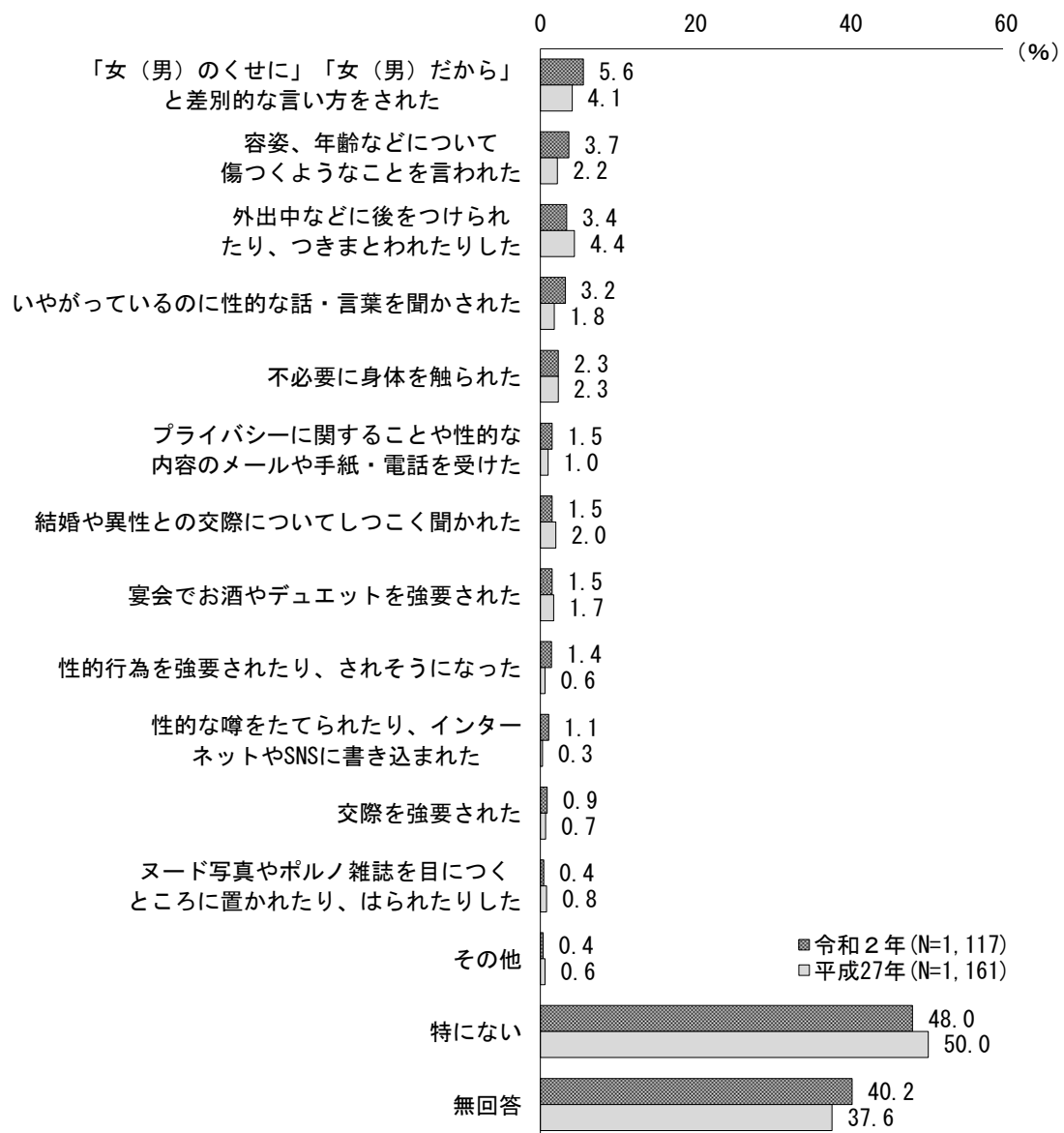


■ 地域

【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」が平成 27 年調査よりも上位に上がっています。(図表 7-1-6)

図表 7-1-6 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、平成 27 年調査）



(2) 相談の有無

問 15 は、問 14 の (ア) ~ (ス) に、1 つでも○をつけた方におうかがいします。
問 15 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

【全体】

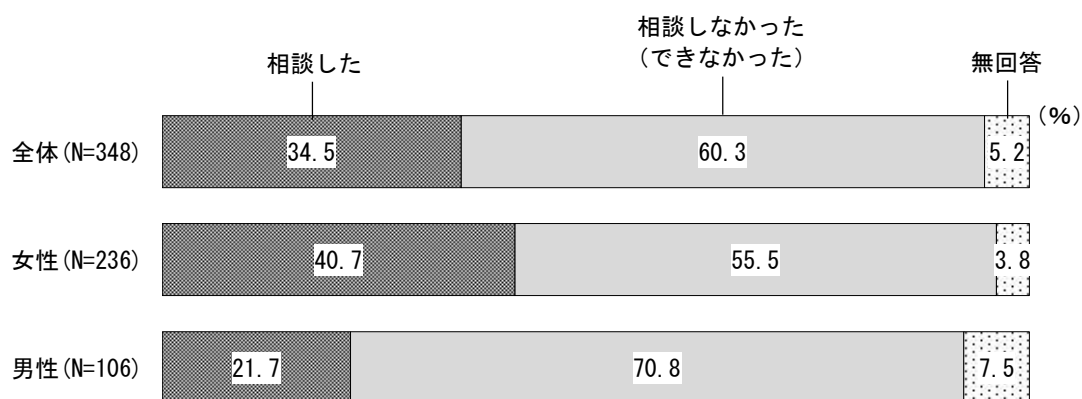
何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。

全体では、「相談した」が 34.5%、「相談しなかった(できなかった)」が 60.3%となっています。(図表 7-2-1)

【性別】

性別にみると、「相談した」は女性が 40.7%、男性が 21.7%で、女性が男性を 19.0 ポイント上回っています。(図表 7-2-1)

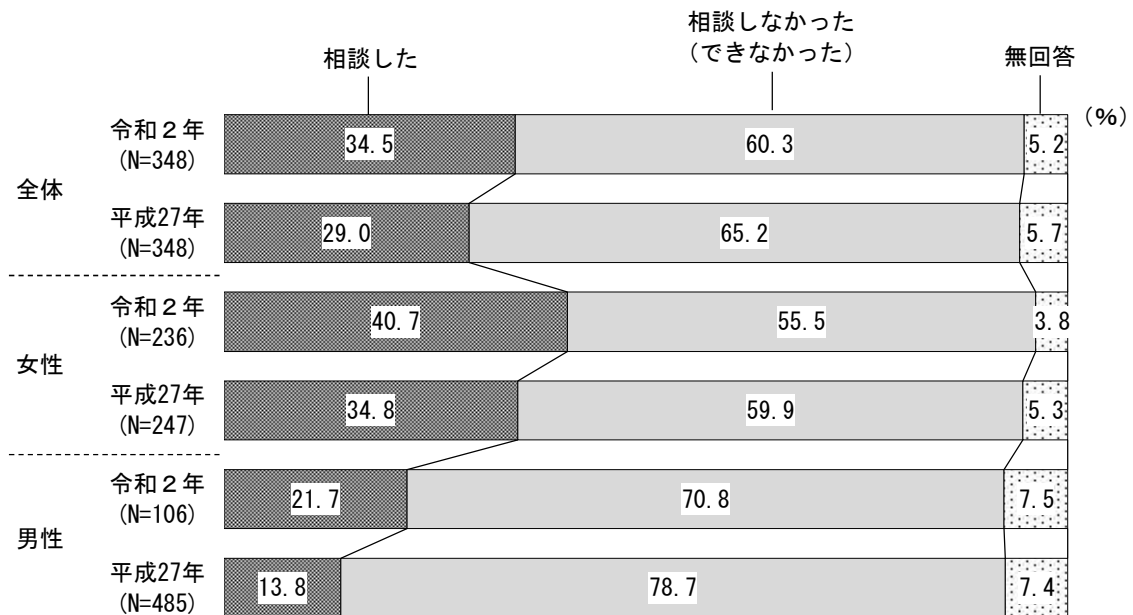
図表 7-2-1 相談の有無(全体、性別)
<セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全体、女性、男性ともに「相談した」が平成 27 年調査よりも増えています。女性（40.7%）は平成 27 年調査（34.8%）よりも 5.9 ポイント増えています。（図表 7-2-2）

図表 7-2-2 相談の有無（全体、性別、平成 27 年調査）
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



(3) 相談先

問 15 で「1. 相談した」とお答えの方に
 問 15-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（○はあてはまるものすべて）

【全体】

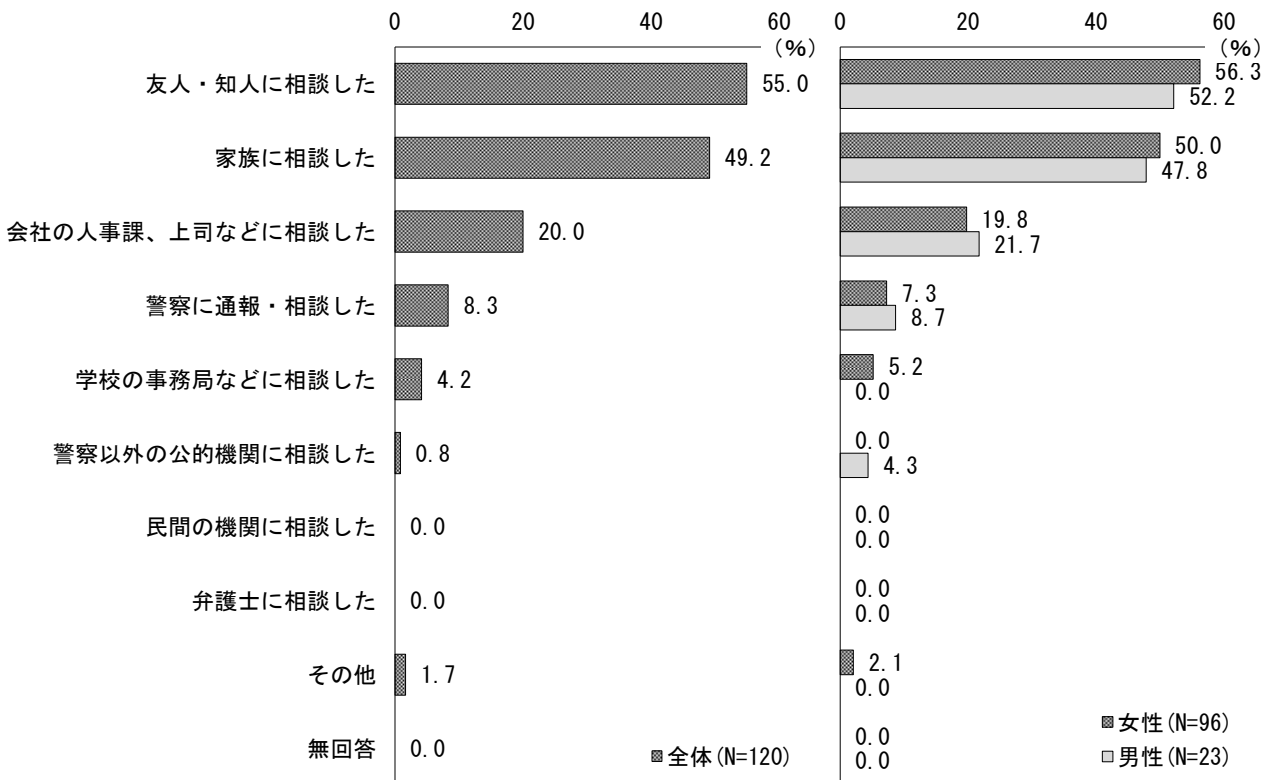
セクシュアル・ハラスメントについて「相談した」と回答した人に、その相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談した（55.0%）」が最も多く、「家族に相談した（49.2%）」、「会社の人事課、上司等に相談した（20.0%）」が続いています。（図表 7-3-1）

【性別】

性別にみると、男女ともに「友人・知人に相談した（女性：56.3%、男性：52.2%）」が最も多く、「家族に相談した（女性：50.0%、男性：47.8%）」、「会社の人事課、上司等に相談した（女性：19.8%、男性：21.7%）」が続いています。（図表 7-3-1）

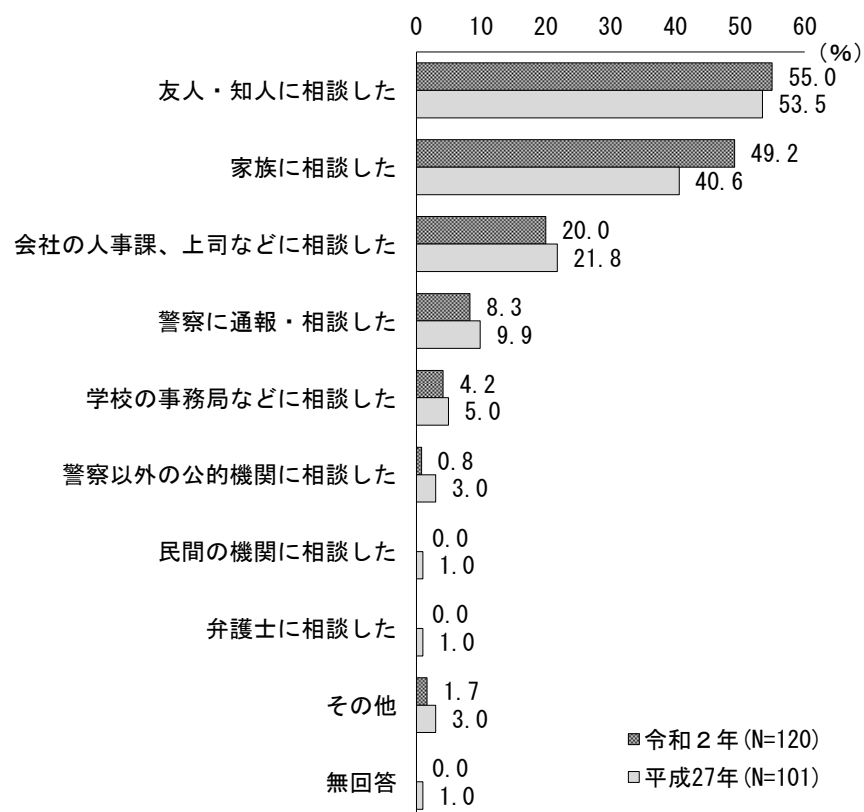
図表 7-3-1 相談先（全体、性別：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「友人・知人に相談した（令和 2 年調査：55.0%、平成 27 年調査 53.5%）」、「家族に相談した（令和 2 年調査：49.2%、平成 27 年調査：40.6%）」は、それぞれ平成 27 年調査より 1.5 ポイント、8.6 ポイント増えています。（図表 7-3-2）

図表 7-3-2 相談先（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



(4) 相談しなかった、できなかった理由

問 15 で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えの方に
 問 15-2 だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 （○はあてはまるものすべて）

【全体】

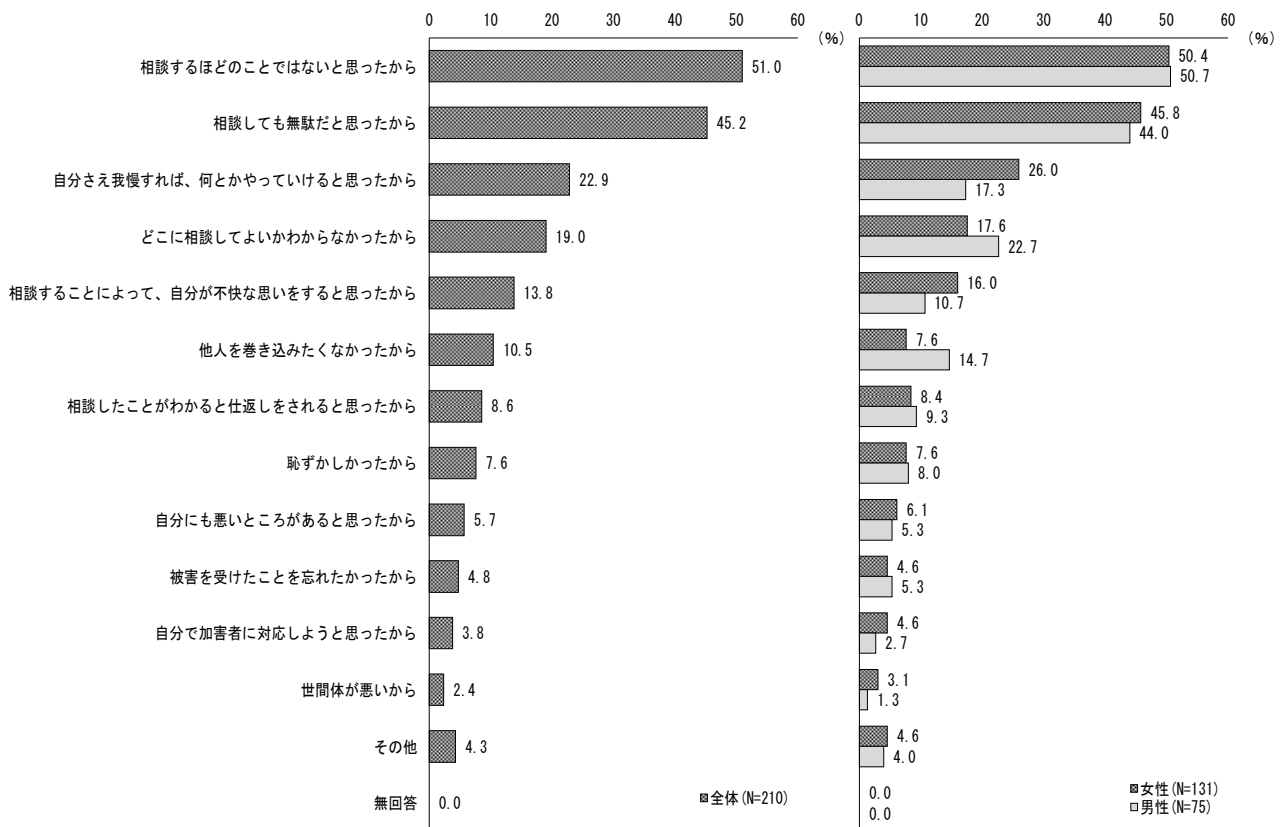
セクシュアル・ハラスメントについて「相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから（51.0%）」、「相談しても無駄だと思ったから（45.2%）」が4割を超えています。（図表 7-4-1）

【性別】

性別にみると、男女いずれも「相談するほどのことではないと思ったから（女性：50.4%、男性：50.7%）」が最も多く5割台となっています。（図表 7-4-1）

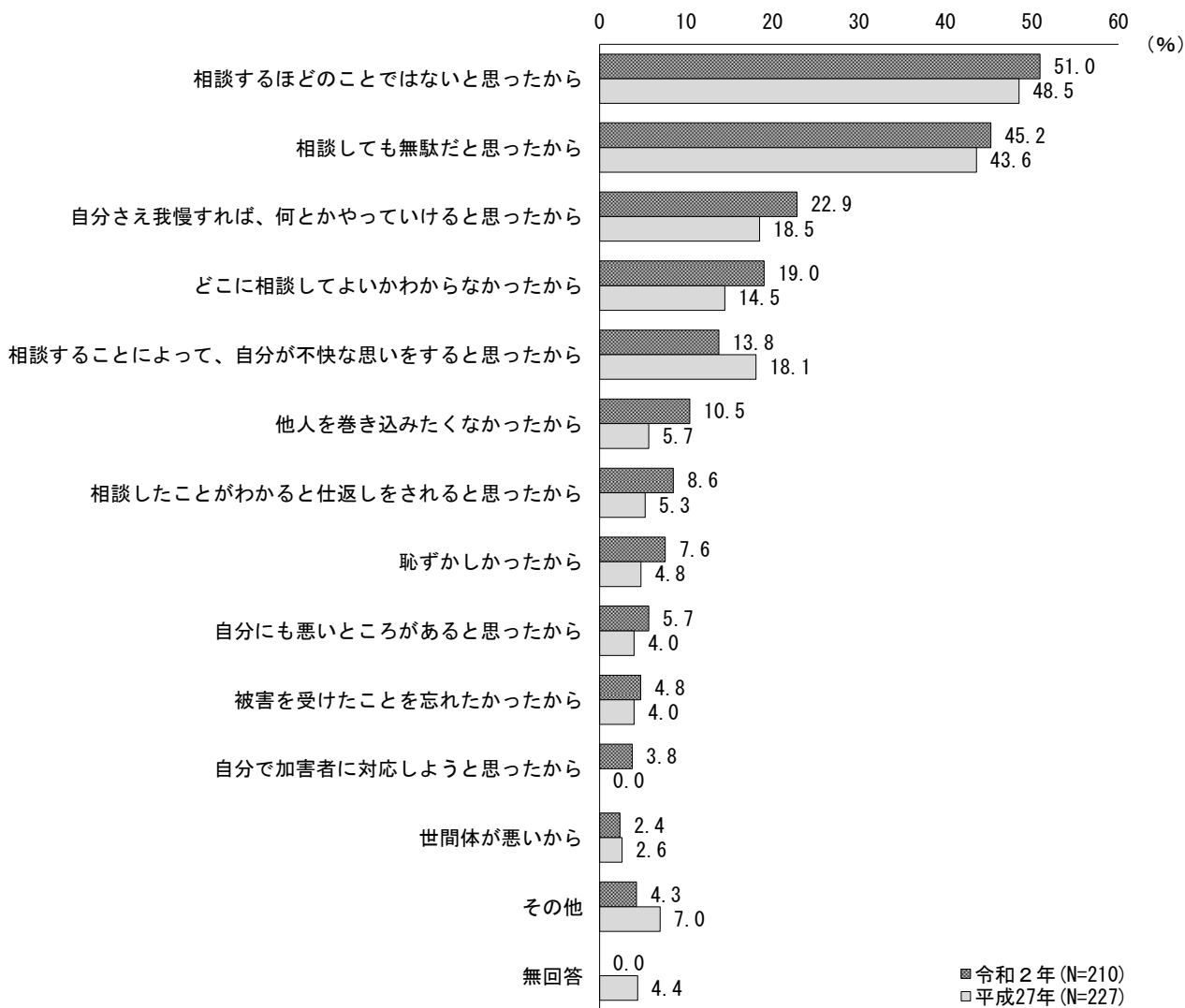
図表 7-4-1 相談しなかった、できなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、多くの理由が平成 27 年調査に比べて増えています。(図表 7-4-2)

図表 7-4-2 相談しなかった、できなかった理由（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人>



8 ドメスティック・バイオレンス

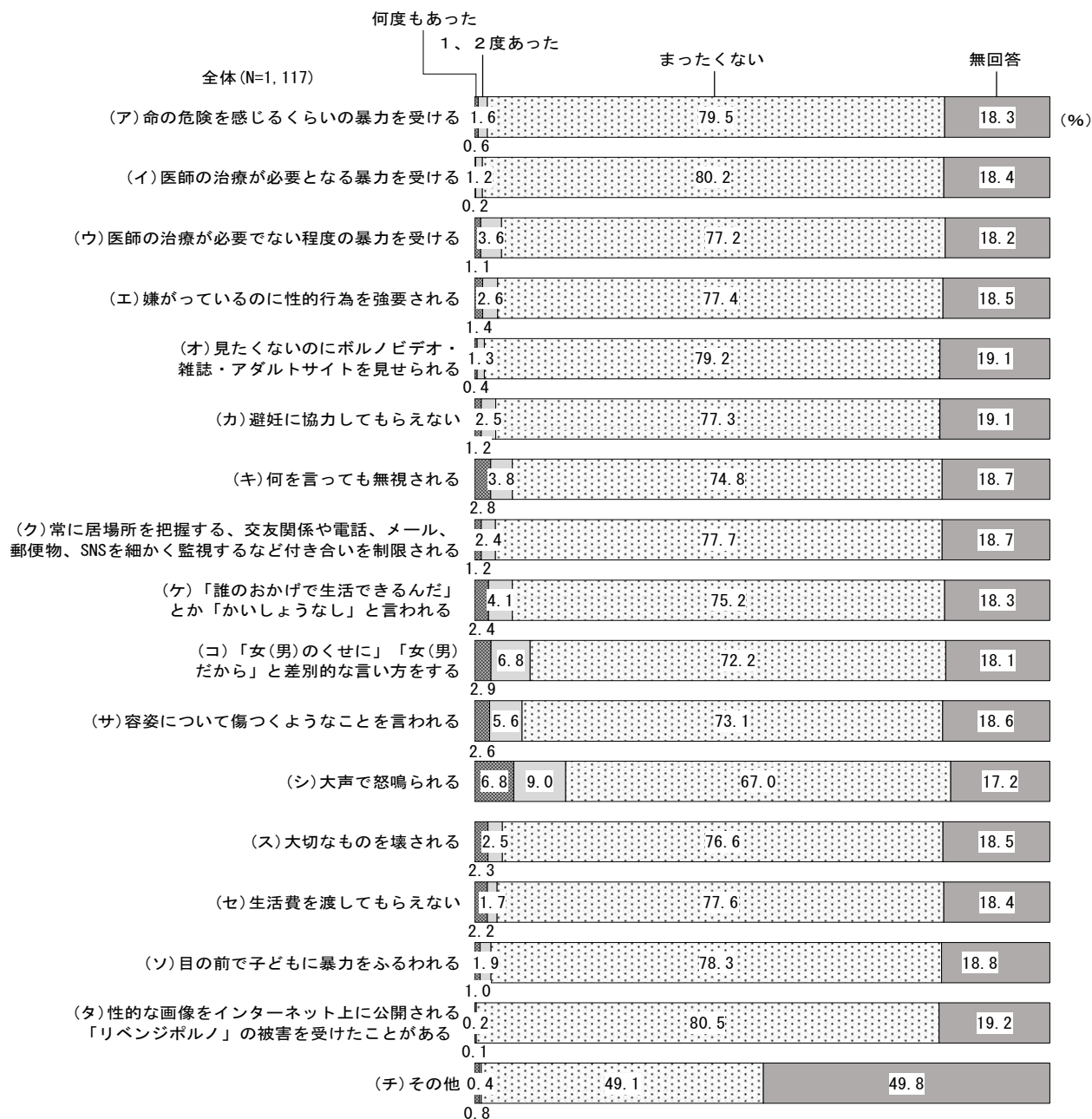
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験の有無

問 16 「ドメスティック・バイオレンス」とは配偶者などに対し、著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいますが、あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげる（ア）～（タ）のような経験がありますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

【全体】

全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる（15.8%）』が最も多く、『女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（9.7%）、『容姿について傷つくようなことを言われる（8.2%）』、『何を言っても無視される（6.6%）』が続いています。（図表 8-1-1）

図表 8-1-1 ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（全体）

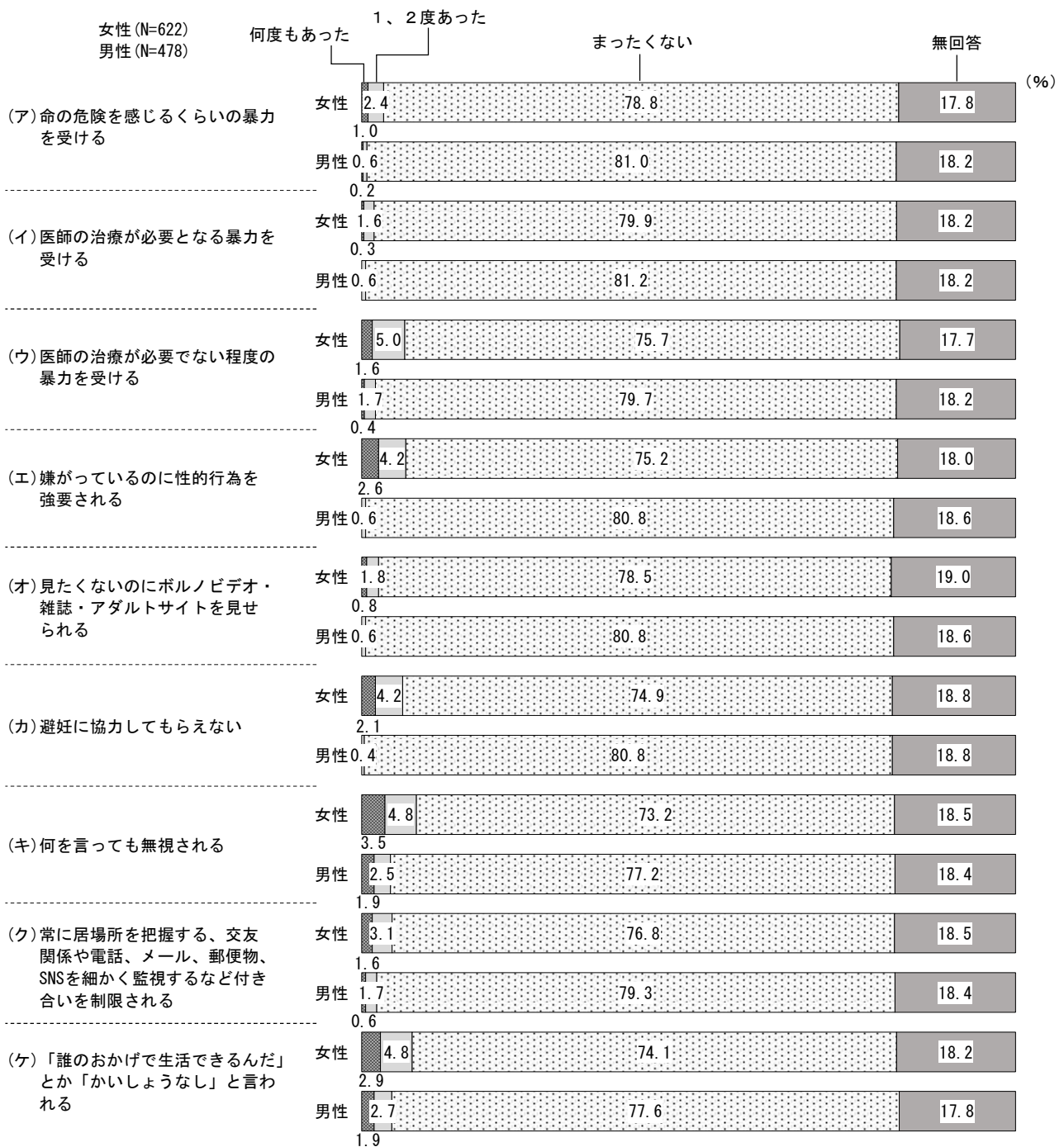


【性別】

性別にみると、女性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる (20.1%)』が最も多く、『「女 (男) のくせに」「女 (男) だから」と差別的な言い方をされる (11.3%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる (10.1%)』、『何を言っても無視される (8.3%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる (7.7%)』、『嫌がっているのに性的行為を強要される (6.8%)』が続いています。

また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は 3.4% (21 人)、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は 1.9% (12 人) となっています。(図表 8-1-2)

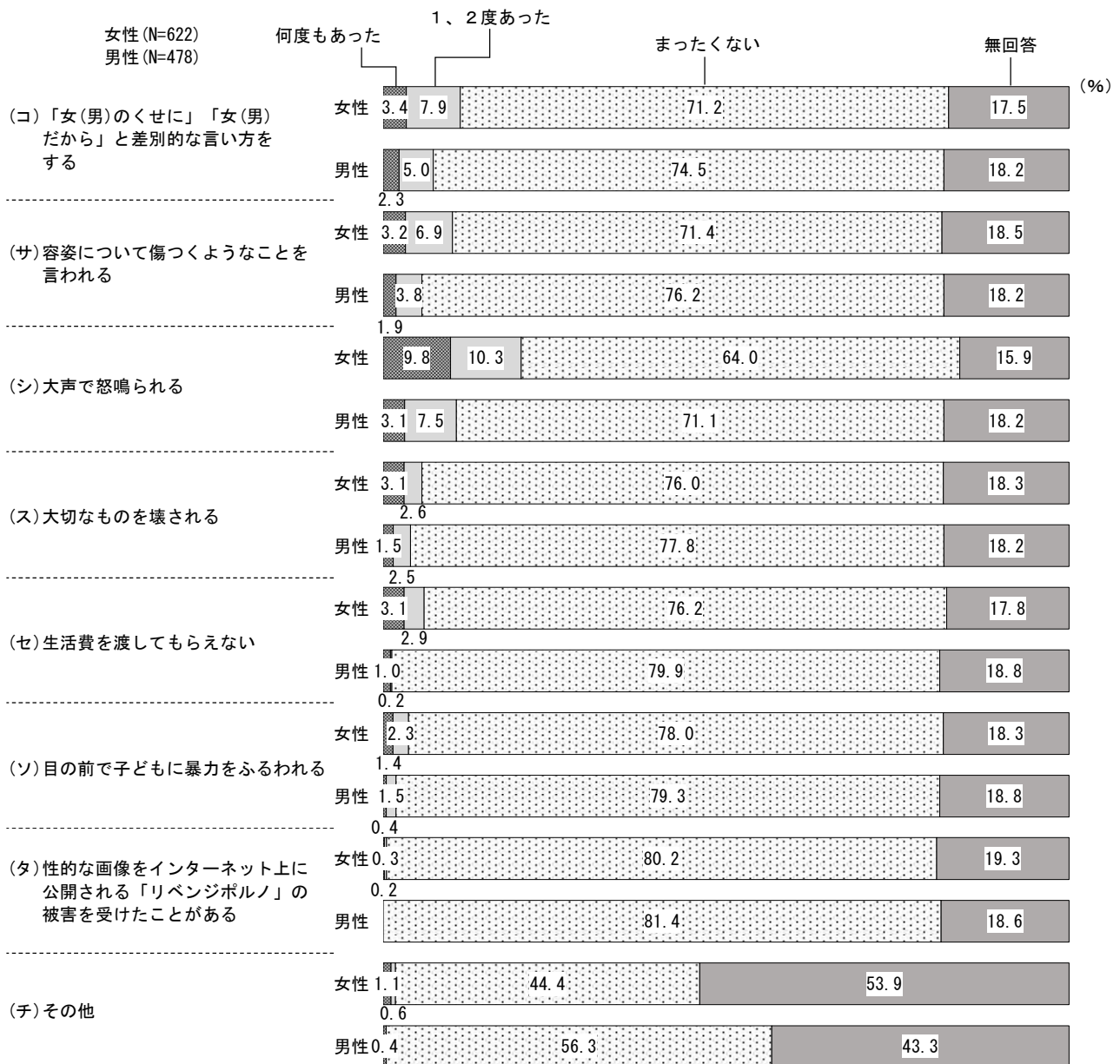
図表 8-1-2 ドメスティック・バイオレンスの経験の有無 (性別)



男性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる（10.6%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（7.3%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（5.7%）』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（4.6%）』、『何を言っても無視される（4.4%）』、『大切なものを壊される（4.0%）』が続いています。

また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は 0.8%（4 人）、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は 0.6%（3 人）となっています。（図表 8-1-2）

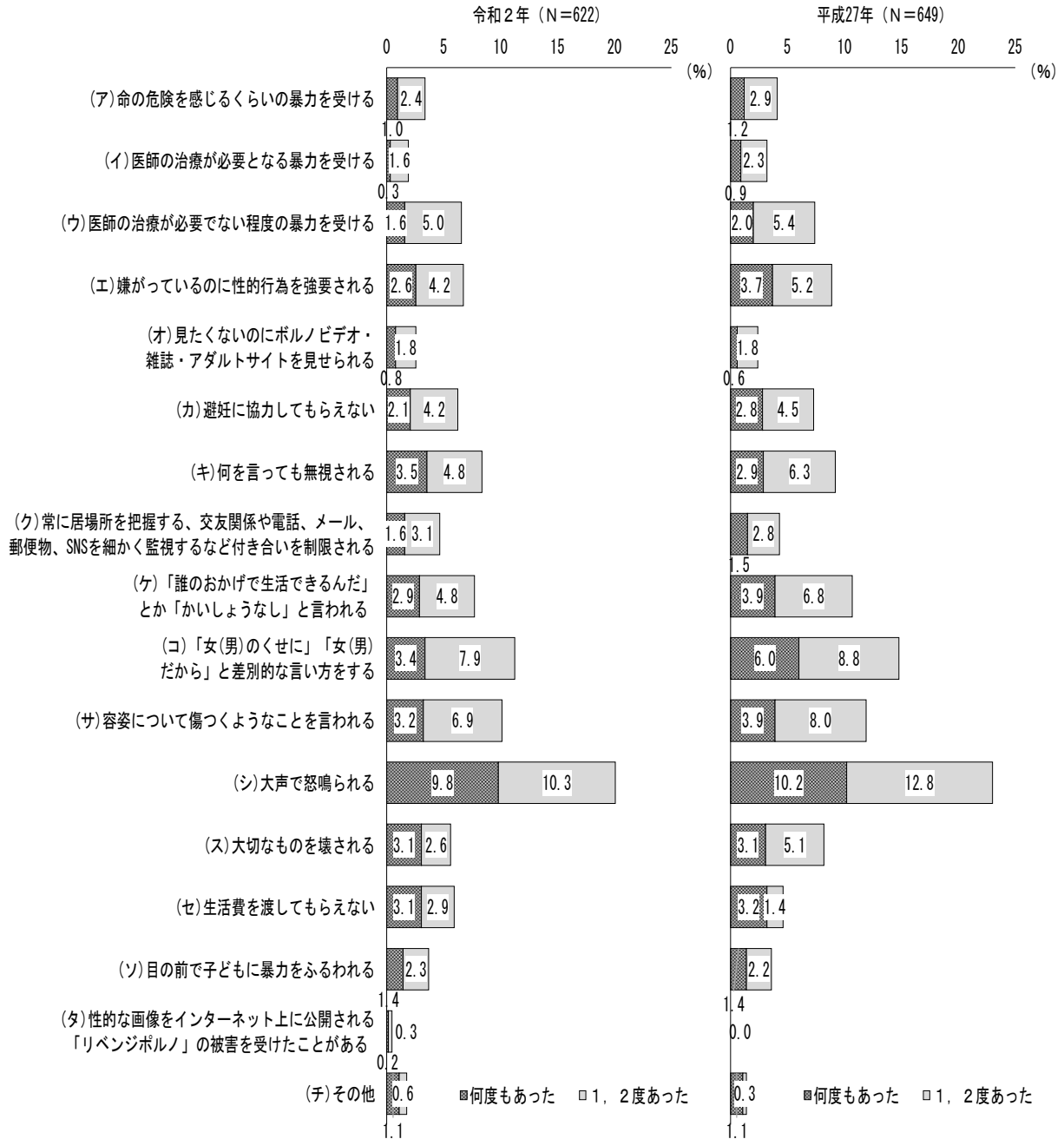
図表 8-1-2 ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、女性は 16 項目中 4 項目で平成 27 年調査よりも増えています。
 (図表 8-1-3)

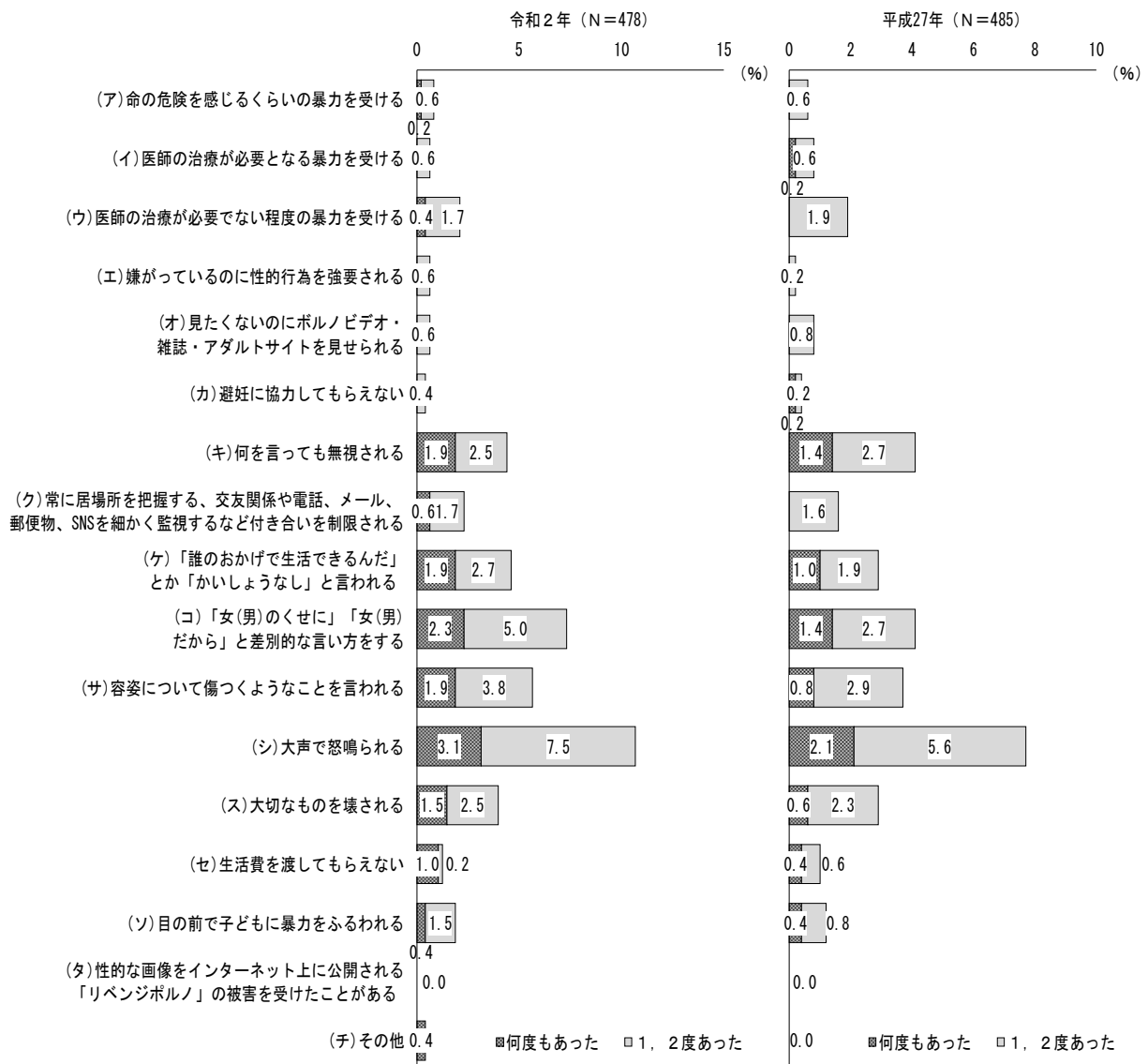
図表 8-1-3 ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、平成 27 年調査）
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、男性は 16 項目中 12 項目で平成 27 年調査よりも増えています。特に『「女（男）のくせに」「女（男だから）」と差別的な言い方をされる』（令和 2 年調査：7.3%、平成 27 年調査：4.1%）は 3.2 ポイント増えています。（図表 8-1-4）

図表 8-1-4 ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、平成 27 年調査）
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



(2) 相談の有無

問 17 は、問 16 の (ア) ~ (タ) の「何度もあった」「1、2度あった」に、1つでも○をつけた方におうかがいします。

問 17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

【全体】

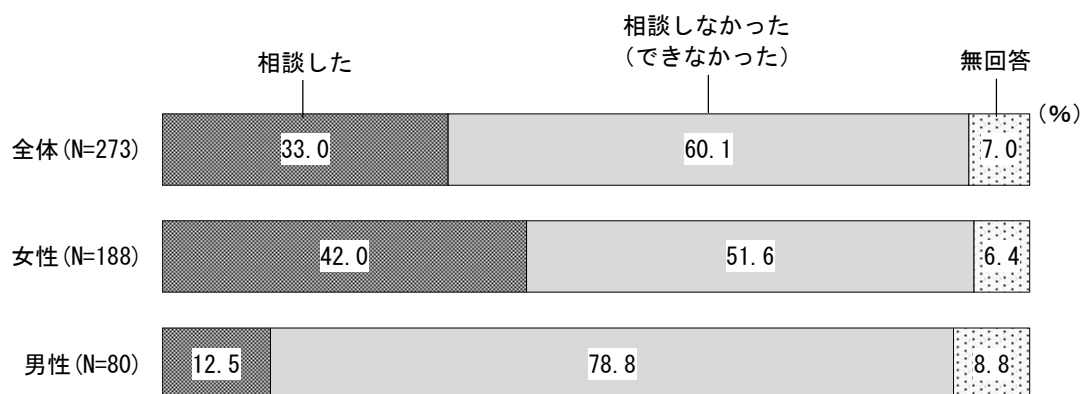
《暴力を受けた経験がある》と回答した人に、相談の有無をたずねました。

全体では、「相談した」が 33.0%、「相談しなかった(できなかった)」が 60.1%となっています。(図表 8-2-1)

【性別】

性別にみると、「相談した」は女性が 42.0%、男性が 12.5%で、女性が男性を 29.5 ポイント上回っています。(図表 8-2-1)

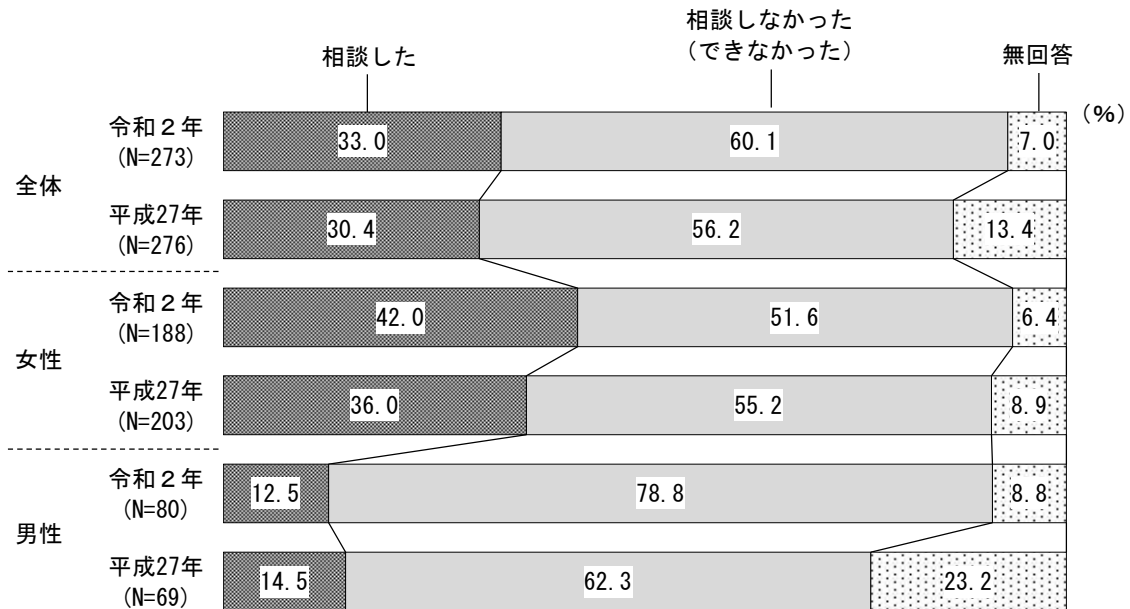
図表 8-2-1 相談の有無(全体、性別)
＜暴力を受けた経験がある人＞



【平成 27 年調査との比較】

「相談した」割合について平成 27 年調査と比較すると、女性（42.0%）は平成 27 年調査（36.0%）よりも 6.0 ポイント増えています。男性（12.5%）は平成 27 年調査（14.5%）よりも 2.0 ポイント減っています。（図表 8-2-3）

図表 8-2-3 相談の有無（全体、性別、平成 27 年調査）＜暴力を受けた経験がある人＞



(3) 相談先

問 17 で「1. 相談した」とお答えの方に
 問 17-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（○はあてはまるものすべて）

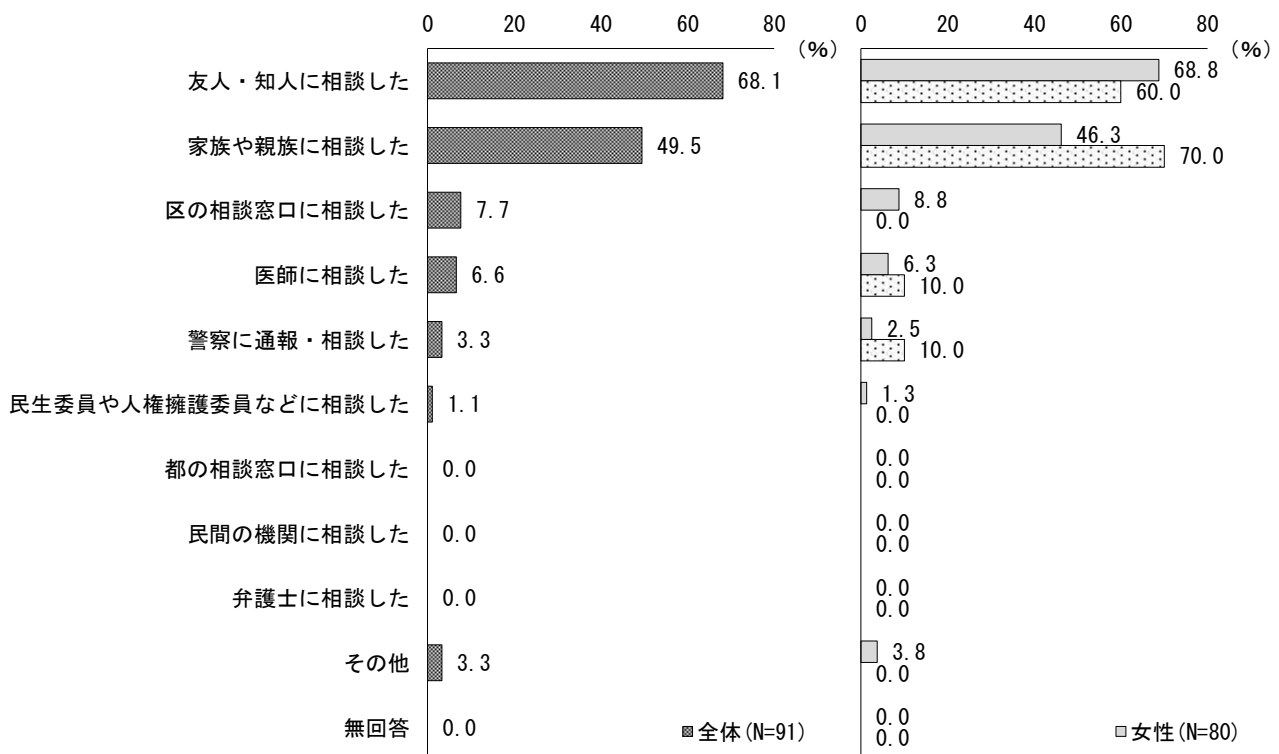
【全体】

暴力を受けたことを「相談した」と回答した人に、相談先をたずねました。
 全体では、「友人・知人に相談した（68.1%）」が6割台で最も多く、「家族や親族に相談した（49.5%）」が続いています。（図表 8-3-1）

【性別】

性別にみると、女性では「友人・知人に相談した（68.8%）」が最も多く「家族や親族に相談した（46.3%）」が続きます。
 男性では「家族や親族に相談した（70.0%）」が最も多く、「友人・知人に相談した（60.0%）」が続いています。（図表 8-3-1）

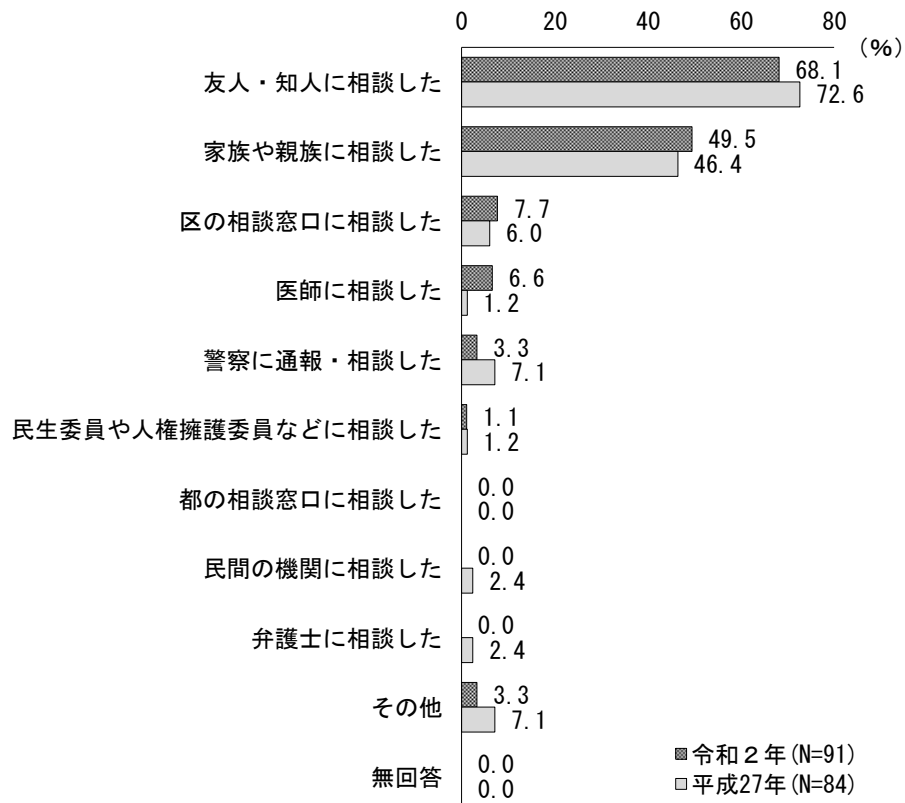
図表 8-3-1 相談先（全体、性別：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、1 位「友人・知人に相談した（令和 2 年調査：68.1%、平成 27 年調査：72.6%）」、2 位「家族に相談した（令和 2 年調査：49.5%、平成 27 年調査：46.4%）」の順位に変わりありませんが、「友人・知人に相談した」が 4.5 ポイント減り、「家族に相談した」が 3.1 ポイント増えています。（図表 8-3-2）

図表 8-3-2 相談先（全体、平成 27 年調査：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



(4) 相談しなかった、できなかった理由

問 17 で「2. 相談しなかった (できなかった)」とお答えの方に
 問 17-2 だれ (どこ) にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 (○はあてはまるものすべて)

【全体】

暴力を受けたことを「相談しなかった (できなかった)」と回答した人に、その理由をたずねました。

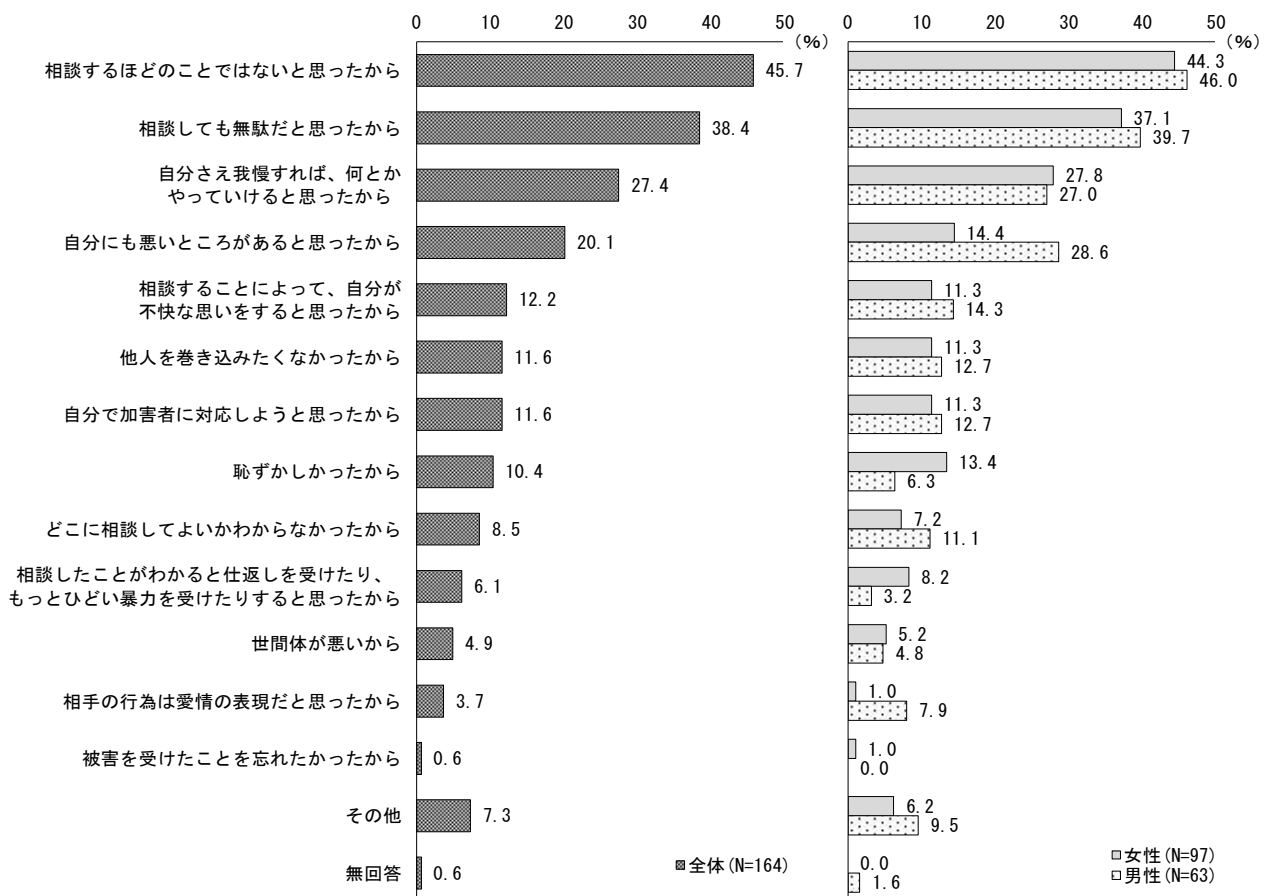
全体では、「相談するほどのことではないと思ったから (45.7%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから (38.4%)」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていたらよかったから (27.4%)」、「自分にも悪いところがあったらよかったから (20.1%)」が続いています。(図表 8-4-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから (女性：44.3%、男性：46.0%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから (女性：37.1%、男性 39.7%)」が続いています。

男女の違いをみると、男性は「自分にも悪いところがあったらよかったから (女性：14.4%、男性：28.6%)」が女性よりも 14.2 ポイント上回っています。(図表 8-4-1)

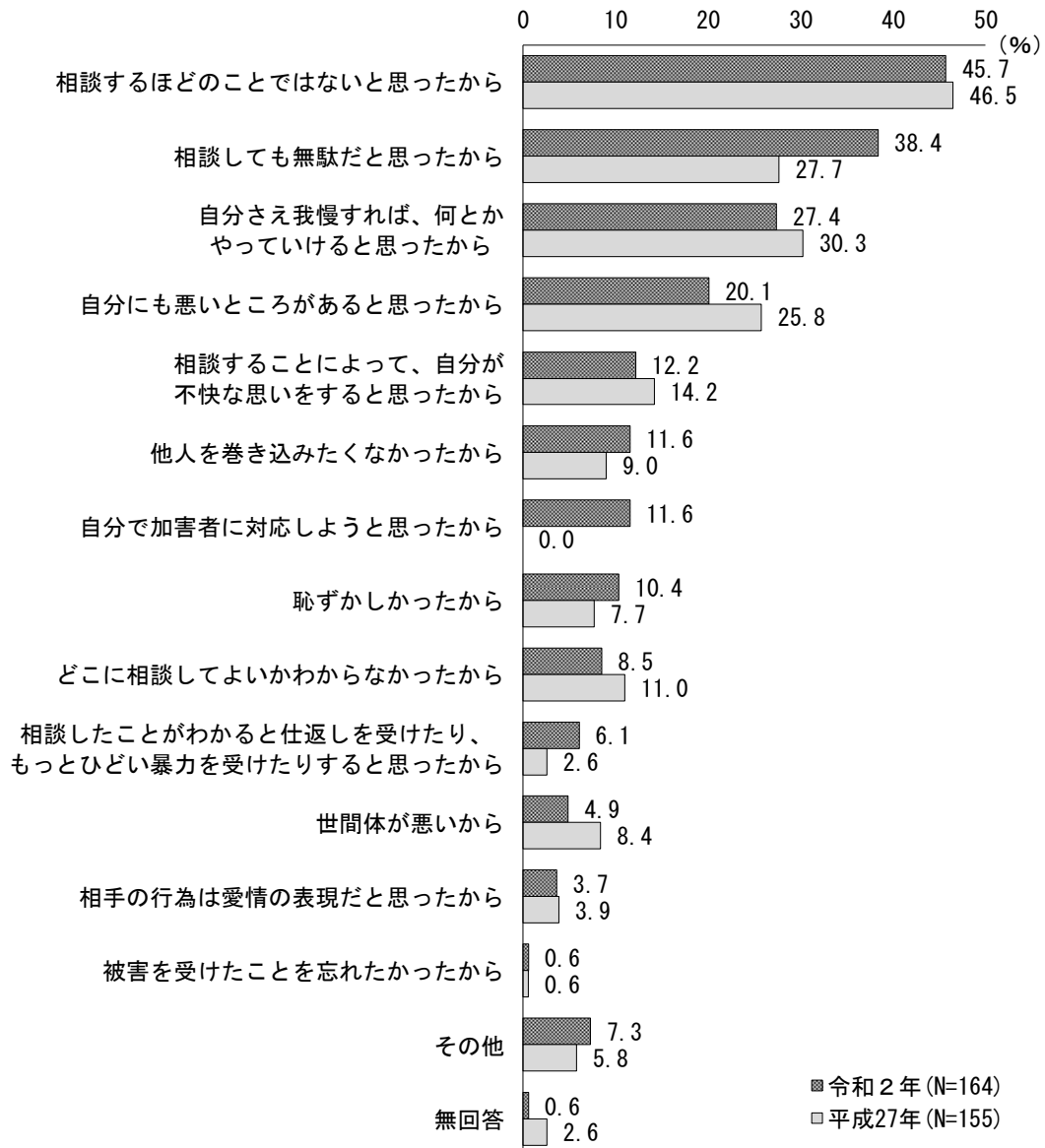
図表 8-4-1 相談しなかった、できなかった理由 (全体、性別：複数回答)
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった (できなかった) 人>



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから (38.4%)」が 10.7 ポイント増えています。(図表 8-4-2)

図表 8-4-2 相談しなかった、できなかった理由 (全体、平成 27 年調査：複数回答)
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった (できなかった) 人>



(5) ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策

問 18 あなたは、ドメスティック・バイオレンスの防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

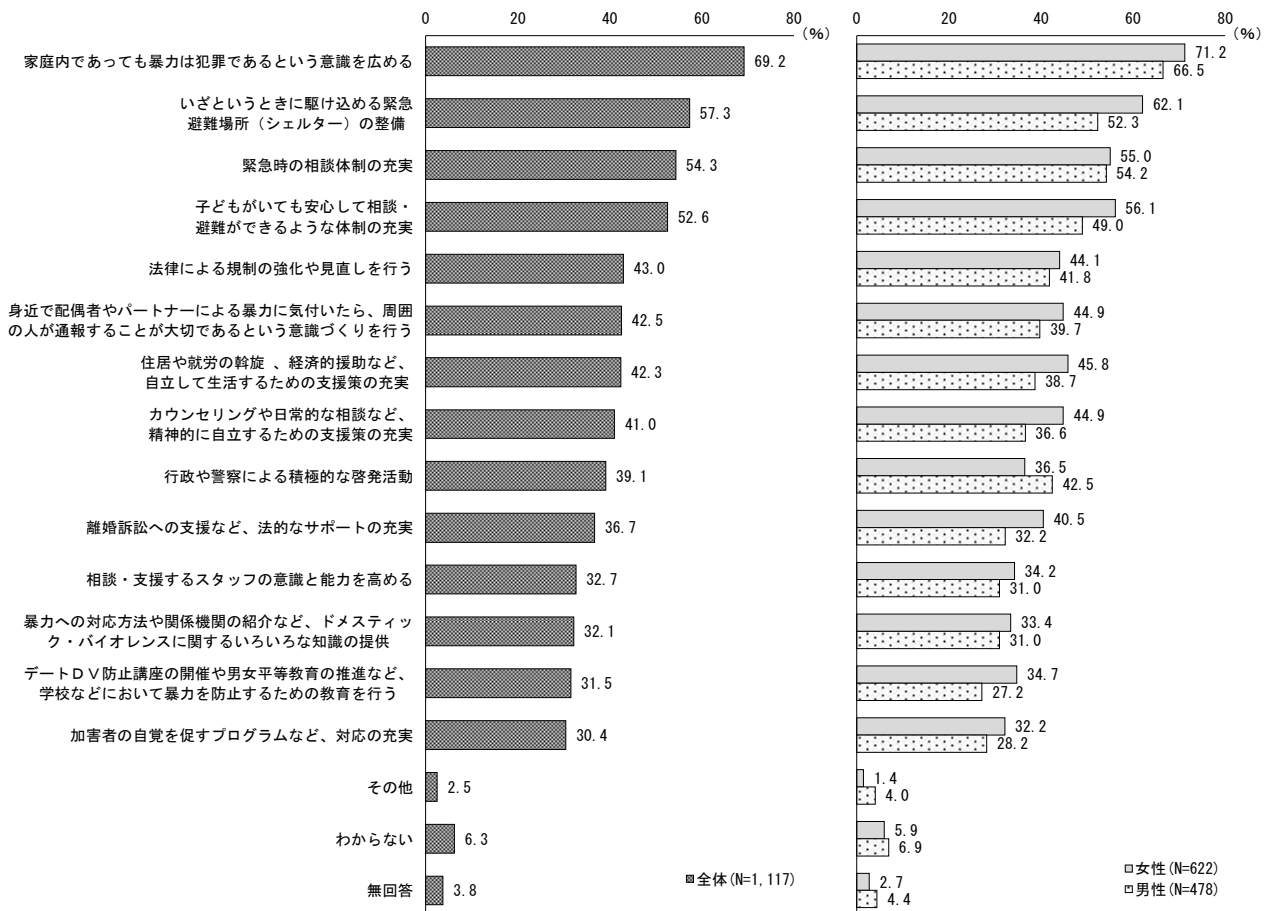
全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識の啓発 (69.2%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所 (シェルター) の整備 (57.3%)」、「緊急時の相談体制の充実 (54.3%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実 (52.6%)」が続いています。(図表 8-5-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発 (女性：71.2%、男性：66.5%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、女性は「いざというときに駆け込める緊急避難場所 (シェルター) の整備 (女性：62.1%、男性：52.3%)」で男性を 9.8 ポイント上回っています。(図表 8-5-1)

図表 8-5-1 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策 (全体、性別：複数回答)



9 性の表現

(1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識

問 19 テレビ、ビデオ、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や、女性に対する暴力、身体、性の表現について、あなたは日頃どのように感じていますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない (29.0%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (22.9%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている (22.6%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ (20.7%)」が続いています。(図表 9-1-1)

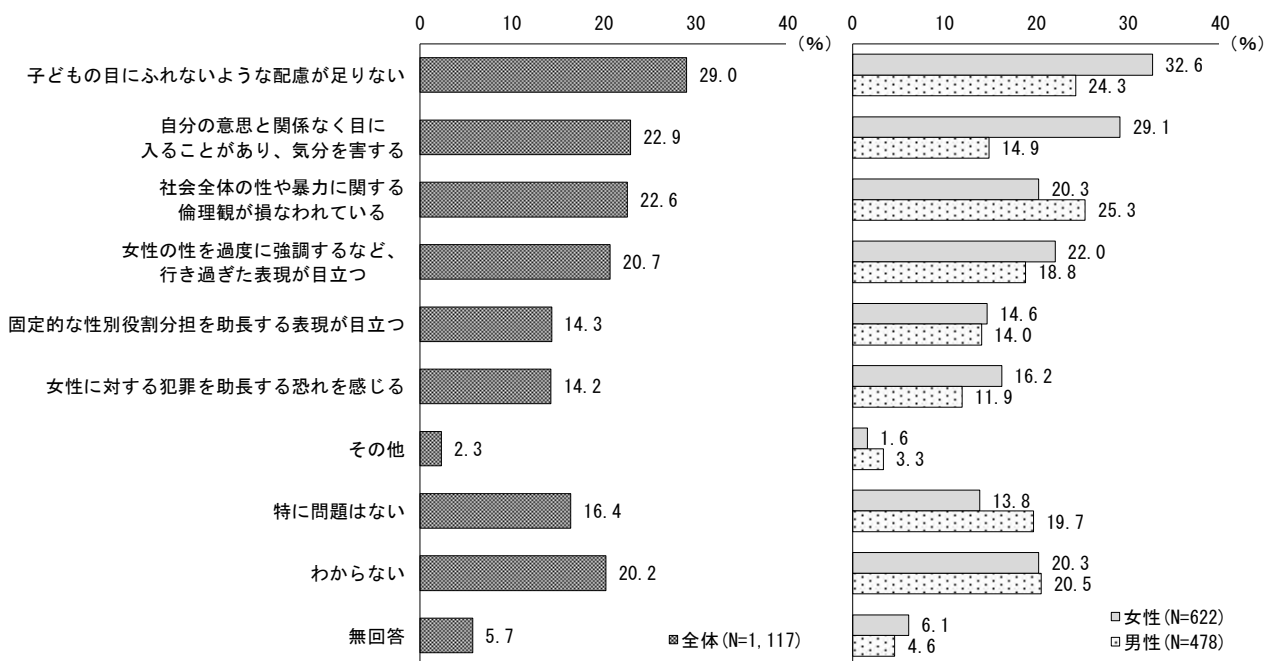
【性別】

性別にみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない (32.6%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (29.1%)」「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ (22.0%)」が続いています。

男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている (25.3%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない (24.3%)」が続いています。

男女の違いをみると、女性は「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (女性：29.1%、男性：14.9%)」で男性を 14.2 ポイント上回っています。また、男性は「特に問題はない (女性：13.8%、男性：19.7%)」で女性を 5.9 ポイント上回っています。(図表 9-1-1)

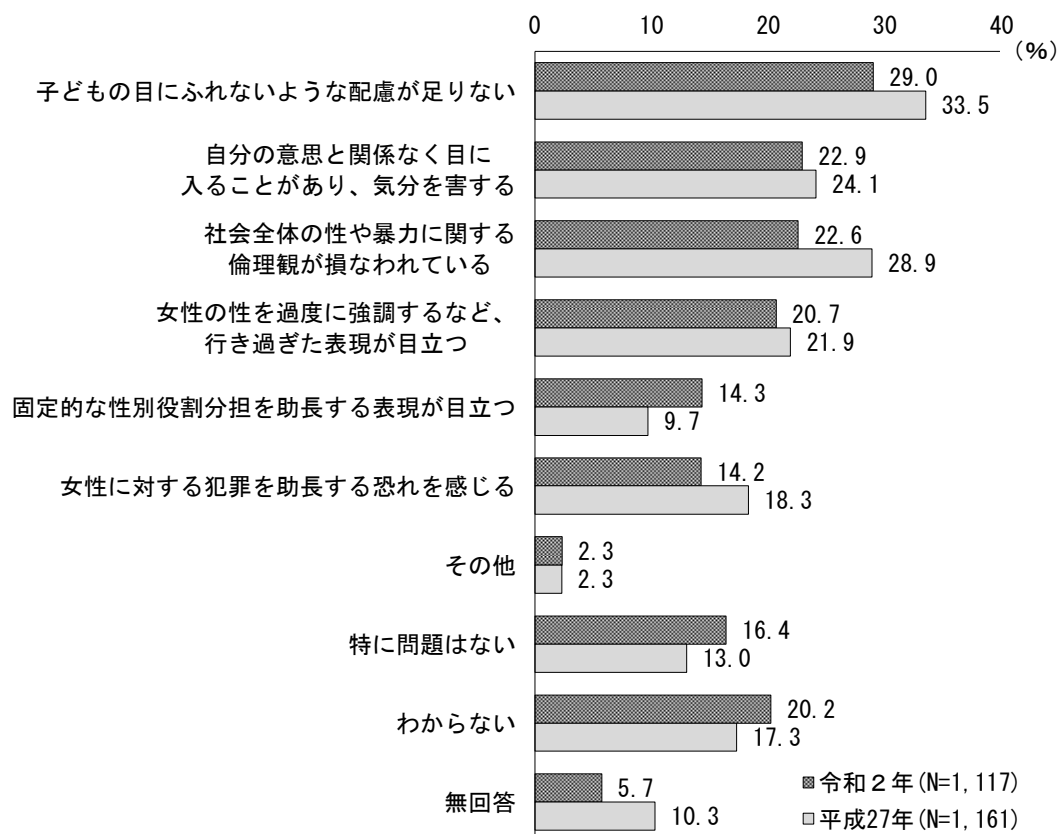
図表 9-1-1 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識 (全体、性別：複数回答)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている（令和 2 年調査：22.6%、平成 27 年調査：28.9%）」、「子どもの目にふれないような配慮が足りない（令和 2 年調査：29.0%、平成 27 年調査：33.5%）」は、平成 27 年調査に比べてそれぞれ 6.3 ポイント、4.5 ポイント減っていますが、「固定的な性別役割分担を助長する表現が目立つ（令和 2 年調査：14.3%、平成 27 年調査 9.7%）」は、4.6 ポイント増えています。（図表 9-1-2）

図表 9-1-2 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
（全体、平成 27 年調査：複数回答）



10 性の多様性

(1) 性自認について悩んだことの有無

問 20 あなたは今まで自分の性別について悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

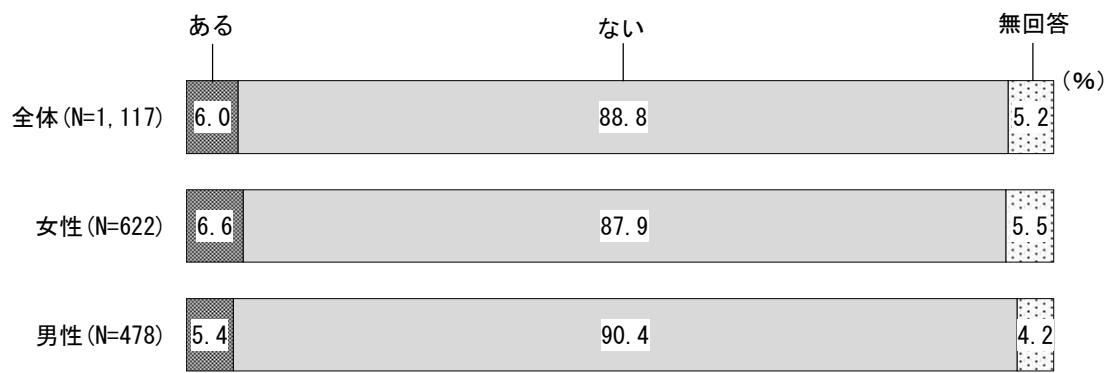
【全体】

全体では、「ある」が6.0%、「ない」が88.8%となっています。(図表 10-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は「ある」が6.6%、男性は「ある」が5.4%となっています。(図表 10-1-1)

図表 10-1-1 性自認について悩んだことの有無 (全体、性別)



問 20 で「1. ある」とお答えの方に
問 20-1 どのようなことで悩みましたか。(○はあてはまるものすべて)

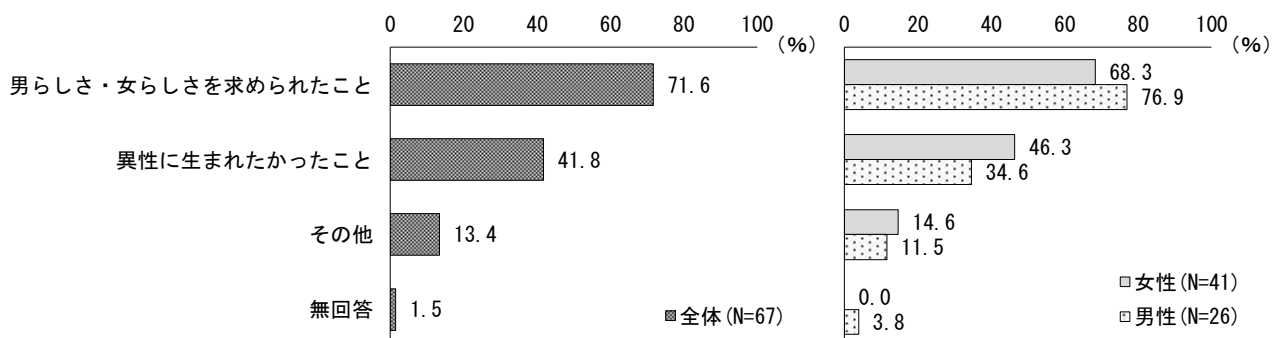
【全体】

全体では、「男らしさ・女らしさを求められた」が71.6%、「異性に生まれたかったこと」が41.8%となっています。(図表 10-1-2)

【性別】

性別にみると、女性は「男らしさ・女らしさを求められた」が68.3%、「異性に生まれたかったこと」が46.3%となっています。男性は「男らしさ・女らしさを求められた」が76.9%、「異性に生まれたかったこと」が34.6%となっています。(図表 10-1-2)

図表 10-1-2 性自認について悩んだ内容 (全体、性別)



(2) LGBTの認知状況

問 21 あなたはLGBTという言葉をご存じですか。(〇は1つだけ)

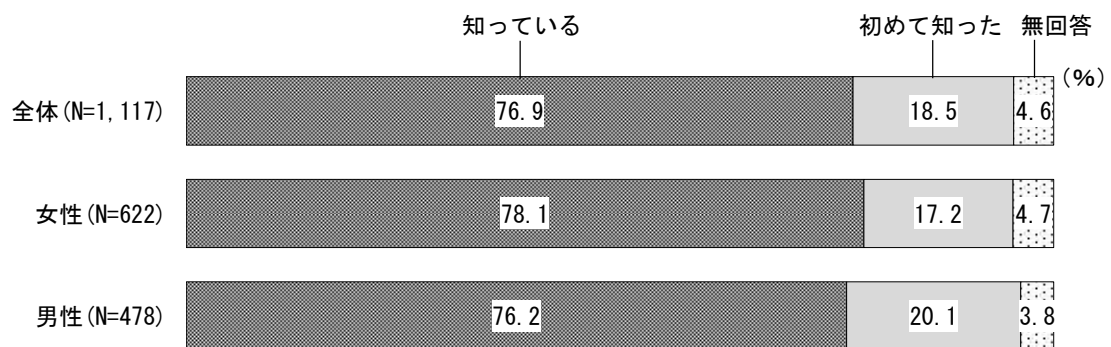
【全体】

全体では、「知っている」が76.9%、「初めて知った」が18.5%となっています。(図表 10-2)

【性別】

性別にみると、女性は「知っている」が78.1%、男性は「知っている」が76.2%となっています。(図表 10-2)

図表 10-2 LGBTの認知状況 (全体、性別)



11 健康

(1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと

問 22 あなたは、女性が自分の健康を守るために、性や妊娠・出産に関して自分で決めるうえで、どのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

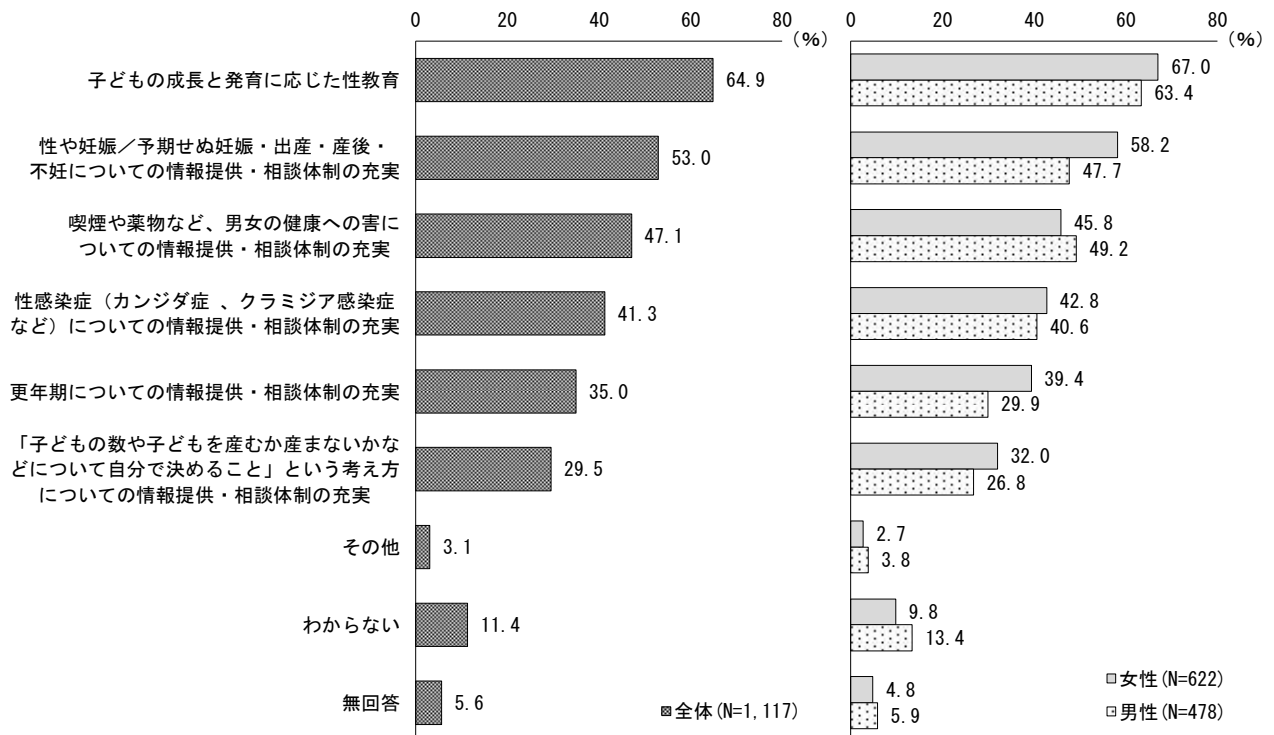
【全体】

全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育 (64.9%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実 (53.0%)」、「喫煙や薬物等、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実 (47.1%)」が続いています。(図表 11-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実 (女性：58.2%、男性：47.7%)」「子どもの成長と発育に応じた性教育 (女性：67.0%、男性：63.4%)」で男性をそれぞれ 10.5 ポイント、3.6 ポイント上回っています。(図表 11-1-1)

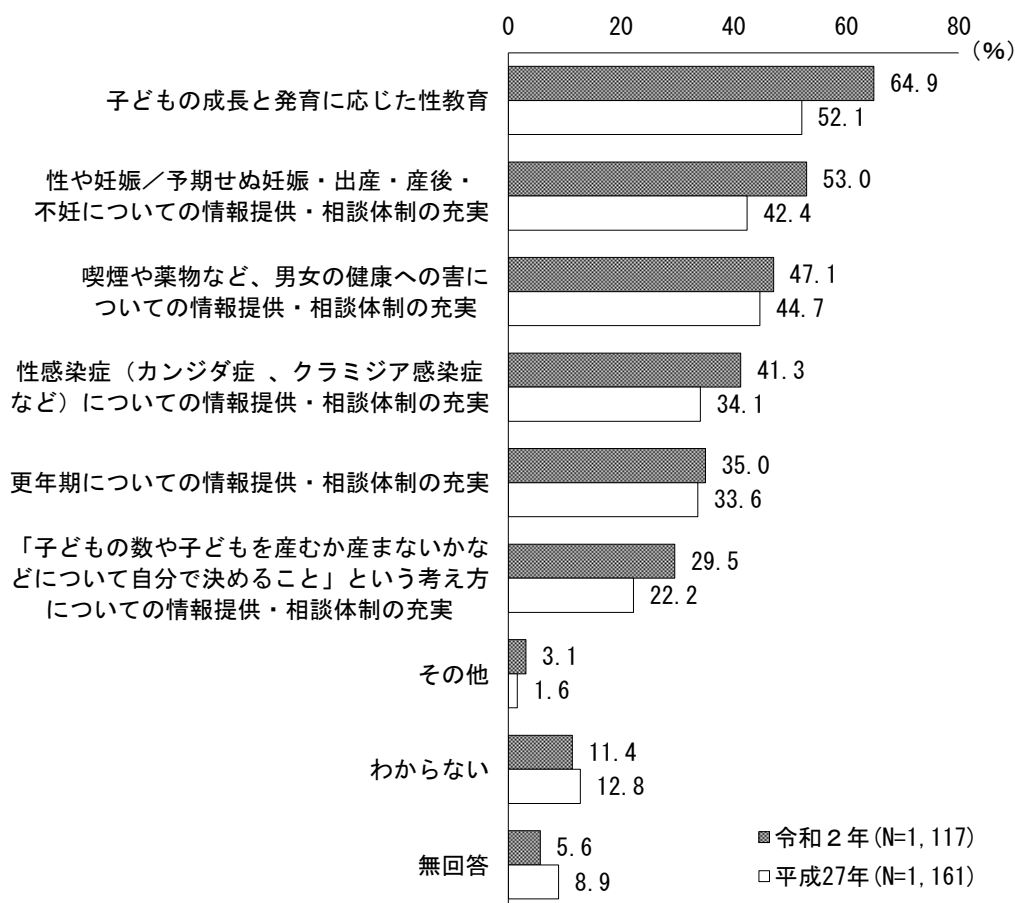
図表 11-1-1 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと (全体、性別：複数回答)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全ての項目において平成 27 年調査よりも増えています。(図表 11-1-2)

図表 11-1-2 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(全体、平成 27 年調査：複数回答)



12 学校教育

(1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと

問 23 あなたは、男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

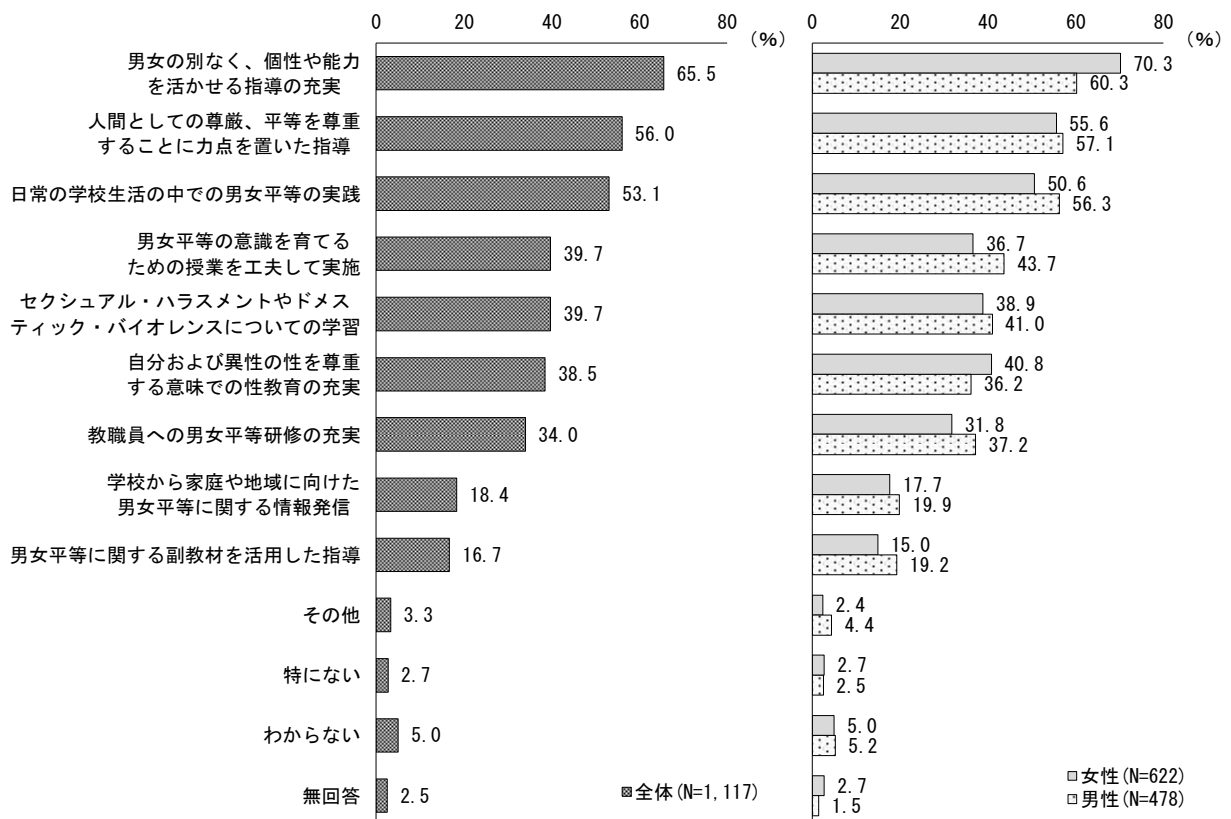
【全体】

全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実 (65.5%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導 (56.0%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践 (53.1%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施 (39.7%)」「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習 (39.7%)」が続いています。(図表 12-1-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実 (女性： 70.3%、男性： 60.3%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導 (女性： 55.6%、男性： 57.1%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践 (女性： 50.6%、男性： 56.3%)」が続いています。(図表 12-1-1)

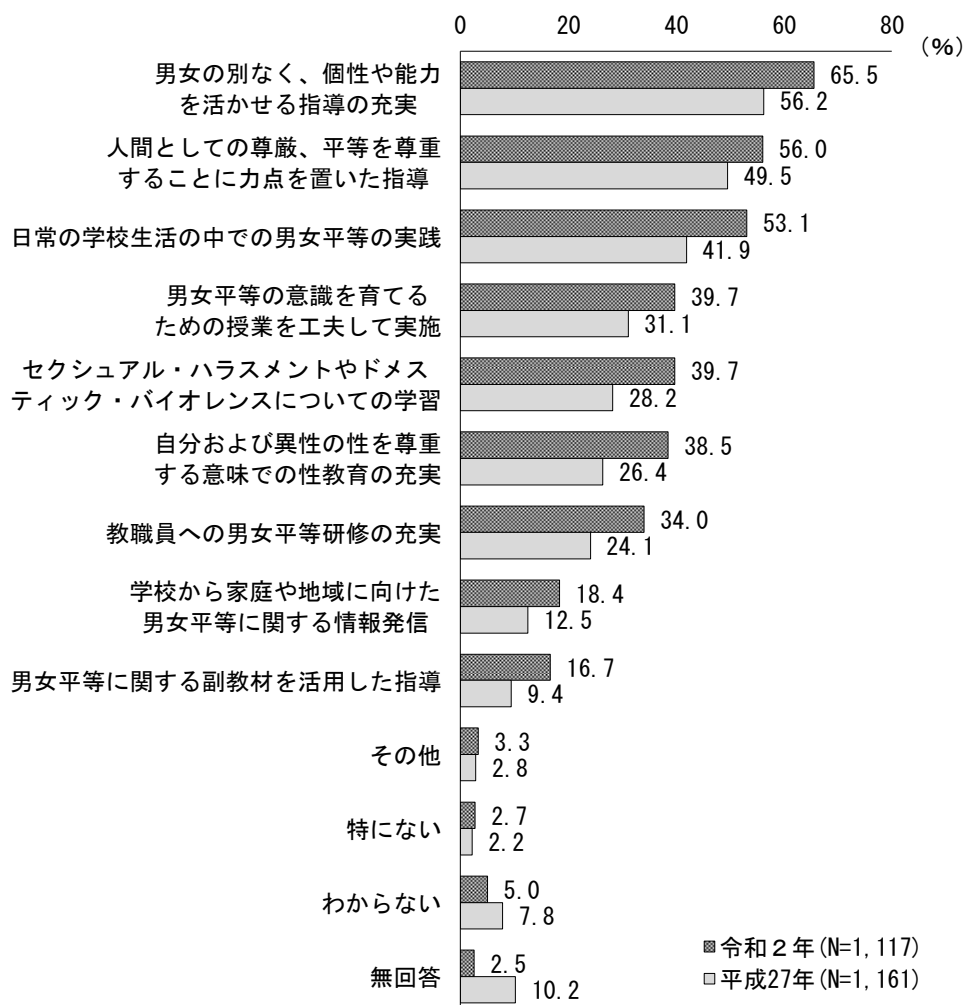
図表 12-1-1 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、性別：複数回答)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全ての項目において平成 27 年調査よりも増えています。(図表 12-1-2)

図表 12-1-2 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、平成 27 年調査：複数回答)



13 女性の社会参画

(1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価

問 24 葛飾区では、区の施策に女性の意見が十分に反映されるよう、審議会などの施策・方針決定過程への女性参画を推進しております。そのため、「葛飾区男女平等推進計画（第5次）」（平成29年度～令和3年度）の計画期間中に審議会などへの女性の参画率を、令和3年度末に32%以上とすることを目標としています。現在、区議会議員の中に占める女性議員の数は38人中11人（28.9%）、審議会などの女性委員は966人中280人（29.0%）となっています。あなたは、この状況をどのように思いますか。（○は1つだけ）

【全体】

全体では、「もう少し女性が増えたほうがよい（33.2%）」が最も多く、「男女半々くらいまで増えたほうがよい（31.8%）」が続いています。

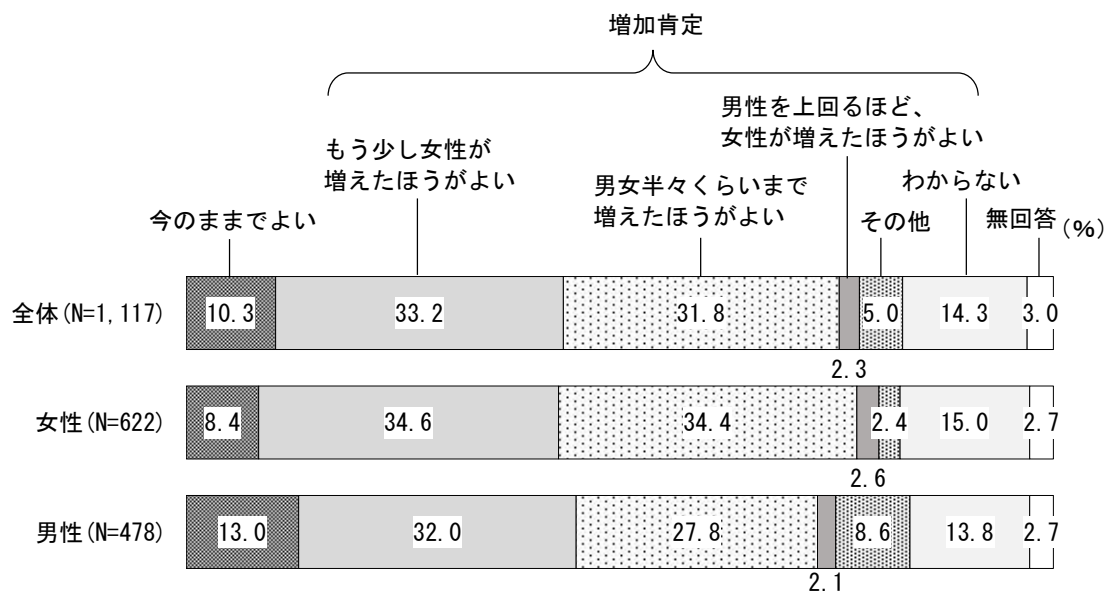
「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、67.3%となっています。（図表13-1-1）

【性別】

性別にみると、女性は「もう少し女性が増えたほうがよい（女性：34.6%、男性：32.0%）」で男性を2.6ポイント上回っています。一方で、男性は「今のままでよい（女性：8.4%、男性：13.0%）」で女性を4.6ポイント上回っています。

《増加肯定》は女性（71.6%）が男性（61.9%）を9.7ポイント上回っています。（図表13-1-1）

図表 13-1-1 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別）



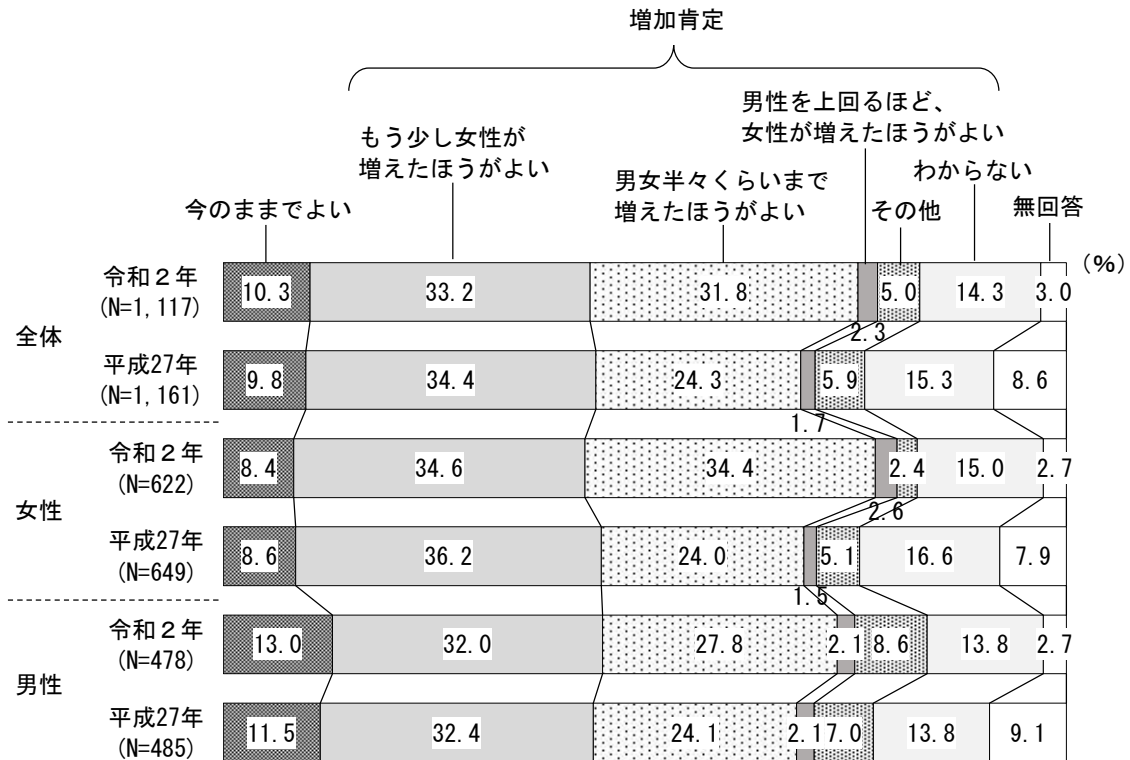
【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、女性は「今のままでよい」、「もう少し女性が増えたほうがよい」が減っていますが「男女半々くらいまで増えたほうがよい」が増加しています。

男性は「今のままでよい」がやや増加していますが、「男女半々くらいまで増えたほうがよい」も増加しています。

《増加肯定》をみると、女性は平成 27 年調査の 61.7%から 71.6%に 9.9 ポイント、男性は平成 27 年調査の 58.6%から 61.9%に 3.3 ポイント増えています。(図表 13-1-2)

図表 13-1-2 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別、平成 27 年調査）



(2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因

問 25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

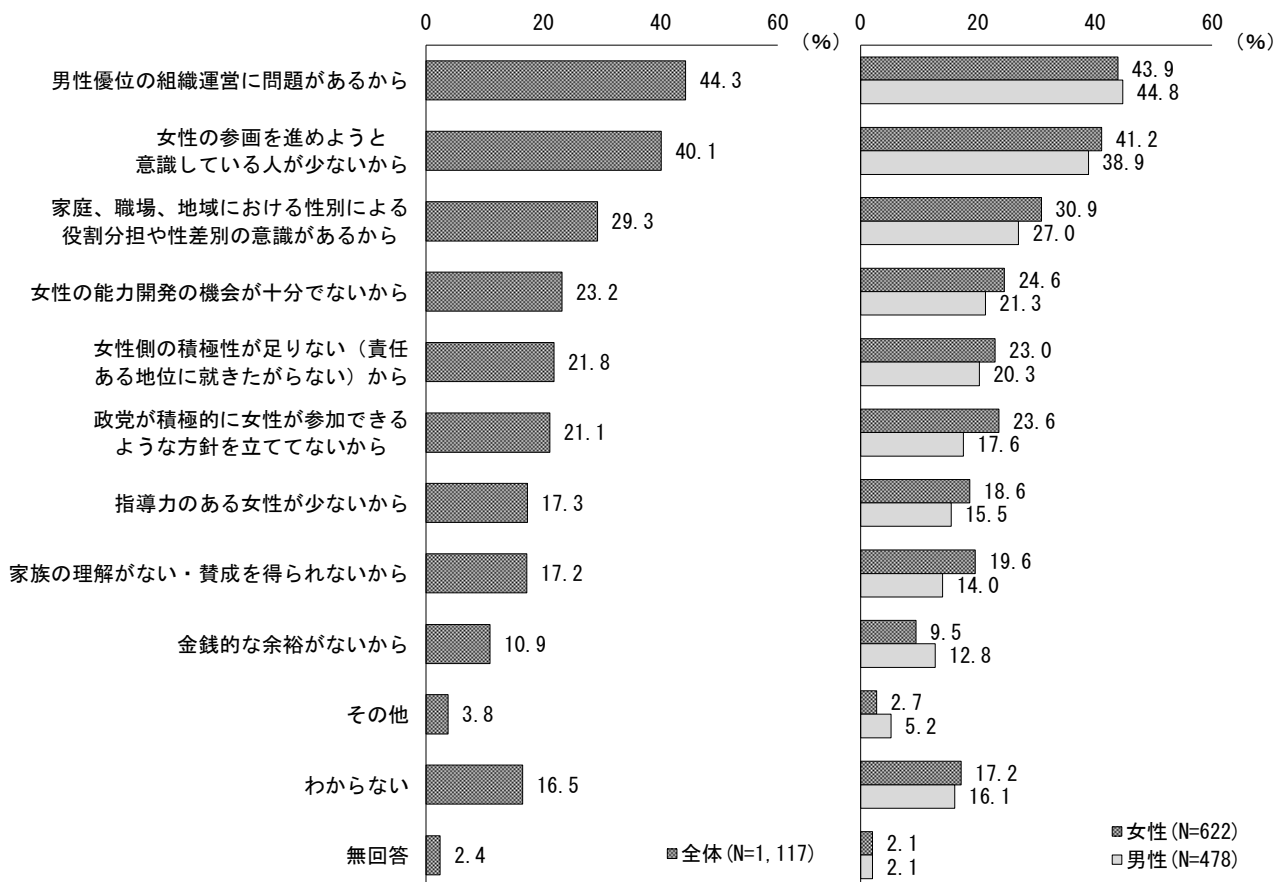
全体では、「男性優位の組織運営に問題があるから (44.3%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ないから (40.1%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識があるから (29.3%)」、「女性の能力開発の機会が十分でないから (23.2%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない) から (21.8%)」が続いています。(図表 13-2)

【性別】

性別にみると、女性は「政党が積極的に女性が参加できるような方針を立ててないから (女性：23.6%、男性：17.6%)」、「家族の理解がない・賛成を得られないから (女性：19.6%、男性：14.0%)」がそれぞれ男性を6.1ポイント、5.6ポイント上回っています。

男性は「金銭的な余裕がないから (女性：9.5%、男性 12.8%)」、「男性優位の組織運営に問題があるから (女性：43.9%、男性：44.9%)」が女性を上回っています。(図表 13-2)

図表 13-2-1 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因 (全体、性別：複数回答)



(3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと

問 26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

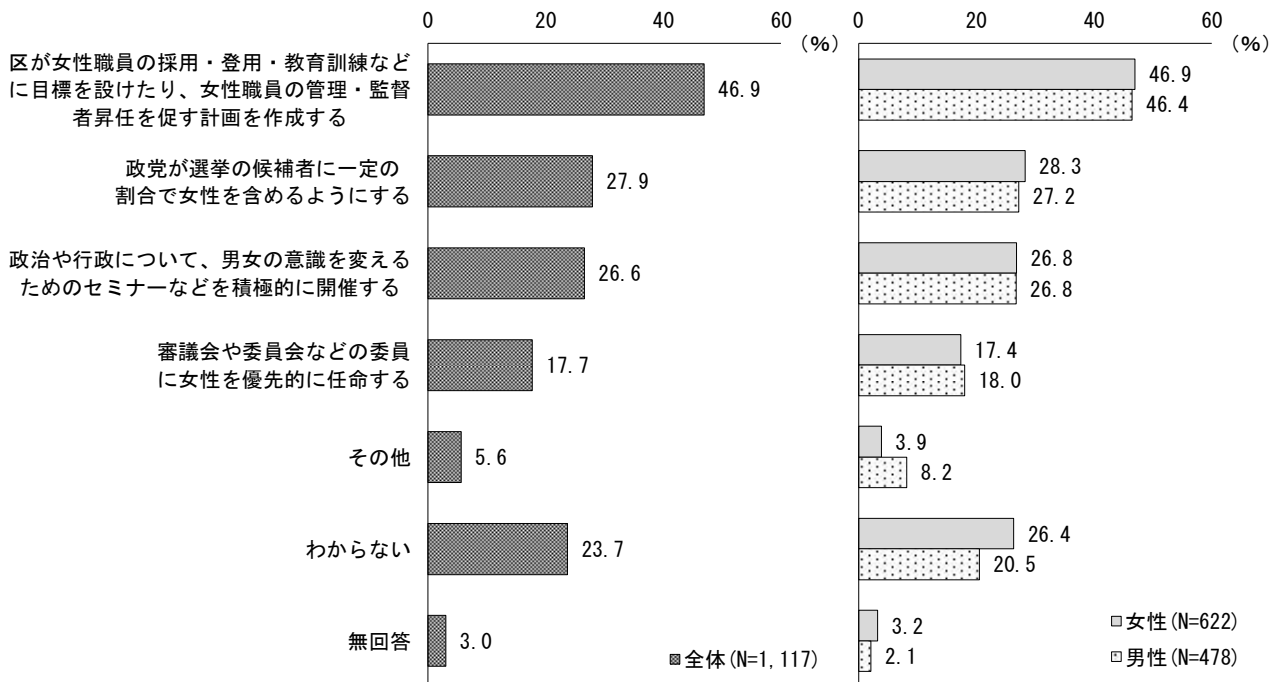
【全体】

全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する (46.9%)」が最も多く、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする (27.9%)」、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナー等を積極的に開催する (26.6%)」が続いています。(図表 13-3)

【性別】

性別にみても、全体と同様の結果となっています。(図表 13-3)

図表 13-3 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと (全体、性別)



14 防災

(1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと

問 27 東日本大震災の発生以降、日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われるようになりました。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

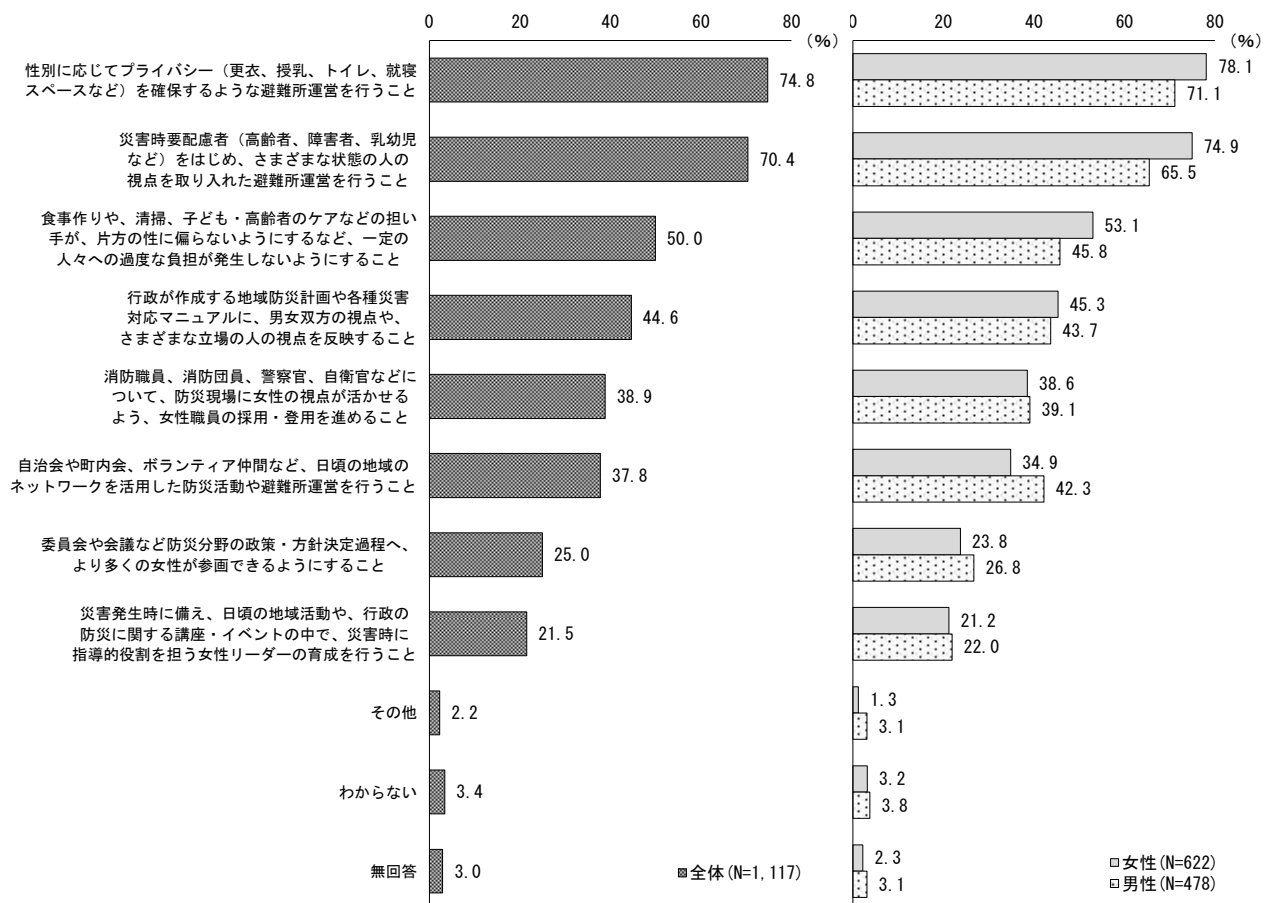
【全体】

全体では、「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと（74.8%）」、「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと（70.4%）」が7割台となっています。(図表 14-1)

【性別】

性別にみると、女性は「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと（女性：78.1%、男性：71.1%）」、「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと（女性：74.9%、男性：65.5%）」などで男性を上回っています。(図表 14-1)

図表 14-1 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
(全体、性別：複数回答)



15 施策や制度など

(1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況

問 28 「葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）」は、誰もが自分らしく生きていける男女平等社会の実現を目指す、学びと交流の場です。あなたは、葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）を知っていますか。（○は1つだけ）

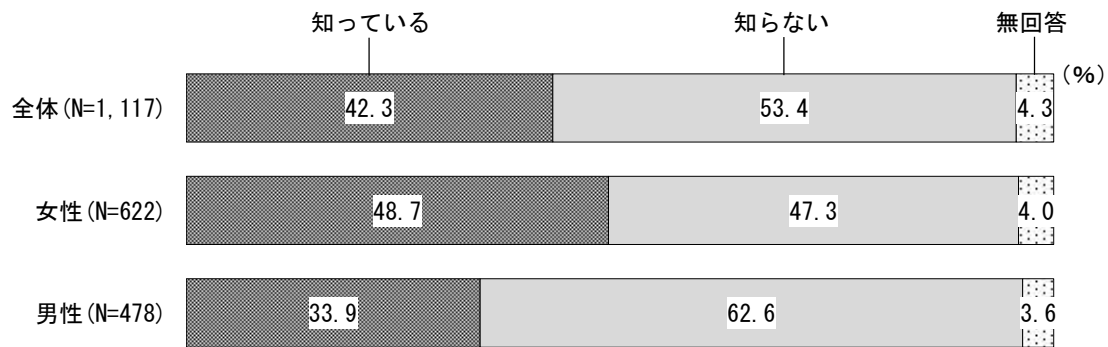
【全体】

全体では、「知っている」が42.3%、「知らない」が53.4%となっています。（図表 15-1）

【性別】

性別にみると、女性は「知っている（48.7%）」が「知らない（47.3%）」よりも多くなっています。一方、男性は「知らない（62.6%）」が「知っている（33.9%）」よりも多くなっています。（図表 15-1）

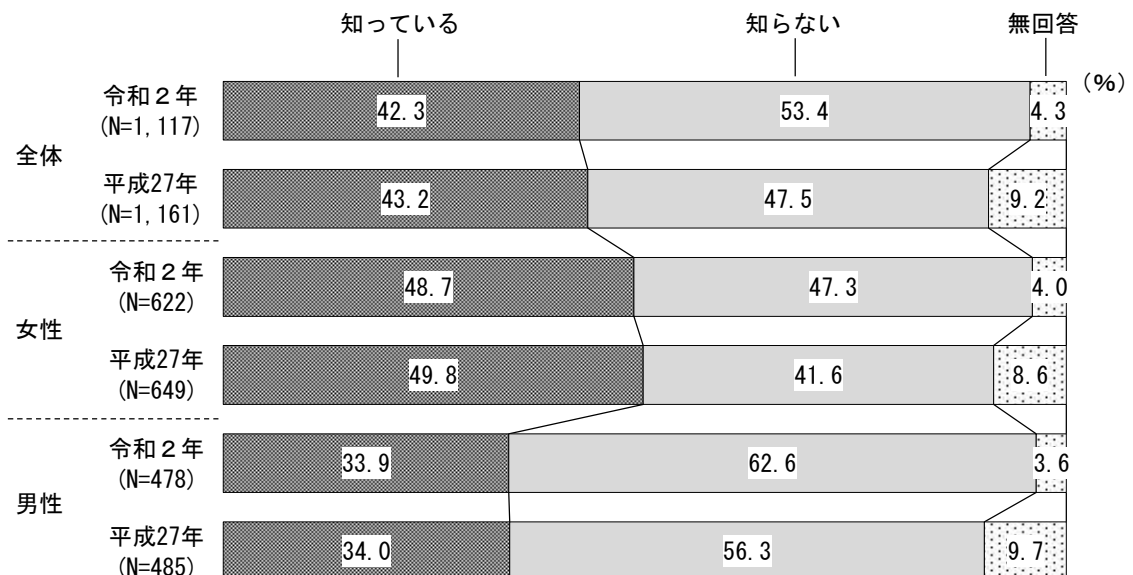
図表 15-1 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別）



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、「知っている」は全体（42.3%）では0.9ポイント減っています。性別にみると、女性（48.7%）は1.1ポイント減り、男性（33.9%）も0.1ポイント減っています。（図表 15-1-3）

図表 15-1-3 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別、平成 27 年調査）



(2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向

問 29 葛飾区男女平等推進センターにおいて、あなたが参加または利用してみたいものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

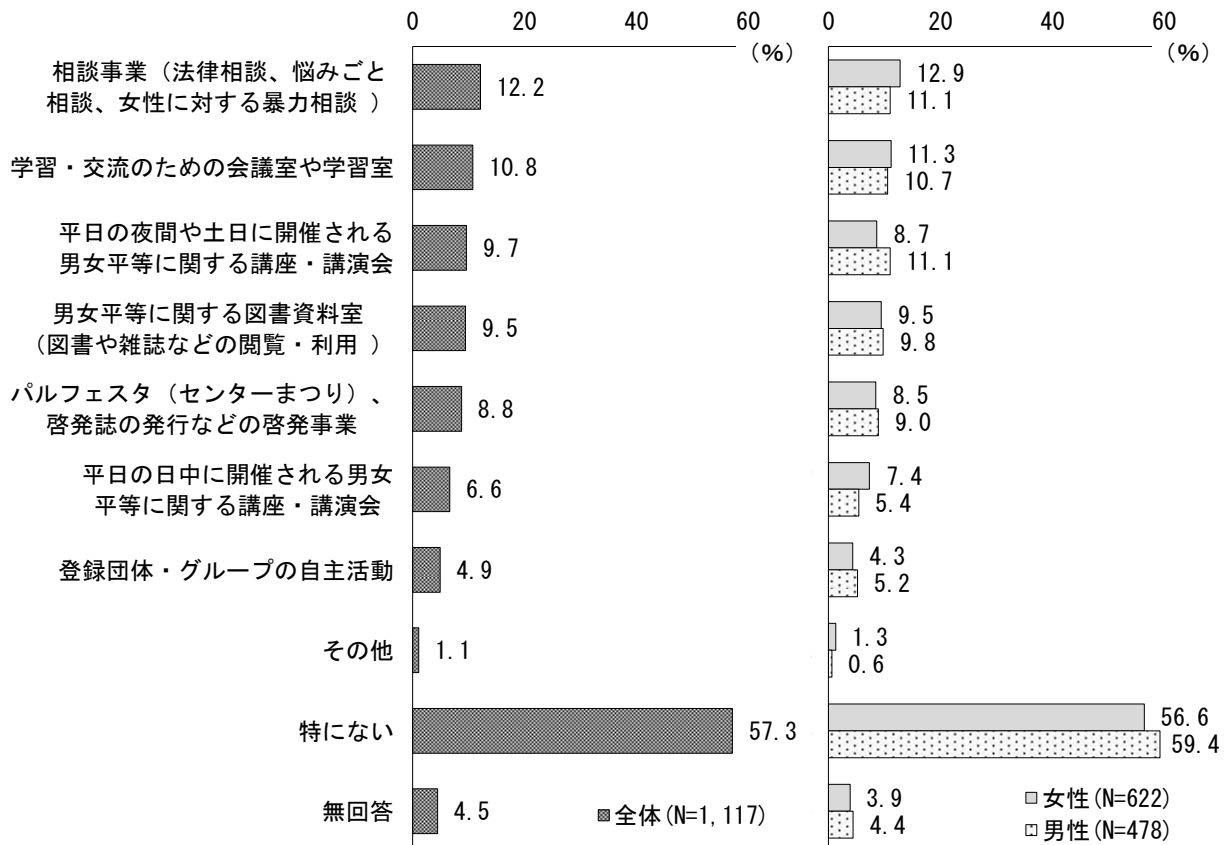
【全体】

全体では、「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）（12.2%）」が最も多く、「学習・交流のための会議室や学習室（10.8%）」、「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会（9.7%）」、「男女平等に関する図書資料室（図書や雑誌等の閲覧・利用など）（9.5%）」が続いています。（図表 15-2）

【性別】

性別にみると、女性は「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）（女性：12.9%、男性：11.1%）」が最も多く、男性を1.8ポイント上回っています。（図表 15-2）

図表 15-2 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向（全体、性別：複数回答）



(3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策

問 30 あなたは男女平等社会を実現するために、今後、区ではどのような施策を充実したらよいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

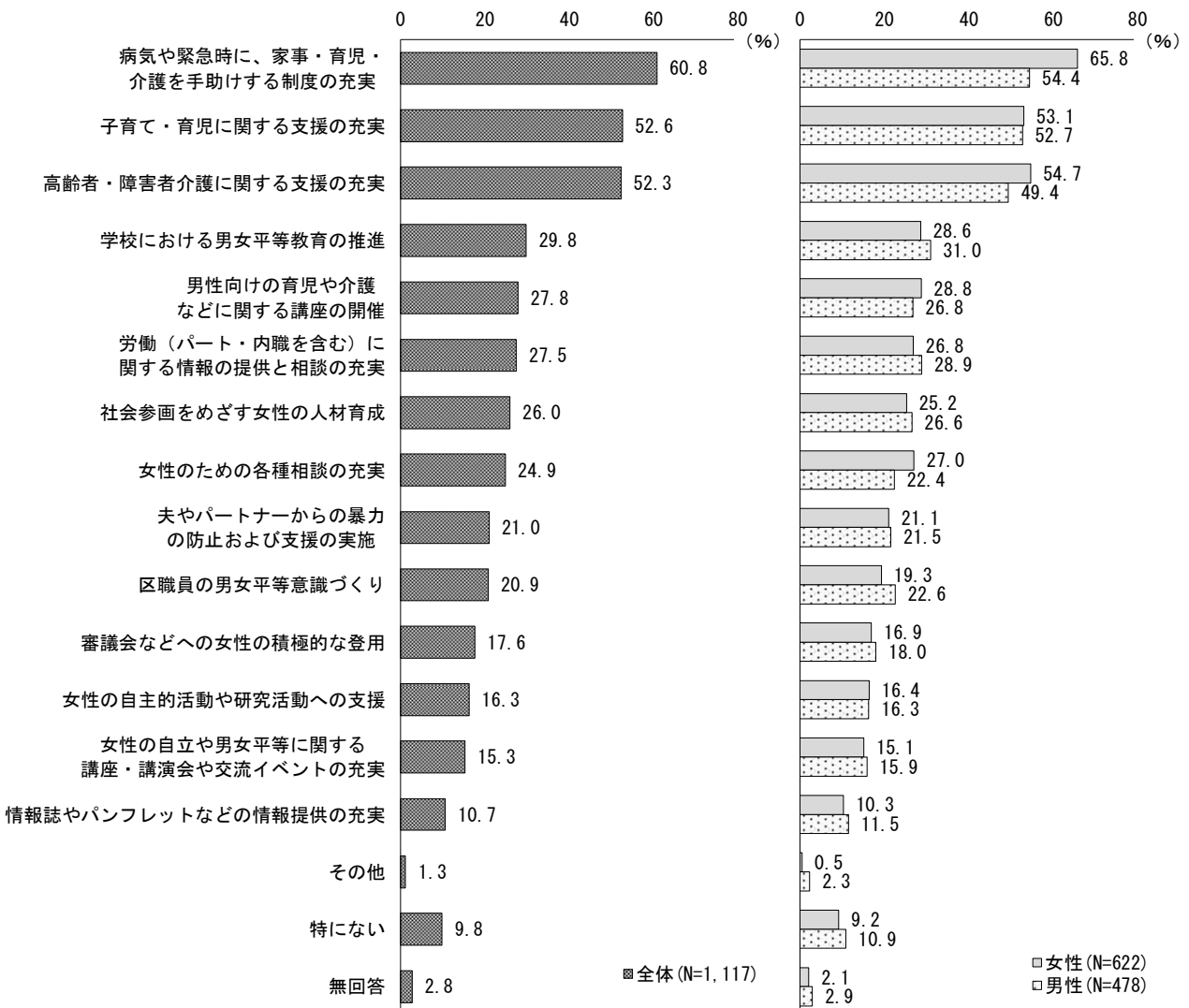
【全体】

全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実 (60.8%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実 (52.6%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (52.3%)」が続いています。(図表 15-3-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実 (女性：65.8%、男性 54.4%)」が最も多く、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (54.7%)」、「子育て・育児に関する支援の充実 (53.1%)」が続いています。男性は「子育て・育児に関する支援の充実 (52.7%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (49.4%)」が続いています。(図表 15-3-1)

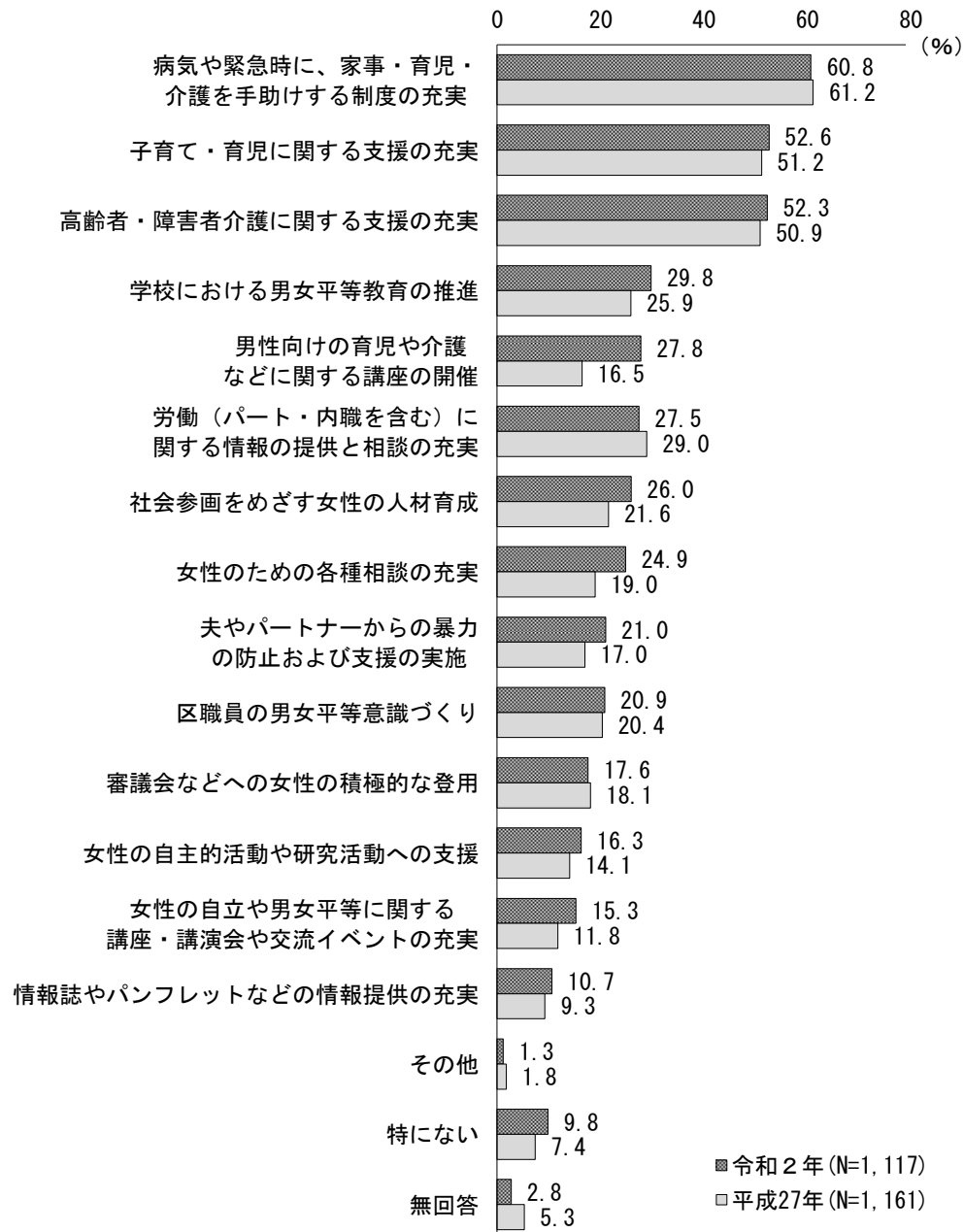
図表 15-3-1 男女平等社会実現のために充実すべき施策 (全体、性別：複数回答)



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「男性向けの育児や介護などに関する講座の開催」は、27.8%と平成 27 年調査（16.5%）よりも 11.3 ポイント上回っています。（図表 15-3-2）

図表 15-3-2 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、平成 27 年調査：複数回答）



16 自由回答

(1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望

問 31 最後に葛飾区の男女平等・共同参画施策全般についてのご意見・ご要望を自由にご記入ください。〈自由回答〉

区の男女平等・共同参画施策全般に対する意見については、160人（女性76人、男性84人）からご回答をいただきました。